

平成 29 (2017) 年度

全学教育機構年報



平成 31 年 1 月

全学教育機構 点検評価委員会

まえがき

近年、AI、ビッグデータ、IoT、ロボットなどの技術革新を背景に、社会は急速な変貌をとげようとしている。大学は今、これまでの教育プログラムに加えて AI・数理・データサイエンスの知見を活用できる人材育成のための新しい共通教育の枠組みの構築が急務である。

本学では、2014 年末に「茨城大学改革の基本方針」を策定して、「学生が成長する学生中心の大学」を目標に教育改革を推進している。教育目標として「変化の激しい 21 世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成すること」を示した。そして、そのために茨城大学の学生が卒業する時に身に付けているべき能力を、5 つの知識及び能力で構成されるディプロマ・ポリシー（DP）*として定めた。

全学教育機構は、本学の DP に即した人材を育成するため、全学的な観点から、教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価等を総括的にを行うことを目的に、1 年間の設置準備期間を経て、平成 29 年 4 月 1 日に本格稼働した。これまでの教養教育は大学教育センター（大教センター）が企画、運営、実施、点検評価を行っていたが、大教センターでは学生支援活動等と連携していなかった。一方、全学教育機構では、継続的な改善を伴う教育の質保証の全学的な統括、共通教育や学生支援の企画・運営、グローバル教育の推進などを担うため、4 部門 4 センターを設置している。部門には専任教員を配置し、センターには事務職員を配置し、学生の窓口業務を担当している。

本年報は、平成 29 年度における総合教育企画部門、共通教育部門、学生支援部門、国際教育部門の 4 部門の活動、全学教育機構内の委員会活動と全学教育機構に所属する専任教員の活動状況を取りまとめたものである。総合教育企画部門では、関係部署との連携による、共通教育と専門教育間の連携・調整、教育活動の点検・評価及び改善等並びに IR と結びついた総合的なエンrollment・マネジメントに関する基本方針の策定、企画及び運営を行っている。特に、平成 28 年度から大学教育再生加速プログラム(AP)の支援を受け、卒業時の質保証のモデルづくりを進めている。共通教育部門では、ディプロマ・ポリシーに基づく共通教育(基盤教育、プログラム教育及び大学院共通教育)の基本方針の策定、企画及び運営を行っている。共通部門にはプラクティカル・イングリッシュ部会を含む 12 部会と、共通教育全般に関する窓口の共通教育センターとがある。さらに、平成 30 年度に新たな部会として、AI・データサイエンス部会を立ち上げ、現在では 13 部会となっている。学生支援部門では、学修、生活、心身の健康、就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。学生支援部門には、学生支援の窓口として学生支援センターとキャリアセンターの 2 センターと茨大なんでも相談室とバリアフリー推進室の 2 室がある。国際教育部門では、留学生教育及び日本語教育を実施し、国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進している。国際教育部門には、グローバル教育を推進する窓口としてグローバル教育センターがある。本年報では平成 29 年度の部門活動の特色ある業務を取り上げている。これと本機構の委員会活動、教員の活動の経過と記録が要約されている。

このように本機構が発足以来、順調な歩みが続けることができたのは、三村学長、太田副学長（教育統括）、木村初代全学教育機構長をはじめ、これまでに本機構に関与された多くの方々の献身的なご尽力やご協力によるところが大である。関係各位に厚く御礼申しあげる。最後に、この創刊号をはじめ、本年報がこれからも、全学的な観点からの教育・学生支援に関心をお持ちの多くの方々によって広く利用されることを切に願うものである。

平成 31 年 1 月 23 日

全学教育機構長 栗原 和美

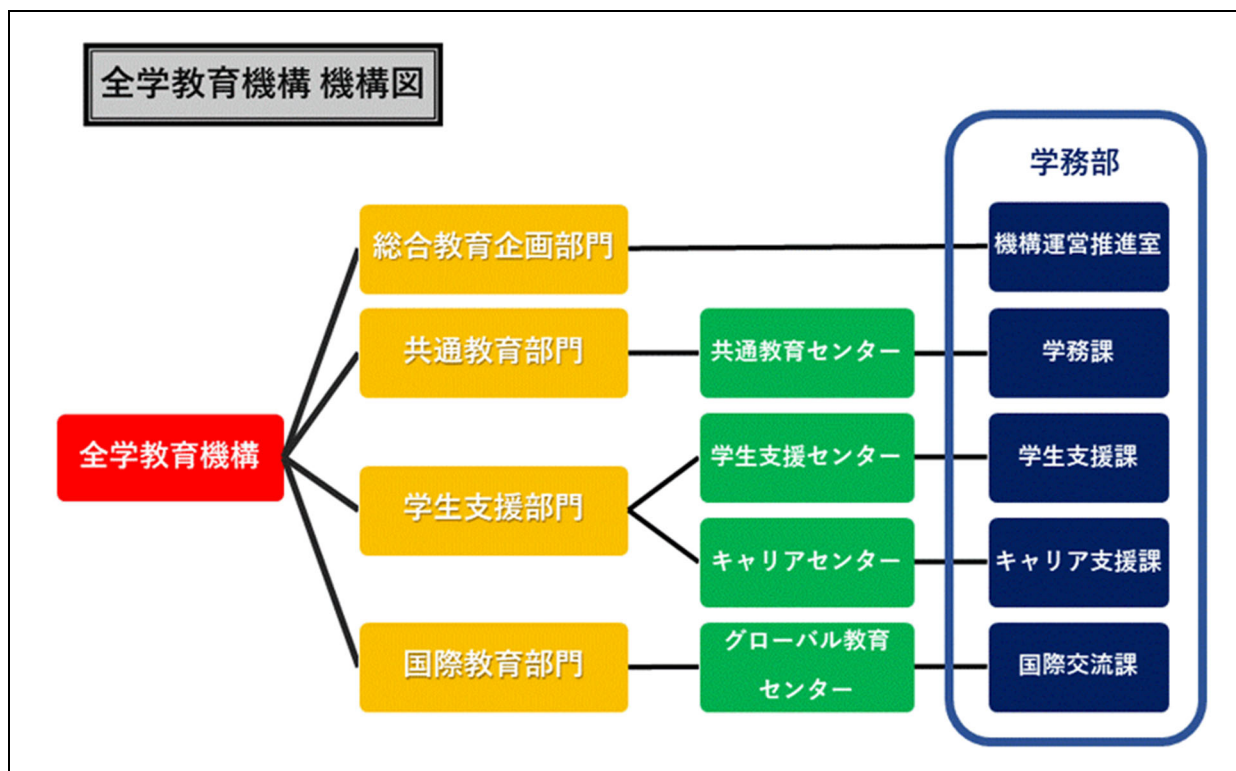
* http://www.ibaraki.ac.jp/collegelife/policy/college_dp/index.html

<もくじ>

まえがき	2
① 部門の活動 [定例業務・部門紹介]	4
② 部門の活動 [平成 29 年度の活動・特色ある業務]	9
③ 委員会の活動	47
④ 教員の活動に関する主要データ	56
⑤ 全学教育機構の活動を示す主要指標／数量データ（今年度は省略）	
⑥ 関連イベント報告（今年度は各部門の活動中に記載）	
⑦ 資料編もくじ	101

① 部門の活動 [定例業務]

全学教育機構では、本学のディプロマ・ポリシーに則した人材を育成するため、全学的な観点から、教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価等を総括的に行います。継続的な改善を伴う教育の質保証の全学的な統括、共通教育や学生支援の企画・運営、グローバル教育の推進などを担うため、4部門4センターを置いています。



略年表

大正 9 年（1920 年）4 月：旧制水戸高等学校開学。
 昭和 24 年（1949 年）5 月：茨城大学開学。文理学部を設置。
 昭和 37 年（1962 年）4 月：学生相談室（学生相談センターの前身）が発足。
 昭和 42 年（1967 年）6 月：文理学部を改組し、人文学部、理学部の 2 学部及び教養部（共通教育部門の前身のセンターの元となる）が発足。
 平成 8 年（1996 年）4 月：大学教育研究開発センター設置。（同年 3 月をもって教養部を廃止）
 平成 13 年（2001 年）4 月：国際教育部門の前身となる留学生センターおよび学生支援部門の前身となる学生相談センター設置。
 平成 14 年（2002 年）4 月：学生支援部門の前身となる学生就職支援センター設置。
 平成 17 年（2005 年）3 月：評価室（現在の大学戦略・IR 室）を設置。
 平成 18 年（2006 年）4 月：大学教育研究開発センターを大学教育センターに改組。
 平成 29 年（2017 年）4 月：大学教育センター、留学生センター、学生相談センター、学生就職支援センターに、大学戦略・IR 室の一部機能も移行した上で全学教育機構に再編成。

○ 総合教育企画部門

・関係部署との連携による、共通教育と専門教育間の連携・調整、教育活動の点検・評価及び改善等並びに IR と結びついた総合的なエンロールメント・マネジメントに関する基本方針の策定、企画及び運営を行なっている。

第1 四半期（4月～6月） ・新入生調査 ・学生生活実態調査 ・授業アンケートとりまとめ（前年後期分）	第2 四半期（7月～9月）
第3 四半期（10月～12月） ・授業アンケートとりまとめ（前期分）	第4 四半期（1月～3月） ・卒後3年目調査 ・企業向け学修成果調査（隔年） ・卒業時・終了時調査
通年（随時）実施事項 ・学部アドバイザーボードへの情報提供 ・学部、学科のFDミーティングへの情報提供 ・FD/SDの企画、運営	

○ 共通教育部門

ディプロマ・ポリシーに基づく共通教育(基盤教育、プログラム教育及び大学院共通教育)の基本方針の策定、企画及び運営を行っている。

第1 四半期（4月～6月） 4月：基盤教育科目クラス編成 4月：前学期セメスター及び第1クォーター授業開始 4月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 6月：第1クォーター学生授業アンケート実施 6月：第1クォーター成績入力 6月：第2クォーター授業開始 6月：前年度前学期セメスター学生授業アンケートおよび教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別FDの実施	第2 四半期（7月～9月） 7月：前学期セメスター及び第2クォーター学生授業アンケート実施 8月：前学期セメスター及び第2クォーター成績入力 8月・9月：夏季集中講義 9月：夏季集中講義成績入力
第3 四半期（9月～12月） 9月：後学期セメスター及び第3クォーター授業開始 10月：前学期セメスター及び第1・第2クォーター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 11月：第3クォーター学生授業アンケート実施 12月：第3クォーター成績入力 12月：第4クォーター授業開始	第4 四半期（1月～3月） 1月：後学期セメスター及び第4クォーター学生授業アンケート実施 2月：後学期セメスター及び第4クォーター成績入力

1 2月：前学期セメスター及び第1・第2クォーター学生授業アンケート並びに教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別FDの実施 1 2月：次年度基盤教育科目シラバス入力 1月：シラバスの点検・確認	3月：春季集中講義 3月：春季集中講義成績入力
--	----------------------------

[共通教育センター]

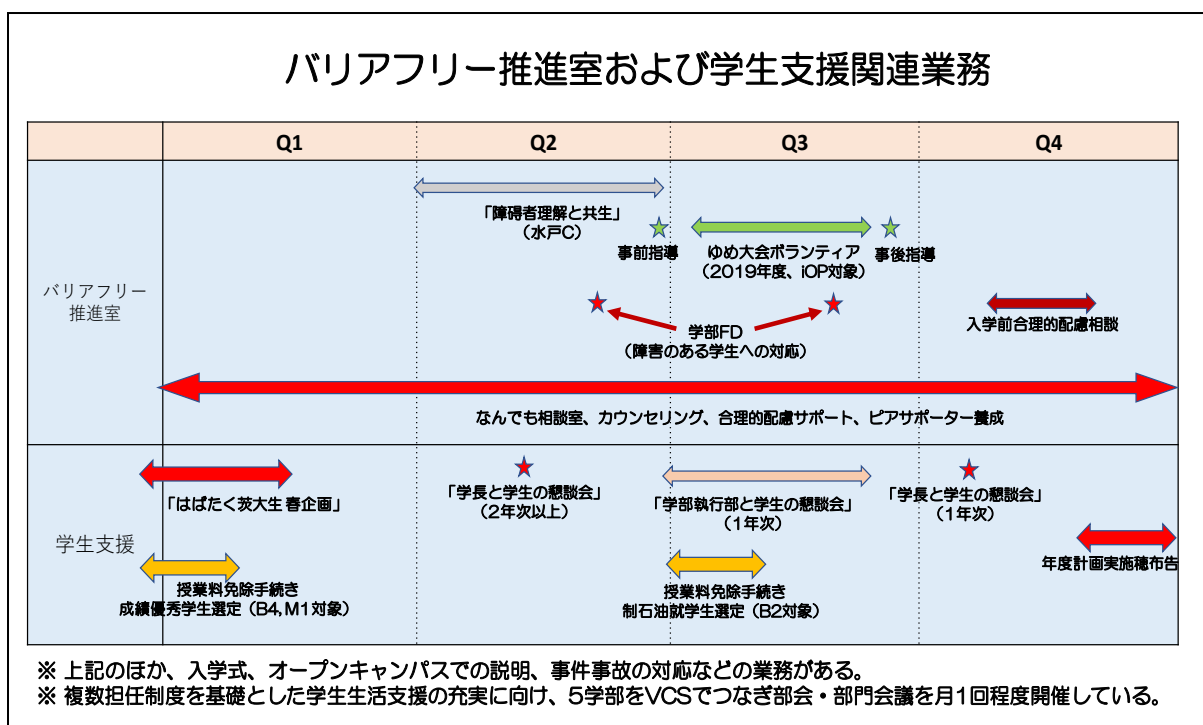
1年次からの基盤教育及び全学共通プログラムの履修手続きなど、共通教育全般に関する窓口である。(旧 大学教育センターなど)

○ 学生支援部門

学修、生活、心身の健康、就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。2つのセンターと2つの室を持っている。

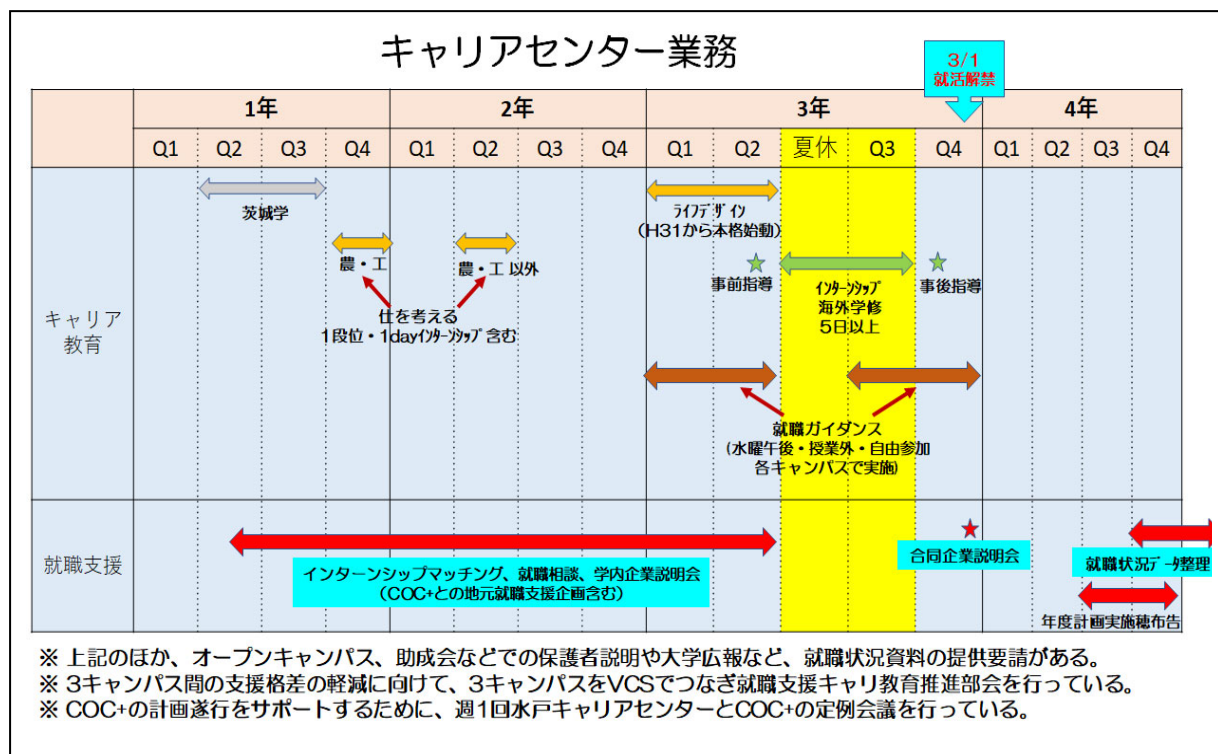
[学生支援センター]

学生生活全般について取り扱い、学生の成長を促す学生支援を行う。奨学金や授業料免除の申請、学生寮、サークル活動などの窓口である。茨大なんでも相談室およびバリアフリー推進室があり、それぞれ学生相談および障害のある学生向けの支援を行っている。



[キャリアセンター]

将来を見据えたインターンシップや就職支援など、幅広いキャリア支援を行う。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口となっている。



○ 国際教育部門

留学生教育及び日本語教育を実施し、国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進しています。

[グローバル教育センター]

海外留学や研修、英語コミュニケーション力の強化など、グローバル教育を推進。留学や国際交流の相談のほか、外国人留学生の日本語教育や修学支援、国際交流会館などの窓口となっています。

【部門の活動・定例業務】

月	活動記録
4月	交換留学生オリエンテーション（3日間） 交換留学継続生のためのガイダンス 外国人留学生新入生ガイダンス チューターガイダンス
5月	日本語研修コース受講生学外研修旅行 海外留学説明会 海外ボランティア・TOEFL 説明会
6月	日本語研修コース受講生のホームステイ

① 部門の活動 [定例業務]

	水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流
7月	国際交流合宿研修 日本人学生と留学生の七夕会（阿見キャンパス留学交流室） 派遣留学生のための留学前ガイダンス 韓国仁済大学校学生・教員の本学訪問（講義及び懇談会実施） 交流室チューター交流会（水戸キャンパス・阿見キャンパス） 交換留学生向け帰国前ガイダンス（前学期） オープンキャンパス「国際交流留学案内」 「留学生・日本人学生協働発表会」（Studies in Contemporary Japan, Japanese Pop Culture, 日本語研修コースレベル3 口頭表現）
8月	高校生向けの公開講座
9月	学生交流促進のためのワークショップ 日本語研修コースのオリエンテーション
10月	協定校派遣留学説明会 日本語研修コース茶道・華道体験 留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー 国際交流ハローウィンパーティー（阿見キャンパス） ブルネイ・ダルサラーム大学の学生との授業交流
11月	留学生のための就職説明会 留学生同窓会 海外ボランティア・TOEFL 説明会
12月	ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流 日本語研修コース受講生ホームステイ 工学部新2年留学生と日立キャンパス交流室チューターの交流会
1月	海外派遣留学生のための危機管理ガイダンス 交換留学生向け帰国前ガイダンス（後学期）
2月	日本語研修コース受講生学外研修旅行 阿見・日立キャンパス向け海外留学危機管理セミナー
3月	サポート隊ガイダンス

② 部門の活動 [特色ある業務]

全学教育機構では、それぞれの部門において、大学に中期目標・計画などに従い、特色ある活動を行っています。平成 29 年度の特色ある活動は以下のようになります。

○ 総合教育企画部門

本学では、大学教育再生加速プログラムの支援を受け、卒業時の質保証のモデルづくりを進めている。そのために、教育改革推進委員会、学務部と連携し、平成 29 年度は、以下のような業務を行った。

実施計画	結果と成果 (全学の動き)
<p>H29.4 月に教育 3 ポリシーを公表し、H30.2 月までに各学部の学科・コース等 (カリキュラム) 毎に学修目標を要素分解し、指標を設定する。</p>	<p>大学として、教育 3 ポリシーを公表するとともに「コミットメント・セレモニー」「大学入門ゼミ (必修)」などの自校教育・初年次教育を通じて、学生の本学教育方針の理解度の向上を図った。全学部のシラバスにおいて、それぞれの科目が、教育プログラムの学修目標 (DP) のどの要素をカバーしているのか明記し、カバー率などの分析を行った。指標については、中期目標・計画と連動した指標を設定し、大学の年度計画と合わせて進捗状況の点検を行っている。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>大学の人材養成像を明確にすることにより、社会と大学との間で育成すべき人材像の共有や相互に連携した取組を可能とした。</p> <p>全ての教職員が、どのような教育を行い、どのような人材を輩出するのかを共通理解し、連携して取り組むことを可能とした。</p> <p>ディプロマ・ポリシー (DP) の理解度について新入生調査を行った結果、入学前に DP を知っていた者は 1/5 程度であったが、上記の自校教育・初年次教育等を通じて 2/3 程度が DP の理解度が進んでいることが確認できた。</p>
<p>H30.2 月までに各学部の全学科・コース等 (カリキュラム) において、カリキュラム・マッピング、カリキュラムツリー等を作成し、体系的で組織的な教育体系に改善を図りつつ、DP を踏まえた教育の体系性の検証を行う。</p>	<p>平成 30 年 2 月から 3 月にかけて、授業アンケート結果、学修成果の達成度などのデータを集計・分析し、すべての学部において、学外者も交えたアドバイザーボードによるカリキュラムの点検を実施した。地域社会など学外者の参画を得ることにより客観的な視点を取り入れるようになった。</p> <p>カリキュラム・マッピング、カリキュラムツリー等の作成状況についても各学部に点検を指示した (結果報告は 4 月)。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>カリキュラム・ポリシーに沿ってカリキュラムが展開しているかどうかについて点検を行い、必要な改善を図ることによって、学生には有機的に連結している 3 ポリシーにもとづく教育をより充実させた上で受けってもらうことができるようになった。</p>

	<p>理学部のアドバイザーボードでの点検では、課題となる事項について議論し、アクティブ・ラーニング科目数は適切に配置されており、評価基準を同じ尺度に揃える努力はなされているという評価を得た。</p> <p>学外者による点検を受けることにより、客観的な視点を取り入れ、社会との協働を一層推進することができるようになった。</p>
<p>H29.5月から、学修成果について就職先、教員から意見聴取（直接評価）を開始し、学生の学修成果の社会適合性を点検を行い、H30.1までにFD等を通して、社会のニーズを各プログラム（カリキュラム等）にフィードバックする。</p>	<p>H29.2月、3月に、260人の卒業生修了生や、およそ330社の就職先の企業や50の自治体から本学卒業生のディプロマ・ポリシーの達成度について聴取を行い、今年度、その分析を行い、入学時から各学年、卒業時、卒業後3年後など連続したDP達成度の推移についてまとめることができた。</p> <p>その結果については、全学会議等で情報共有を図るとともに、各学部等のFDで活用した。</p> <p>↓</p> <p>聴取の結果、DP要素を十分身につけている又は概ね身につけていると回答した割合は、課題解決力（78.26%）>職業人としての意欲と倫理観、主体性（68.55%）>専門分野における十分な見識（63.13%）>地域活性化に取り組み貢献する積極性（59.12%）>世界を俯瞰的に理解する能力（57.14%）の順であり、一部のDP要素については課題があることが確認できた。</p> <p>可視化された学修成果を全教員と共有することで、DPを活かした教育の各段階での有効性について各教員が知るところとなり、連携して質の高い教育改善を検討することができた。</p> <p>学生の卒業後の追跡調査の結果を改善にフィードバックすることを可能とした。</p> <p>学修成果を多面的に把握することができるようになった。</p>
<p>H29.4月からキャリア教育により学修動機・意欲を向上させる方策を実施（コミットメントセレモニー・はばたく！茨大生などの開催）する。全学教育機構と学部との会合（全学教育機構各部門会議等）を実施する。</p>	<p>入口から出口まで、DPの達成度を学修達成状況の指標としているため、入学時にDPについて十二分に把握してもらう必要があることから、平成29年4月からディプロマ・ポリシーの説明、解説を行い、入学生に学修目標を理解してもらう為の自校教育・キャリア教育の一環として、「コミットメント・セレモニー」及び「はばたく！茨大生」を開始し、卒業までに求められる学修成果についてあらかじめ見通しを持てるようにすることで学修動機・意欲の向上を図った。</p> <p>特に、アイコン化された5つのディプロマ・ポリシーを掲載した「コミットメントブック」を入学時に新入生に配布するなど、学生への浸透を図った。</p> <p>↓</p>

	<p>これらの自校教育の効果として、ディプロマ・ポリシーについて理解したと1年時の6月に回答した学生は約2/3に達しており、本学の教育プログラムの根幹、学修成果把握の基礎となるDPを多くの学生が把握の上、学修に向かう体制が構築できた。</p>
<p>H29.4月から全学教育機構総合教育企画部門会議などを通して、教育情報のニーズを把握するとともに、H29.9月頃に教育情報のニーズに関するFDミーティングを開催する。</p>	<p>全学教育機構総合教育企画部門会議には、各学部の教育改善担当者が参画しており、平成29年度は合計10回の会議を開催し、授業アンケート項目および実施手法の全学統一、卒業時アンケート項目と手法の全学統一などを行った。</p> <p>また、その議論の過程で、各学部の教育情報ニーズを把握し、全学部にFD情報を提供することができた。</p> <p>↓</p> <p>学生調査の体系化を進めることができた。</p> <p>各学部に総合教育企画部門からFD関連情報を提供できるようになったことから、部門は学修成果等の調査・とりまとめ、現場教員はそれらの情報を用いた改善を行うというような分担を行うことができるようになった。</p> <p>そのため、各教育現場では、これまでデータ集計等に用いていた時間を学生のための教育改善に関する議論に当てることができるようになった。連携しながら組織的に教育を展開できるようになった。</p>
<p>H29.4月から、新教務情報ポータルシステムの運用準備を開始し、年度末に向けて本稼働の最終調整を行い、レーダーチャートなどで学修成果を可視化し、学生へ提供する。システムは、ポートフォリオや学習支援システム等と連動させ、学生の自主的な学修を促進させることを目指す。年度内を通して、他大学調査やセミナー調査を行い検討につなげる。</p>	<p>新教務情報ポータルシステムの運用準備を進め、年度内に旧システムから新システムへのデータ移行も完了した。</p> <p>レーダーチャートなどで学修成果を可視化する機能、振り返りを行う機能を実装した。</p> <p>↓</p> <p>既に各科目がディプロマ・ポリシーのどの部分に対応しているかについては、シラバスに明記することになっていたため、それらのデータをもとに学生は、自分がどのDP要素をどの程度学んだのか、ということ把握することが可能になった。</p> <p>加えて、自らの教育目標に対する達成度についてレビューを行う機能も実装したため、半期ごとに自己点検評価を行うことが可能になった。</p>
<p>H30.3月までに、基盤教育科目「大学入門ゼミ」で選考策定してい</p>	<p>複数の科目で試行導入したルーブリックの知見を活かし農学部で卒業論ルーブリックの先行運用を開始した。</p> <p>理学部では、卒業論ルーブリック導入のために過去5年間の卒業研究</p>

<p>るルーブリックを基に、卒業研究ルーブリックたたき台（全学版）を策定する。</p>	<p>の成績分布について分析を行い、その成果をもとに学部 FD で議論を進め、卒論ルーブリックの導入準備を進めた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>農学部では、厳密な卒業研究の評価ができるようになった。学生にも成績評価基準が明示されているため、十分な取り組みができていない学生に対して効果的な指導が可能になった。</p>
<p>H29.6 月から成績評価手法に関する研修の準備を開始するとともに、H30.3 月までに、各学部を設置したアドバイザーボード（第 1 回・第 2 回助言評価委員会）等による、質保証システムの点検を行う。</p>	<p>成績評価手法に関する研修内容の検討を行った。</p> <p>すべての学部で学外有識者（高校関係者、海外協定校教員、地元企業社長、他大学同分野部局の部局長、地元自治体関係者、卒業生等）から構成されるアドバイザーボードを置き、2 回もしくは 1 回の会議を開催した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>すべての学部で具体的な学生調査結果などを示し、客観的資料にもとづく議論を行うことができた。</p> <p>地元企業や自治体、高等教育機関からの実質的な意見を提供いただくことで、改組の実施状況に関する手応えや、具体的な教育改善のヒントが得られ、学生のための地に足が付いた改善を進めることが可能になった。</p>
<p>H29.8 月から、成績の開示にルーブリックの活用の検討を開始するとともに、FD ミーティングにおいて成績評価基準等の明示を行いながら、教員との意見交換を継続していく。 H29.10 から成績の開示にルーブリックの活用を試行的に開始する。年度内を通して、他大学調査やセミナー調査を行い検討につなげる。</p>	<p>全学部で必修科目として展開している「大学入門ゼミ」でルーブリックの使用を開始しているが、複数学部でルーブリックに関する FD を行った。</p> <p>芝浦工業大学や授業改善等に先進的な取り組みを行っている大学の調査を行い、H30.3 月に芝浦工業大学の FD 担当教員によるルーブリックの使い方などを含む授業改善のための FD/SD 研修会を開催し、全参加者（36 名）から満足した、という回答が得られた。また普及事業の一環として、本学が議長を務める「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」など、学外者にも開放しており、2 大学から 7 名の教職員が参加し、意見交換も行うことができた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>アンケートを分析すると、参加した教員は、ルーブリックの活用だけでなく、授業改善の実践的なコツや DP と自分の授業の関連などを把握することができるようになったため、FD に参加した教員を起点に授業改善の輪が広がる取組となった。また、研修会の内容やアンケート結果を含む実施記録を Web サイトに公開し、普及活動にも貢献した。</p>
<p>H29.4 月から、平成 28 年度から継続して検討している各種学生</p>	<p>平成 29 年度中に全学教育機構総合教育企画部門会議において、授業アンケートの項目と実施手順、学生の生活に関する調査、卒業生アンケート、企業アンケート等の全学共通化を図った。</p>

<p>調査（授業アンケート、学生の生活に関する調査、卒業生アンケート、企業アンケート等）の全学共通化（統括実施）に向け、検討事項を具体化していく。</p>	<p>↓</p> <p>学生の学びに関する情報だけでなく、悩み、要望について統一的なフォーマットで情報を得ることができるようになった。</p> <p>多くの学部で、深夜アルバイトを行っている学生の成績不振問題など全学的な課題が次々と判明し、各学部で情報提供をすることができるようになり、学修支援・学生支援の適切性について学生支援部門に情報提供をすることができるようになった。</p>
<p>H29.10月頃までに、各種学生アンケート等で得た、エンロールメントマネジメントに関する情報を各学科・コース等や担任に適切に配信できるよう試行していくとともに、学務系職員を中心にSDを実施する。年度内を通して、他大学調査やセミナー調査を行い検討につなげる。</p>	<p>エンロールメント・マネジメントに関する情報提供を複数の学部で開始した。</p> <p>各学部で学部FDは6回開催し、当部門としては学生調査結果について情報提供した。</p> <p>アドバイザリーボード時には、事務系職員も参画してもらい教育改善のための議論に参画いただくことでSDの一環とした。</p> <p>エンロールメント・マネジメントおよびアセスメントの実践手法については、H30.1月、米国（メイン州立アーガスタ校、H29.5月、米国IR協会年次大会（ワシントンDC））調査を行い、特に直接評価の実践的な知見や教員をその気にさせるFDへのデータ提供方法について現場担当者から最前線の話聞くことができた。</p> <p>↓</p> <p>米国調査の結果にもとづくFDへのアセスメントデータの提供は順次開始しており、単なるデータの提供ではなく、教員のニーズに合わせてピンポイントに提供することで、深い教育改善に関する議論を支援することができるようになった。</p>
<p>H29.5月から学生の学修成果測定方法（直接測定・間接測定）について平成28年度実施内容の分析を行うとともに、測定方法を決定する。平成28年度実施内容を検討しつつ継続実施する。H29.10月から学生にレーダーチャート等でDP修得状況を提示し、一般科目の学修成果を明確に</p>	<p>H29.4月に実施した2年次生以上およそ5,400人を対象とした学生生活実態調査や、H29.6月に実施した入学生およそ1,600人を対象とした新入生調査の結果について分析を行い、設問の改良など、測定方法の改善を図った。</p> <p>レーダーチャート等でDP修得状況が表示できるよう教務情報システムの仕様作成を行った。</p> <p>学修成果について「CanDo」の形で明確に提示できるよう、シラバスの分析を開始した。</p> <p>↓</p> <p>学修成果について可視化することは、学生が学習状況について把握しやすくなるだけでなく、教員からも履修指導上のメリットが大きく、本学の担任制度がより有効に機能することに貢献できた。</p>

<p>提示できるよう検討を開始する。</p>	<p>※「H30.3月まで（後学期成績通知時）までに学生にレーダーチャート等で DP 修得状況（到達目標達成度等）を提示する。」という計画は現在、遅れている。</p>
<p>H29.11月頃を目途に学修成果に関する数値情報を集約し、人材育成 Annual Report（学修成果ファクトブック）を試作する。</p> <p>H29.12月末までに学生の学修成果を企業訪問で広報を行う。</p>	<p>学修成果 Annual Report（学修成果ファクトブック）の作成に向けて、各種学生調査の概要（エグゼクティブ・サマリ）をまとめ、AP 事業 web サイトに掲載した。</p> <p>学生の学修成果についてはレポートを作成し、H29.12月に調査協力企業および卒業生に送付した。</p> <p>↓</p> <p>H29.3月には400社以上が集まる合同企業説明会で、各企業の出展ブースを訪問し、各企業に本学の DP を紹介することで、本学学生の採用時にどのような能力が期待できるのか、ということについて大学で適切に示す取り組みを開始できた。</p> <p>学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、大学がどのような人材を育成できるか対外的に示すことができた。</p>
<p>H29.8月、H30.2月に各学部において、助言・評価委員会（アドバイザーボード）による外部評価を実施する。H29.6月から学生の学修成果測定方法（直接測定・間接測定）の違いを把握するなどし、質保証システムの自己点検評価を実施する。</p>	<p>人文社会科学部では2回、教育学部では1回、理学部では1回、工学部では2回、農学部では2回のアドバイザーボードを開催し、学修成果の測定結果などをもとに学外の関係者から内部質保証システムや卒業時の質保証の方法などについて助言をうけた。（当部門としては、情報提供などで開催を支援した。）</p> <p>↓</p> <p>学外有識者（高校関係者、海外協定校教員、地元企業社長、他大学同分野部局の部局長、地元自治体関係者、卒業生等）から構成されるアドバイザーボードに対して、積極的に情報を公開し、地域社会、国際社会、産業界との接続で客観的な視点を取り入れた点検・評価を可能とした。</p>
<p>H29.5月頃から学修成果の間接測定と直接測定の分析内容を基に、来訪する卒業生からの意見聴取フォーマットを検討し、試行していく。</p>	<p>来訪する卒業生からの意見聴取フォーマットについては、各学部への聞き取り調査を行い、どのような卒業生がどの程度来訪しているのか、という情報を収集した。今後、聞き取り用フォーマットについて調整を進める。</p> <p>↓</p> <p>H29.2月およびH30.1月に実施した学生の卒業後の追跡調査により、卒業生の中には、大学に貢献したい、と考える者もいるが、なかなか具体的な貢献ができないままでもあることがわかった。</p> <p>金銭的負担や時間的に大がかりにならず、大学への来訪時に簡単に回答できるアンケートがあれば、定型的な調査とは、また別のチャンネルで学修成果情報を得ることができるだけでなく、教員らもフォー</p>

	<p>マットを媒介として卒業生が感じている本学の学修成果について体感的把握を行うことができる感触を得た。</p>
<p>H30.3月までに学修成果の測定法、改善への活用する仕組みについてFD等を通して学内提案を行う。</p>	<p>総合教育企画部門において入口から出口までの一貫した学生調査体系+企業調査の体系化を行ったことについて、多くの学部のFDにおいて説明を行った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>FDについては、各学部に概ね好意的に受入れられた。全学的な教育改善と学生支援の各種施策に活用が期待される基礎資料作成の取組ができた。</p>
<p>H29.5月以降に普及活動として、IR・質保証・アセスメントセミナーを開催する。(年2回:1回2講座・計4回分)</p>	<p>H30年3月13日に公開型全学FD/SD(ルーブリック、授業改善)を開催した。</p> <p>3月20日には、同じテーマV採択校の東日本国際大学との勉強会を開催し、具体的なデータを相互に提示し課題解決に関する議論を行うことができた。この勉強会も普及事業の一環としてテーマVの開催校には解放し、実践的な地域別研究会を開催することができた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>公開型全学FD/SDは学内外から36名の出席者があり、アンケートの結果、満足度は100%であった。</p> <p>東日本国際大学の取り組んでいる教育目標の分解メソッドやシラバスへの展開手法を学ぶことで、DPとカリキュラムとの関連付け(カリキュラム・マッピング)について、改善の糸口をつかむことができた。</p> <p>DPとカリキュラムとの関連付けは、シラバスにも示しているためDPと授業との関係をより分かりやすく学生へ示す手法のヒントが得られた。</p>
<p>H29.7月以降に普及活動として、IR初級人材育成セミナーを開催する。</p> <p>(年2回)</p>	<p>H29年10月28日に高知大学と共に「卒業時の質保証の取組の強化」のシンポジウムを開催した。その際に、内部質保証とIR(アセスメント)による支援についても報告を行い、本学におけるIRの実践的手法についても報告することができた。</p> <p>大学評価コンソーシアムが開催した「大学評価・IR担当者集会2018」において開催したIR初級/初心者セッションにおける講義、演習において本学AP事業の成果を提供した。</p> <p>4階層内部質保証およびそこへのIRからの支援モデルについては、鳥取大学、石川県立大学、愛媛大学、私大連盟等のFDセミナーで報告を行い普及活動の一環とした。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>AP事業の成果を国内に広く発表し普及に貢献した。AP事業の支援を受けた事業の成果を他大学に提供すると同時に、さまざまな意見</p>

② 部門の活動 [特色ある業務]

	<p>をもらうことで本学としてシステム改良のヒントを得ることができた。シンポジウムと同時開催のポスターセッションでは、本学ブースに多くの来場者があり、10 団体を超える大学関係者等の各々に要望される情報を提供できた。</p>
--	--

○ 共通教育部門

(1) 初年次教育部会(大学入門ゼミ、茨城学、情報リテラシー)

○ 「茨城学」の実施

3年目を迎えた「茨城学」は、平成29年度から全学教育機構共通教育部門の初年次教育部会で運営されることとなった。基盤教育科目の入門科目として開講され、約1,600名が履修した。夏季休暇をはさんだ第2クォーターと第3クォーターに毎週4クラス実施され、全学部の一学年が同時に受講する体制となった。夏季休暇を挟んだこともあり、授業進度に比例して学生の地域や茨城への関心、授業内容への知的欲求の高まりを感じた。

人文社会科学部と工学部の学生が共に受講することになり、教育学部以外の3クラスが学部混合のクラスになった。学部横断のクラス編成の増加は、これまで後期に受講していた理・工・農学部生の積極的な学修態度、アクティブ・ラーニングでの多様な意見交換につながった。また授業内容を総論から各論へと展開する構成に変更したことで、地域を考える「茨城学」の意義が明確になった。運営内容の向上を図る工夫として、「振り返り用紙」連絡欄に示された質問・要望等に対し、担当とCOCコーディネーターが回答内容を検討、相互コミュニケーションツールとしてQ&Aスタイルの印刷物を作成し、講堂ロビーに提示した。

平成29年度から、授業内容がCOCプラス参加校の常磐大学、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学及び茨城工業高等専門学校とVCS配信や録画したDVDを通して共有されることとなった。大学等の枠組みを超え、講義内容や、講師とのディスカッション時に出された意見を共有するという先進的な取り組みが行われた。

○ 関連イベント

① 「茨城学」FD・SDの実施

「茨城学」開講前の5月10日、COC地域志向教育プログラム部会、授業の実施に協力いただいている本学教員、自治体関係者、昨年度の受講生、及び授業運営をサポートするCOC専任コーディネーターや社会連携センター職員が一堂に会して「茨城学」FD・SDが行われた。

目的は、「茨城学」の実施に関わる教員、自治体の代表者に平成28年度「茨城学」の学生アンケート結果や平成29年度の「茨城学」の運営や変更点などについて説明するとともに、教員、自治体の代表者と授業の目標や課題を共有し、学生との意見交換を通して、授業の改善を目指すことにある。参加者は、過去の資料と課題、学生アンケート結果、運営の変更点などを把握し、授業目的を共有するとともに、学生の提案した授業改善案（質問箱の設置、専門用語の解説など）を検討した。このことにより、各担当者の授業運営に対する理解が深まり、その後の打ち合わせがスムーズになった。また、平成28年度に学生有志と開催した「茨城学@深掘りカフェ」の内容を伝え、学生と授業担当者が授業改善のために意見交換を行った。



②オープンキャンパスでの模擬授業

オープンキャンパスにおいて模擬授業「茨城学って何ですか？」を2回（10：15～11：05、11：30～12：20）実施した。授業の前半は講義とアクティブ・ラーニングの体験、後半は地域と連携して活動している大学生との交流というプログラムである。大学生は、模擬授業の運営サポートを行い、参加高校生とのグループワークを行った。

1回目は26名（1年生19名、2年生2名、3年生3名、不明2名）の参加者があり、県内のほか、福島県、埼玉県、千葉県の高校生が参加した。二回目の参加者は24名（1年生3名、2年生12名、3年生6名、不明3名）で、県内のほか、福島県、栃木県、東京都、秋田県からの参加があった。



模擬授業のアンケートには、「地元の良い所を紹介しあう『アクティブ・ラーニング』がとても楽しかった。長所についてもよく話し合えたし短所について改善点について話すことができた」、「茨城学がどのようなことをするのか分かった。地域に着目した授業なのでとてもおもしろくて興味が出た」、「他の県の観光の場所などは知っていたのですが、あまり自分の住んでいる県について知らなかったのが、良い経験だった」、「『茨城学』と聞いてイメージが湧かず、興味を

持ってこの授業を受けたのですが、とても面白そうで、学んだ後に活動してみたいなと個人的に思いました」、「茨城についてみんなでディスカッションを行ったことによって、自分が知らなかったこと、場所について知識が増え、興味を持ちました」などの感想が記された。

なお、授業サポートした大学生（工学部3年）がオープンキャンパス用に「茨城学」プロモーション・ビデオを作成し、ビデオは入学課入試広報係が入試広報活動で使用することとなった。

③ 「茨城学」深掘りカフェ

12月6日、図書館1Fラーニングcommonsにおいて、「茨城学」@深掘りカフェを行った。

「茨城学」を受講してみて、「あのテーマについて発表してみたかった」「もっと深く勉強してみたい」「『茨城学』をもっとこうしてほしい」と考えている学生が集まり、学年や所属に関係なく自由に話し合うことを目的としており、「茨城学」授業運営スタッフと学生たちが主体的に企画運営した。

出席者は13名で、学生（1年生4名、2年生2名、3年生1名）、教員（2名）、COC専任コーディネーター（3名）、学外の方（1名）である。進行役は学生が務めた。

講義内容、グループディスカッション、「茨城学」の運営などについて、小グループによるディスカッションも加えつつ話を進め、「茨城学」の改善と発展、運営側と学生の交流の促進につながる情報の共有ができた。学生の意見を参考にして、「茨城学」の内容、運営、及び学生への教育効果の更なる向上に向け、FDを通して下記の改善に努めていくこととした。



○ 講義への関心度を高めるため、講義の展開や振り返り用紙の様式等の向上を図る。

○ グループディスカッションのリード役としてキャプテン制を取り入れたが、その役割を果たしてもらえるように、リードの手法の提供や、ディスカッション雰囲気の向上に努める。

○ 「茨城学」受講生が授業への疑問や授業の改善要望などについて直接伝え応答を得られるような場として設け、可能な限り講義期間中に実施するように調整

する。

(2) プラクティカル・イングリッシュ部会

○ 部門の活動（特色ある業務）

- 29年度には、1) PE 部会全体 FD、2) 新任教員 FD、3) 学生支援 FD(部会員対象)、4) 学生支援 FD(全担当教員対象)の4種類のFDを開催し、非常勤講師を含む担当教員に対する授業運営サポートを行った。

1)については、非常勤講師を含む、授業担当教員全員を対象とした全体FDを年2回開催している。教員間の共通理解を築き上げるうえで重要な役割を果たしている。2)は、29年度より導入したFDで、プログラム拡大に伴い非常勤講師の入れ替えが大きくなる中、新規採用の非常勤講師がよりスムーズに授業を行えるよう、授業開始直後に実施された。3)、4)は、全学教育機構学生支援部門と連携し、同部門所属の矢嶋敬紘講師の協力により実施された。まず、PE部会員の学生支援に関する理解促進のために部会員対象のFDを実施、その

後、全担当教員を対象に「障害者差別解消法と授業における学生対応について」というタイトルで矢嶋講師によるワークショップ型 FD を実施した。学生支援については、全学的な取組が進んでいる一方で非常勤講師には情報が届きづらい側面があり、本 FD は非常勤講師と学生支援部門を繋ぐ役割を果たした。

- English Lounge, Communication Training 等の学修支援活動を行った。
- 全学教育機構の部門間連携に積極的に携わり、国際教育部門の行っている国際交流サロンの整備への協力や、学生支援部門と協力してプレゼンテーションやエッセイのルーブリック開発などに取り組んだ。

(3) 心と体の健康部会

熱中症予防に関する FD の実施 (H29.8.9. 心と体の健康担当教員 11 名)

日本体育協会熱中症ガイドラインの WBGT 基準を越える日々が続くことから、環境状況および実技授業後の学生アンケートを踏まえて、熱中症予防のための FD を行った。環境因（気候変動）、個人因（生活習慣）、授業因（日程自由度）があり、ハード面に加えて酷暑時期の実技と講義の組み合わせなどソフト面の対策が必要との意見があった。

文部科学省体力運動能力調査の実施 (H29.10.11-23)

心と体の健康の授業時に学生 442 名を対象として体力運動能力および生活習慣調査を行い、「定点観測」資料として全学教育機構論集にまとめた（2 編）。国際的および国内的に比較して低体力と生活習慣に課題があることを指摘した。

障害者差別解消法と心と体の健康についての FD (H29.11.20. 心と体の健康担当教員 10 名)

バリアフリー推進室の矢嶋先生による講義を拝聴し、とくに実技授業における合理的配慮について話し合った。身体的な障害への配慮とともに発達障害を背景とした諸課題について授業実践的な問題について取り上げた。

学生アンケートにもとづく FD の実施 (H30.1.10. 心と体の健康担当教員 11 名)

学生アンケートの結果はおおむね良好だった。望ましい生活習慣の日常化を図る取り組みが遅れており、生活習慣記録表の導入および教科書の改訂について論議した (H30 年度改定作業中)。なお、盗難防止と更衣室の充実に関する意見が多かった。

(4) 自然・環境・科学部会（科学の基礎、自然・環境と人間）

○ 部門の活動（特色ある業務）

1) プレイメントテストの作成、実施支援、統一授業のクラス分け

工学部の必修基礎教育科目科学の基礎「微積分学」「力と運動」のクラス分けのためのプレイメントテストとそのガイダンス支援のための説明書の作成と、その採点、及び採点結果をもとにしたクラス分けを行った（「微積分学」担当：小西、「力と運動」担当：山崎）。

2) 統一授業 基礎教育科目 科学の基礎「微積分学」「力と運動」について

統一授業 基礎教育科目 科学の基礎「微積分学」「力と運動」について以下のような活動を行っ

た(「微積分学」担当：小西、「力と運動」担当：山崎)

1. クラスの打ち合わせ会の運営
2. eラーニング教材の作成と改訂
3. 教科書の作成と改訂（編集委員会の立ち上げ、諸設定の検討を含む）
4. 試験問題の作成支援
5. 試験問題の全体および問題別の統計と全体成績の統計
6. 授業ノートとスライドの作成(力と運動のみ. 2018 年度開講授業用だが、作成は 2017 年度中

3) 科学の基礎質問室

入試の多様化や高校の学習指導要領の変更により、高校レベルの学習習得度格差が拡大し、高大接続のための学習支援が必要な学生は年々増大している。茨城大学では全学学生対象として教養の数学・物理学の習得度を底上げし、大学の教養レベルの該当科目にも対応できるようにすることを目的とし、修士、博士課程の学生を含む学部 3 年生以上の学生相談員（ピアサポーター）と教員相談員（小西、山崎）を配置して科学の基礎質問室を開室した。

○ 関連イベントの報告

2018 年 1 月 11 日(木) 10:20~11:50 に基盤教育科目 科学の基礎 の FD を行った。参加人数は 23 名（内訳 2017 年度前期 科学の基礎 担当教員 20 名、その他 3 名）で、学生アンケート結果や GPA などの指標をもとに選出した教員に講演を依頼し、講演内容をもとに授業改善に関する意見交換を行った（全体のまとめ担当：小西、水戸地区担当：小西・伊賀、日立地区担当：米山、阿見地区担当：上妻）。

(5) 多文化理解部会（異文化コミュニケーション、ヒューマニティーズ、パフォーマンス&アート）

■異文化コミュニケーション(初修外国語以外)

1) 活動（特色ある業務）に関して

①以下の短期海外研修を平成 29 年度より異文化コミュニケーション科目「多文化共生」として開講した。

- ・「短期海外研修 I II（スペイン）」
- ・「短期海外研修 I II（ブルネイ）」
- ・「短期海外研修 I II（韓国）」
- ・「短期海外研修 I II（マレーシア）」の開講

②以下の短期海外研修の開講を企画し、平成 30 年度の実施計画が承認された。

- ・「短期海外研修 I II（サンフランシスコ・ボランティア）」
- ・短期海外研修 I II（オーストラリア）」

2) 関連イベント

①海外留学説明会

5 月 17 日（於：理学部インタビュースタジオ）に、(1)①の短期海外研修を中心とした

海外留学プログラムについての説明会を行った。

②留学生・日本人学生協働発表会:「人間とコミュニケーション」(Studies in Contemporary Japan, Japanese Pop Culture)

7月25日～28日、図書館展示室において「留学生・日本人学生協働発表会」を実施した。上記2科目を履修する留学生・日本人学生が協働で日本の社会問題や文化について英語で発表を行った。

③カナダ・サイモンフレーザー大学とのオンライン学生交流:「多文化共生」(多文化共生)

サイモンフレーザー大学の日本語授業を履修している学生と、基盤科目の『多文化共生』科目を履修している学生とのオンラインによる学生交流を企画し、平成29年度後期1～2月に実施した。

④その他

- ・留学生と日本人学生のための歌舞伎鑑賞会

7月29日に「松竹大歌舞伎」(於:県民文化センター)を日本の古典芸能に関心を持つ留学生と日本人学生が鑑賞した。

- ・国際交流合宿研修

7月1日(土)・2日(日)に、国立磐梯青少年交流の家にて、国際交流合宿研修を実施した。3キャンパスから日本人学生、留学生78名が参加し、スポーツ、陶芸、座禅や野外炊飯などの活動を通して、相互理解と交流を深めた。

(6) 社会と生活部会(グローバル化と人間社会、ライフデザイン)

○ 「グローバル化と人間社会部会」の活動

- ・平成29年度後学期「グローバル化と人間社会」の履修状況データに基づいて、授業の精選を目的として議論を重ねた。その結果、平成30年度の第一クォーターと第二クォーターでの履修状況データ(平成30年10月頃入手可)をも考慮して慎重に検討していくことになった。

- ・平成30年6月14日、「グローバル化と人間社会」部会においてFDを実施した。とくに今後の課題として認識された点は、履修学生に対して授業外学修時間の積極的な取り組みを促進することである。部会では具体的かつ効果的な促進方法を検討していく必要性を改めて認識し、今後も議論を積み重ね、課題解決に向けて努力していくことで合意した。

- ・平成31年度実施計画の策定を、各学部の協力を得つつ遂行しているところである。

(7) グローバル英語プログラム部会

○ 部門の活動(特色ある業務)

29年度には、30年度から導入される「グローバル英語プログラム」の基本的な枠組みである1)ガイドラインの設定、2)「グローバル英語プログラムに関する申合せ」の作成を中心にプログラム設計を行った。

1) ガイドラインの修正

- ・ディプロマポリシーとの関連から「グローバル英語プログラム」で育成する4つの英語力を各

授業科目でどう育成するかを検討。

- ・ GEP プログラム科目（全学共通科目）の授業概要について「授業修了時の到達目標」「英語使用割合」等の各科目のシラバス作成時に求められる授業のコア部分の設定。
- ・ 「方法及びアクティブ・ラーニングに関する方針」，「授業時間外学修」の内容（自律的学習）の設定，および総合的多面的な評価方法の検討。
- ・ 履修資格要件の検討
- ・ プレ GEP 科目の設定と GEP 科目としての認定方法
- ・ プログラムの構成及び科目区分の検討

全学部生必修の基盤教育科目「プラクティカル・イングリッシュ（PE）」を基礎に、別表のプログラム科目（全学共通科目）、AIMS 科目（全学共通科目）及び各学部が指定する専門科目（留学などの単位修得により専門科目として認定された科目を含む。）を履修し、次の単位を修得した者を修了認定する。

- 2) 「グローバル英語プログラムに関する申合せ」として履修届の提出方法、プレ GEP の指定、専門科目の指定方法等について検討し原案を作成した。

(8) 日本語教育プログラム部会

(1) 活動（特色ある業務）に関して

外国語としての日本語を指導するために必要な専門知識と基礎能力の習得を目的としたプログラムである。人文社会科学部と教育学部の学生を対象としている。人文社会科学部のサブメジャーになっている。

◎日本語教育プログラム「日本語教授法演習(海外)」

「日本語教育プログラム」の最終科目で、教育実習を含む「日本語教授法演習(海外)」の実施校にウィスコンシン州立大学、アイダホ州立大学、レンヌ第一大学が 2017 年度から加わり、7 校となった。また、同科目は「海外協定校におけるインターンシップ型日本語教師養成プログラム」として日本学生支援機構の平成 30 年度海外留学支援制度（協定派遣）短期研修・研究型（タイプ A）に採択された。

(2) 関連イベントの報告

①アラバマ大学バーミングハム校講師によるセミナー実施(6月7日)

米国アラバマ大学バーミングハム校で日本語教育に携わる高宮優実氏を迎え、「アメリカにおける日本語教育」と題し、アメリカで日本語を教えるために必要な表現・スキル・手法についての講演を実施した。

②ブルネイ・ダルサラーム大学との授業交流(10月28日、30日)

ブルネイ・ダルサラーム大学で日本語授業を履修している学生と、同プログラム「日本語教授法 I」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を行った。

③ウィスコンシン州立大学スペリオール校との授業交流(11月30日)

ウィスコンシン州立大学スペリオール校で日本語授業を履修している学生と、同プログラム「日本語教授法 I」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を実施した。

(9) COC 地域志向教育プログラム部会

1) 部門の活動 (特色ある業務活動)

① 「5 学部混合地域 PBL」 の実施

全学教育機構の設立にともない、大学 COC 事業の地域志向教育プログラムは同機構に位置付けられた。地域志向科目は、基盤教育の実施による新設も含め、88 科目が創意工夫のもとに行われた。3 年目を迎えた全学生必修の「茨城学」については、同機構初年次教育部会で運営されることとなり、全学共通科目の「5 学部混合地域 PBL」は、Ⅰ・Ⅱに加えてⅢが新規開講された。

「5 学部混合地域 PBL Ⅰ (1 年生以上対象、連携先：ひたちなかまちづくり株式会社ほか)、同 Ⅱ (2 年生以上対象、連携先：株式会社サザコーヒーほか)、同 Ⅲ (1 年生以上対象、連携先：茨城県ほか) はいずれも夏季集中で実施された。それぞれ約 39 名・13 名・23 名の参加があった。

平成 28 年度は「茨城学」を前学期に受講した教育学部と人文学部生の受講が多かったが、今年度は全学部で第 2 クォーターから開講したため、理系学生の参加が増えた。授業アンケート結果より、クラス満足度の 3 科目平均値は 0.91 である。また、PBL Ⅰ・Ⅱの授業の様子が『茨城新聞』9 月 12 日号に掲載され、社会からの関心の高まりを感じた。

② アンケートの実施

基盤教育科目および大学院における地域志向科目の授業担当教員にアンケートを実施した。結果から、さまざまな工夫をしながら地域志向教育を実施していることがわかった。これらをまとめて、『平成 29 年度茨城大学 COC 事業報告書』に掲載した。

2) 関連イベント

① ひたちなか表町商店街活性化プロジェクト



ひたちなか風土記」事業における学生のインタビュー

「5 学部混合地域 PBL Ⅰ」の授業後、受講生(1 年生 6 人)が「ひたちなか表町商店街活性化プロジェクト」を立ち上げ、10 月の学生地域参画プロジェクト (スタートアップ支援) に応募、採択された。11 月にひたちなか商工会議所、ひたちなか市役所、「PBL Ⅰ」の講師とともに、表町商店街にある市民交流拠点「ふらっと」の新たな活用法について意見を交換した。12 月にはひたちなか市でまちづくりに参加する人々が主催した「ひたちなか表町の活

性化検討ミーティング」に参加し、ワークショップや意見交換を行った。平成 30 年 2 月には、「ひたちなか風土記」事業の第一回に参加した。本事業は「まちの老舗企業の物語を若者が紡ぎ

共感を得るカタチに変えること」を目的としており、学生たちは表町商店街老舗企業の代表者へインタビューを行った。

②「茨城学」FD・SDの開催

5月10日、COC地域志向教育プログラム部会、授業の実施に協力いただいている本学教員、自治体関係者、昨年度の受講生などが一堂に会して「茨城学」FD・SDが行われた。詳細については、初年次教育部会（「茨城学」）を参照されたい。

(10) 地域協創人材プログラム部会

1) 部門の活動（特色ある業務活動）

① 「茨城学」のCOCプラス参加校への配信

大学間連携地域志向科目である茨城大学全学教育機構基盤教育科目「茨城学」のCOCプラス参加校への配信による授業の共有化を開始した。時間割が合わない茨城高専についてはDVD録画で学内閲覧可能とすることで共有した。茨城大学では全学必修科目のため1624人、茨城キリスト教大学では40人、常磐大学では58人、県立医療大学では52人の学生が受講した。各大学受講生の意見や感想、授業及びVCS配信（接続）に関する方法・問題点等について、平成30年2月に各大学担当教員で集まり議論・検討を行った。平成30年度はそこでの協議事項を反映させ授業を実施する。



↑ 茨城大学での「茨城学」開講の様子（左）とVCSによる参加校での配信の様子（右）

②「仕事を考える」

地域協創人材教育プログラムを構成する就業支援科目として、県内企業へのプレインターンシップ（1 day インターンシップ）を組み込んだ「仕事を考える」を開設し、工学部及び農学部の1年次54名が受講した。なお、本授業は旧カリキュラム教養科目である「ものづくりと社会」「仕事と社会」を前身とし、キャリアセンターが第4Qから実施している。



↑ (株) 旭物産 (写真左) と日立オートモティブシステムズ(株) (写真右) 訪問時の様子

2) 関連イベント

① インターンシップマッチングフェアの開催

インターンシップ科目への関連イベントとして、地域企業との連携強化に向けた学生への情報提供とマッチング環境の整備のため、「インターンシップマッチングフェア」を平成 29 年 7 月 6 日に開催し、本学及び COC プラス参加校の学生計 72 名が参加した。参加者からは「自身の専門分野とは異なる業界も知ることができて良かった (学生)」「学生さんと直接話をする事で学生の希望や気質を知ることができた (企業)」等の声があり、満足度調査では参加学生の 99%、参加企業(23 企業)の 90%から「満足」以上の回答を得た。



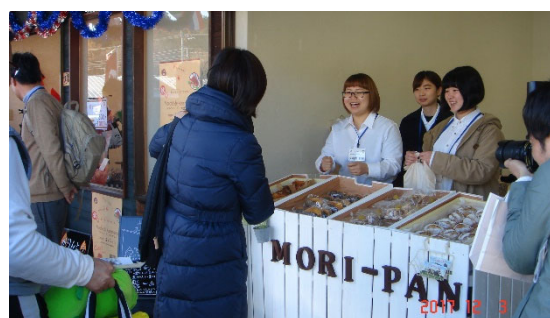
② インターンシップセミナーの開催

インターンシップ科目の関連イベントとして、学生のインターンシップ受入企業先の拡大や実施内容の更なる充実を目的に「経営者のためのインターンシップセミナー」を平成 29 年 10 月 11 日に開催した。まだインターンシップを実施したことが無い、あるいは実施したいが実施方法がわからない企業に対し、実際にインターンシップに取り組んでいる、取り組み始めた企業等の代表者や担当者、さらにインターンシップを経て採用された若手社員が登壇し、インターンシップのメリットや実施方法、実施する上での注意点等の事例を交え解説することで、地元企業におけるインターンシップ導入の機運を高めることができた。県内企業等の経営者及び採用担当者ら 60 名が参加した。



③ マルシェ・ド・カサマロンの開催

COC プラス参加大学間相互に乗り入れ可能な地域 PBL/インターンシップ科目の実現に向けて、その先駆的事業として H29 年 12 月 3 日に「マルシェ・ド・カサマロン」を開催した。当該イベントは、茨城の名産品である笠間の栗の六次産業化促進をベースに、地元企業との協働教育型 2 日間インターンシップ（1 日目：各企業での事前研修、2 日目合同イベントでの商品販売）の形で実施し、計 19 名（茨城大学 7 名、茨城キリスト教大学 3 名、常磐大学 7 名、茨城高専 1 名）の学生が参加した。



(11) AIMS プログラム部会

1) AIMS 部門の活動

AIMS (ASEAN International Mobility for Students) プログラムとは、マレーシア、インドネシア、タイの各国政府による共同の学生交流支援事業（平成 22 年開始）が起源となる、アジア発の国際教育プログラムである。現在は東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) の高等教育開発センター (RIHED) がプログラムの運営を統括しており、平成 24 年にベトナムが、平成 25 年にはフィリピン、ブルネイ、そして日本（茨城大学を含めて 11 大学）が参加した。平成 28 年には韓国が正式に加盟し、ASEAN+3 を包括する国際連携教育システムへと拡大しつつある。

茨城大学は、東京農工大学を幹事校として、首都大学東京とともに「ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」というテーマで大学の世界展開力強化事業（平成 25 年度）に採択され、AIMS 加盟校となった。本学は、地域社会の持続的発展の基礎となる安全な地域づくりと環境保全に主眼をおいた「地域サステナビリティ学コース」として、「環境変動適応・防災論」や「地域環境管理論」、「環境共生論」、「環境保全型農業論」

など10科目15単位の特色あるAIMSプログラム科目を提供している。主な受講者は、本学が交流するAIMS加盟大学6大学（ボゴール農科大学、ガジャ・マダ大学、スリウィジャヤ大学、カセサート大学、チェンマイ大学、ブルネイ・ダルサラーム大学）から来日するインドネシアおよびタイの留学生である。

アジアが「環境と調和した多文化共生社会の持続的発展」の道をたどるのかどうかは、世界の未来を左右するほどの影響がある。その実現に貢献することは、サステナビリティ・サイエンスに力を入れる本学にとっても重要な課題である。本プログラムの目的は、「アジアの持続可能な成長に貢献する地域リーダーの育成」であり、国際教育連携を推進することで、さまざまな産業を取り巻く環境と地域社会の抱える様々な問題を解析し、持続可能な社会を実現するための自立的な問題解決能力を有するグローバル人材の育成が期待できる。

2) AIMS 関連イベントの報告

AIMSプログラム科目は、主にはAIMS加盟大学からの留学生を対象とする科目群であるが、本学学生も英語による専門科目への挑戦、あるいは留学の準備として受講することが可能である。AIMSプログラムに関わる学生の派遣および受け入れ事業はAIMSプログラム運営委員会が所掌し、円滑効率的に運営してきている。受入学生に対しては授業科目の開講に留まらず、来日期间全体を通して受入プログラムとして管理運営しており、入国から帰国まで担当教職員が一貫してサポートを提供することで、受入学生の安全管理と満足度の向上に寄与している。また、英語による授業の受講のみを前提とした留学生の数が増加したことで、学内環境の二言語化や生活面のサポートに取り組むことが必要不可欠となり、学習環境の国際化推進に影響を与えている。さらに、地域サステナビリティ学セミナー・ラボワーク（計3単位）を設定し、学生たちの希望に沿って2つの研究室に配属して継続的な実験・実習の機会を提供することで、十分な研究体験を与えるとともに、本学学生との密接な交流が実現している。AIMS派遣学生の増加にともない、相互交流の機会が飛躍的に増加しており、地域の国際交流協会との連携が促進されるなど、多方面で効果が認められている。

○ 学生支援部門

1. はばたく茨大生 春の報告会 主催 (資料 その他-1)

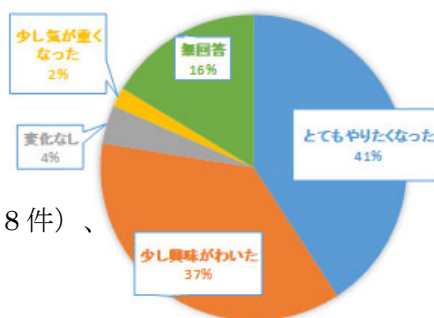
日時：2017年5月31日(水) 13:00～15:30

場所：茨城大学理学部 K 棟 1F インタビュースタジオ

内容：前半後半に企画を分け、前半口頭発表(8分/件,計8件)、
後半ポスター発表(18件)

参加者：約100名

成果評価：参加者アンケートでは、この企画に参加して学外学修への関心は参加差者の78%の者で高まったとしており、企画目的は概ね達成できたものと判断された。



2. 2017 前期 学長と学生の懇談会 主催 (資料 その他-2)

日時：2017年7月24日(月) 14:00～17:00

場所：水戸キャンパス 共通教育棟 2号館 4F 47番教室

内容：新入生を対象に大学入学前後での大学生活における印象の違いをはじめ、大学生活全般で感じたことなどについて即時統計表を
出され、クリッカーを用いて学長が質問しながら議論を深めた。

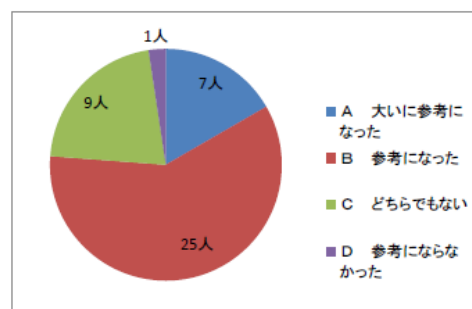


出された学生の意見は当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者：学生53名(5学部、1年次)、教職員11名(三村学長、太田理事・副学長ほか)。

成果評価：懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

1. 懇談会の内容は参考になりましたか？



3. 2017 後期 学長と学生の懇談会 主催 (資料 その他-3)

日時：2017年12月6日(水) 14:00～17:00

場所：水戸キャンパス 共通教育棟 2号館 4F 41番教室

内容：学部2～4年次を対象として、これまでの学生生活全般を通して感じたことから、茨大における学習環境及び学生生活向上に向けて様々な視点から意見要望を出してもらい、三村学長の進行のもと議論を深めた。前期の懇談会と同様、出された学生の意見は当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者：学生43名(5学部、2～4年次)、教職員9名(三村学長、太田理事・副学長ほか)。

成果評価：懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

4. 学長と理学部代表学生との懇談会 主催 (資料 その他-4)

日時：2017年11月22日(水) 14:00～15:00

場所：水戸キャンパス 学長室

内容：理学部における教職員と学生との懇談会（理学部モニター会）にて学生から出された意見要望のうち、学部では対応不可能であり全学で検討してほしい内容があり、それらについて理学部代表学生と学長が直接話し合う場を設け、改善に向け意見交換した。

参加者：学生 7 名（理学部、1～4 年次）、教職員 6 名（三村学長、太田理事・副学長、西川執行部スタッフ（学生支援）、中井英一（理学部 教学点検委員長）、野澤恵（理学部 教員）、二橋美瑞子（理学部教員））。

成果評価：少人数での濃密な意見交換になった。

懇談会后、議論にあがった 1 つの駐車場の木の整備が行われた。



5. バリアフリー推進室関連

1-① 体制整備

- (1) 茨大なんでも相談室を 3 キャンパスとも機能強化し、原則臨床心理士がインターカーとして対応するようにした。 延べ相談人数：794 名（茨大なんでも相談室 3 キャンパス合計）
- (2) バリアフリー推進室日立分室、阿見分室を新設し、臨床心理士が相談対応する等機能強化を行った。

バリアフリー推進室	区分	水戸	日立	阿見	計
延べ人数 (名)		933	352	234	1519
キャンパス別相談件数	実人数 (名)	113	51	37	201

※参考として、H28 年度バリアフリー推進室・修学支援室（水戸キャンパス）の相談件数 ⇒ 延べ人数 307 名 実人数 41 名

- (3) 主に発達障害や精神障害のある学生の学習や休息のスペースとして、自主学习室(やすらぎルーム)を水戸キャンパス共通教育棟 1 号館 131 室に設置し、試験的運用を開始した。利用延べ人数 135 名
- (4) ピアサポーターの養成及びその活動場所としてピアサポ室を水戸キャンパス共通教育棟 1 号館 110 室に新設し、平成 30 年 4 月 1 日スタートに備えた。
- (5) 「茨城大学における障害のある学生のためのバリアフリー推進に関する基本方針」を制定した。

- (6) 平成 30 年度入試から障害等のある入学志願者の事前相談窓口を入学課からバリアフリー推進室へ変更し、入学志願者の利便性向上を図った。⇒ 受験上等配慮人数 実人数 7 名、述べ相談人数 20 名

1-② 学生支援関連 FD の実施

障害のある学生支援関連 FD を、全学部及び全学教育機構において計 8 回実施した。⇒ 参加教職員計 378 名

- (1) 障害者差別解消法と合理的配慮の具体的実施について

参加者：農学部 教職員 49 名

日時：平成 29 年 3 月 15 日（水）13 時 30 分-14 時 00 分（前年度末先行実施）

場所：農学部第 1 会議室

- (2) 障害者差別解消法施行後の学生支援について

参加者：工学部 教職員 119 名

日時：平成 29 年 4 月 19 日（水）13:15～13:45

場所：工学部 E5 棟 8 階イノベーションルーム



- (3) 障害者差別解消法施行後の学生支援について

参加者：全学教育機構 教職員 48 名

日時：平成 29 年 5 月 31 日（水）16:00～16:30

場所：共通教育棟 1 号館 1 階第 1 会議室

- (4) 障害者差別解消法施行後の学生支援について

参加者：人文社会科学部 教職員 42 名、理学部 教職員 38 名

日時：平成 29 年 6 月 21 日（水）13:00～13:40

場所：人文社会科学部講義棟 15 番教室／理学部第 8 講義室（VCS で配信）

- (5) 障害者差別解消法施行後の学生支援について

参加者：教育学部 教職員 82 名

日時：平成 29 年 7 月 19 日（水）13:15～14:00

場所：教育学部 A 棟 2 階プレゼンテーションルーム

- (6) 学生支援事例対応について

参加者：全学教育機構共通教育部門プラクティカル・イングリッシュ 部会 6 名

日時：平成 29 年 7 月 19 日（水）14:30～15:50

場所：共通教育棟 1 号館 2 階 200-B 室

- (7) 障害者差別解消法と授業における学生対応について

参加者：全学教育機構共通教育部門プラクティカル・イングリッシュ 部会 19名

日時：平成29年11月27日（月）12:10～13:10

場所：共通教育棟1号館2階2A講義室

(8) 授業における発達障害のある学生への対応について

参加者：全学教育機構共通教育部門心と体の健康部会 13名

日時：平成29年11月20日（月）12:00～12:30

場所：教育学部D棟109室

1-③ いきいき茨城ゆめ大会 iOP 関連

本学学生を対象とした、いきいき茨城ゆめ大会2019ボランティアiOP準備のための説明会を茨城県庁協力のもと2回実施した。

参加者：67名（人・教・理・工学部）

日時：平成30年1月24日（水）13:00-14:00

場所：人文社会科学部講義棟10番教室



参加者：8名

日時：平成30年2月13日（火）16:00-17:00

場所：共通教育棟2号館22番教室

1-④ ピアサポーター関連

障害等のある学生を学生同士で支援するピアサポーター制度の充実のため研修会等を実施した。

(1)ピアサポーター育成

登録者:18名（情報提供希望者66名（左記含む））

(2)ピアサポーター研修会

・ ノートテイク講座

参加者：学生計16名

日時：平成29年5月17日 13:00-15:30 及び 平成29年5月24日 13:00-15:30

場所：共通教育棟2号館21番教室

・ 車いす介助講習

参加者：学生1名 教員5名 職員1名

日時：平成29年8月25日 10:30-12:00

場所：共通教育棟1号館111室及び水戸キャンパス構内

・ 平成29年度第1回ピアサポーター説明会

参加者：学生10名

日時：平成29年9月11日（月） 10:30-12:00

場所：共通教育棟 2号館 21番教室

・平成 29 年度第 2 回ピアサポーター説明会

参加者：学生 9 名

日時：平成 30 年 3 月 26 日（月）10:30-12:00

場所：共通教育棟 2号館 22番教室

1-⑤ アクセシビリティリーダー育成関連

多様な可能性を開拓する社会の構築を推進していくために必要なアクセシビリティに関する知識・技術・経験とコーディネート能力をもった人材を輩出することを目的とした、アクセシビリティリーダーの育成のための体制整備等を行った。

H29 年度は、アクセシビリティリーダー育成協議会より、本学の加入及び、アクセシビリティリーダー教育第 1 課程の承認を得て所定の講座を開講し、本学からアクセシビリティリーダー認定試験 2 級合格者 15 名（内、学生 6 名、教員 4 名、職員 5 名）を輩出した。



1-⑥ 広報活動

学生支援センターWEB サイト構築、運用開始 (<http://ssc.lae.ibaraki.ac.jp/>)

6. キャリアセンター関連

2-① 就職ガイダンス

日時：毎週水曜 3 限

開催回数：34 回（水戸キャンパス）

参加者：合計 2235 名

場所：図書館 1 階共同学習エリア ほか

内容：学生のインターンシップ参加や就職活動支援ガイダンス

2-② 合同企業説明会

日時：2018 年 3 月 2 日（土）、3 日（日）、4 日（月）10:30～17:30

場所：図書館 1 階共同学習エリア

内容：学部 3 年生、修士 1 年生を対象とした就職のための企業説明会

参加者：学生延べ人数 543 名、企業 216 社



2-③ インターンシップマッチングフェア

(1) 茨城大学学内インターンシップマッチングフェア キャリアセンター主催

日時：2017 年 11 月 8 日（水）14:30～16:20

場所：図書館 1 階共同学習エリア

内容：茨城県内企業への就職を考える、学部 1 年～3 年生を対象とした、企業等 15 社のインターンシップマッチングフェア

参加者：48 名



(2) 業界研究・インターンシップマッチングフェア COC プラス
事業と共催

日時：2017 年 7 月 8 日（土）13:00～16:00

場所：三の丸ホテル

内容：学部 1 年～3 年生を対象とした企業等 23 社のインターンシップマッチングフェア

参加者：72 名（内茨大生 32 名）

2-④ 業界研究

(1) 地元企業魅力発見セミナー キャリアセンター主催

日時：2017 年 10 月 18 日（水）14:20～15:50

場所：図書館 1 階共同学習エリア

内容：学部 1 年～3 年生を対象とし、地元企業の OB・OG と地元で働くことなどについて考えるセミナー

参加者：12 名

(2) 企業訪問バスツアー キャリアセンター主催

日時：2017 年 11 月 1 日（水）13:00～17:40

場所：（株）旭物産、木内酒造合資会社

内容：企業を訪問し、会社説明・職場見学・若手職員との座談会・質疑応答

参加者：8 名

(3) 業界研究会

日時：10 月～2 月

場所：キャリアセンター

参加企業：12 業界

内容：学生が直接業界の情報が濃密にできる機会として学内に企業を迎え開催

2-⑤ 実践的な就職支援

(1) 就活ベーシック講座

開催回数：6 回

内容：少人数でのエントリーシート作成指導、面接対策

参加者：延べ 56 名

(2) 面接練習会

開催回数：15回

参加者：36名

(3) グループディスカッション対策講座

開催回数：22回

参加者：128名

(4) 就職模擬面接会 人文学部と共催

開催日：2018年1月10日（水）

場所：人文学部

内容：2社の企業人事担当者を迎えての模擬面接会

(5) 内定者セミナー 人文学部と共催

開催日：2018年1月17日（水）

場所：図書館1階共同学習エリア

内容：今年度内定の決まった4年生による3年生への就活のノウハウの説明会

(6) 内定者による就活支援サークル'With'主催の講座・イベント

開催日：1月～2月 複数回開催

場所：キャリアセンター

内容：これから就職活動をする3年生に対しグループディスカッションの練習、キャリアセンターイベントの広報等

2-⑥就職支援関連における上記以外の活動

・未内定学生の就職支援

未内定学生の就職活動を支援するための6月末から7月にかけて学部4年生、修士2年生向けの学内個別説明会を企画し、11社25名の参加があった。

・茨城県と茨城大学における就職促進に関する協定書の締結

7/25 茨城県と茨城大学が互いに連携・協力し、大学等における地方創生の取り組みに資するとともに、本県へのUIJターンと地元就職・定着の支援を通じて、地域産業を担う人材の確保と地元定着を図ることを目的として「茨城県と茨城大学における就職促進に関する協定書」を締結した。（県と協定を結んだのは本学含め県内5大学、県外7大学）

・インターンシップ参加保険の見直し

インターンシップに参加する際の加入保険の取扱いを見直し、今まで保険の対象外となっていたインターンシップを学生の届け出を受け、大学行事として認めることで、これらのインターンシップについて保険の対象内で扱えるようにした。

・就職応援ブック編集発行

学生の就職活動を支援するため、学部3年、修士1年生を対象とした「茨城大学就職応援ブッ

ク」を発行した。

・留学生のための就職説明会

H29 年度初の試みで、H29 年度は共通教育棟 1 号館 1F キャリアセンター内にて 2 回開催し、参加者は延べ 21 名だった。内容は、日本での就職を希望する留学生に対し、就職活動の基本（日本の採用システム、提出書類、面接の方法）について概要を説明した。

7. その他

3-① はばたく茨大生 春の報告会 主催 【資料 その他-1】

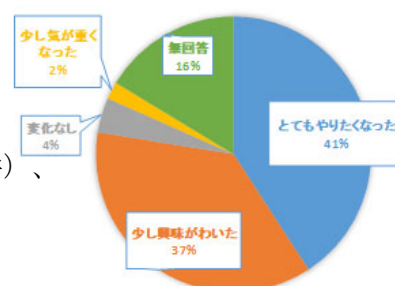
日時：2017 年 5 月 31 日（水）13:00～15:30

場所：茨城大学理学部 K 棟 1F インタビュースタジオ

内容：前半後半に企画を分け、前半口頭発表（8 分/件、計 8 件）、後半ポスター発表（18 件）

参加者：約 100 名

成果評価：参加者アンケートでは、この企画に参加して学外学修への関心は参加差者の 78%の者で高まったとしており、企画目的は概ね達成できたものと判断された。



3-② 「ICAS サステナ対話の広場」への「2017 年度 はばたく茨大生 春の報告会」ポスター展示 協賛(主催：ICAS) 【資料 その他-2】

日時：2017 年 5 月 22 日（水）～6 月 2 日（金）9:00～17:00

場所：茨城大学 図書館本館 1F 展示室

内容：①の企画についての前宣伝を兼ね、①のポスターを ICAS 主催の「ICAS サステナ対話の広場」の企画の一部として展示した。

3-③ 2017 前期 学長と学生の懇談会 主催 【資料 その他-3】

日時：2017 年 7 月 24 日（月）14:00～17:00

場所：水戸キャンパス 共通教育棟 2 号館 4F 47 番教室

内容：新入生を対象に大学入学前後での大学生活における印象の違いをはじめ、大学生活全般で感じたことなどについて即時統計表示されるクリッカーを用いて学長が質問しながら議論を深めた。



出された学生の意見は当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者：学生 53 名（5 学部、1 年次）、教職員 11 名（三村学長、太田理事・副学長ほか）。

成果評価：懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

3-④ 2017 後期 学長と学生の懇談会 主催 【資料 その他-4】

日時：2017年12月6日（水）14:00～17:00

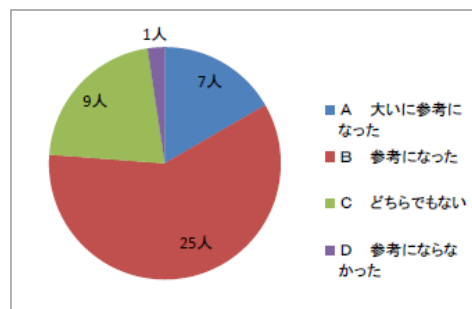
場所：水戸キャンパス 共通教育棟 2号館 4F 41番教室

内容：学部2～4年次を対象として、これまでの学生生活全般を通して感じたことから、茨大における学習環境及び学生生活向上に向けて様々な視点から意見要望を出してもらい、三村学長の進行のもと議論を深めた。前期の懇談会と同様、出された学生の意見は当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者：学生43名（5学部、2～4年次）、教職員9名（三村学長、太田理事・副学長ほか）。

成果評価：懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

1. 懇談会の内容は参考になりましたか？



3-⑤ 学長と理学部代表学生との懇談会 主催 （資料 その他-5）

日時：2017年11月22日（水）14:00～15:00

場所：水戸キャンパス 学長室

内容：理学部における教職員と学生との懇談会（理学部モニター会）にて学生から出された意見要望のうち、学部では対応不可能であり全学で検討してほしい内容があり、それらについて理学部代表学生と学長が直接話し合う場を設け、改善に向け意見交換した。

参加者：学生7名（理学部、1～4年次）、教職員6名（三村学長、太田理事・副学長、西川執行部スタッフ（学生支援）、中井英一（理学部 教学点検委員長）、野澤恵（理学部 教員）、二橋美瑞子（理学部教員））。

成果評価：少人数での濃密な意見交換になった。懇談会后、議論にあがった1つの駐車場の木の整備が行われた。

○ 国際教育部門

・国際教育部門の平成 29 年度の活動記録は以下のとおりである。

【部門の活動・定例業務】

月	活動記録
4月	4月3-5日ー交換留学生オリエンテーション 4月3日ー交換留学継続生のためのガイダンス 4月5日ー外国人留学生新入生ガイダンス（写真1） チューターガイダンス
5月	5月2日ー日本語研修コース受講生学外研修旅行（川越） 5月17日ー海外留学説明会 5月24日ー海外ボランティア・TOEFL説明会
6月	6月1日ー阿見キャンパス留学交流室開設 6月2-4日ー日本語研修コース受講生のホームステイ 6月7日ーアラバマ大学バーミングハム校講師によるセミナー実施 6月21日ー海外留学サロン 日本語研修コース『茶道・華道体験』 6月27日ー水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流
7月	7月1-2日ー国際交流合宿研修 7月6日ー日本人学生と留学生の七夕会（阿見キャンパス留学交流室） 7月12日ー派遣留学生のための留学前ガイダンス 韓国仁済大学校学生・教員の本学訪問（講義及び懇談会実施） 7月19日ー交流室チューター交流会（水戸キャンパス・阿見キャンパス） 交換留学生向け帰国前ガイダンス（前学期） 7月22日ーオープンキャンパス「国際交流留学案内」 7月25-28日ー「留学生・日本人学生協働発表会」(Studies in Contemporary Japan, Japanese Pop Culture, 日本語研修コースレベル3口頭表現)
8月	8月9日ー高校生向けの公開講座「ちがいをたのしむー多文化共生へのはじめの歩ー」
9月	9月21日ー学生交流促進のためのワークショップ（資料2-73） 9月24-26日ー日本語研修コースのオリエンテーション
10月	10月11日ー協定校派遣留学説明会 10月14日ー日本語研修コース茶道・華道体験 10月25日ー留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー 10月30日ー国際交流ハローウィンパーティー（阿見キャンパス） 10月28・30日ーブルネイ・ダルサラーム大学の学生との授業交流（別紙資料2-72）
11月	11月1日ー留学生のための就職説明会 11月11日ー留学生同窓会 11月18日ー公開講座「多文化共生ワークショップ」

	11月24日ー海外ボランティア・TOEFL説明会
12月	12月1日ーウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流 12月1-3日ー日本語研修コース受講生ホームステイ 12月12日ー工学部新2年留学生と日立キャンパス交流室チューターの交流会（別紙資料2-71）
1月	1月31日ー海外派遣留学生のための危機管理ガイダンス 交換留学生向け帰国前ガイダンス（後学期）
2月	2月7日ー日本語研修コース受講生学外研修旅行（鹿島） 2月15日ー阿見・日立キャンパス向け海外留学危機管理セミナー
3月	3月30日ーサポート隊ガイダンス



新入生ガイダンス

② 部門の活動 [特色ある業務]



7月1-2日—国際交流合宿研修



11月11日茶道体験

【部門の活動・特色ある業務】

1. 新規協定校の開拓

- ① アイダホ州立大学（アメリカ）と大学間交流協定締結
本学とアイダホ州立大学（アメリカ）の間で大学間交流協定が締結された。本学学生の留学希望者の多い英語圏への派遣枠確保と、留学生の受け入れが期待できる。
- ② レンヌ第一大学（フランス）と部局間交流協定締結
本学の全学教育機構と人文社会科学部がフランスのレンヌ第一大学の経営大学院（IGR-IAE Rennes, Graduate School of Management）と部局間交流協定を締結した。本学学生の留学希望者の多いヨーロッパへの派遣枠確保と、留学生の受け入れが期待できる。
- ③ NASFA への参加
平成 29 年 5 月に世界中の国際交流担当が集結する NAFSA が開催され、本学協定校への挨拶や、新たに西欧諸国の大学とコンタクトを増やした。今後新規コンタクト先への短期語学研修を検討する。

2. 短期海外研修の企画及び実施

- ① 「短期海外研修 I II（スペイン）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修 I II（スペイン）」を開講した。スペイン・アルカラ大学において夏期短期語学研修が実施され、本学より 2 名の学生が参加した。
- ② 「短期海外研修 I II（ブルネイ）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修 I II（ブルネイ）」を平成 29 年度 8～9 月に開講した。ブルネイ・ダルサラーム大学において 4 週間にわたる英語研修が行われ、本学より 14 名の学生が参加した。
- ③ 「短期海外研修 I II（韓国）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修 I（韓国）」を開講し、本学から 10 名（学部生 8 名、大学院生 2 名）が研修に参加し、学部生 8 名が同科目を履修した。
- ④ 「短期海外研修 I II（マレーシア）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修 I II（マレーシア）」の開講を企画している。平成 29 年度 10 月より募集を開始し、3 月に 2 週間 5 名派遣した。
- ⑤ 「短期海外研修 I II（サンフランシスコ・ボランティア）」（30 年度実施予定）の開講を企画
平成 30 年度の基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（サンフランシスコ・ボランティア）」の開講を企画し、実施計画が承認された。
- ⑥ 「短期海外研修 I II（オーストラリア）」（30 年度実施予定）の開講を企画
平成 30 年度の基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（オーストラリア）」の開講を企画し、実施計画が承認された。

3. 協定校との教育交流

- ① ブルネイ・ダルサラーム大学との授業交流（別紙資料 2-71：P000）
ブルネイ・ダルサラーム大学で日本語授業を履修している学生と、日本語教育プログラム「日本語教授法Ⅰ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を行った。
- ② カナダ・サイモンフレーザー大学とのオンライン学生交流を企画
サイモンフレーザー大学の日本語授業を履修している学生と、基盤科目の『多文化共生』科目を履修している学生とのオンラインによる学生交流を企画し、平成 29 年後期 1～2 月に実施した。
- ③ ウィスコンシン州立大学スペリオール校との授業交流
ウィスコンシン州立大学スペリオール校で日本語授業を履修している学生と、日本語教育プログラム「日本語教授法Ⅰ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を平成 29 年度 12 月に実施した。



ウィスコンシン大学スペリオール校の学生と、本学の日本語教育プログラム受講学生とのオンライン交流会

【関連イベント報告】

①小中学校・高等学校への留学生の派遣

今年度は、以下の県内各校に留学生を派遣し、地域の中学生・高校生と本学留学生との異文化交流を図った。特に、12月20日の県立水戸高等特別支援学校への事前学習は同校が海外への修学旅行を初めて企画するにあたり、その事前学習として派遣依頼されたもので、新聞等マスコミにも報道された。

- ・9月8日・13日茨城大学教育学部附属中学校（各5名派遣）
- ・10月11日県立桜の牧高等学校（4名派遣）
- ・11月13日龍ヶ崎市立八原小学校（13名派遣）
- ・12月13日県立桜の牧高等学校城北校（7名派遣）
- ・12月20日に水戸高等特別支援学校（2名派遣）

- ・12月21日茨城大学教育学部附属中学校（15名派遣）
- ・1月16・17日県立水戸第一高等学校（2日×16名派遣）
- ・1月24日に県立桜の牧高等学校城北校（7名派遣）
- ・1月26日に茨城大学教育学部附属中学校（10名派遣）、

②留学生・日本人学生協働発表会の実施

平成29年7月25日～28日、本学図書館展示室において「留学生・日本人学生協働発表会」を実施した。発表会では、基盤科目「Studies in Contemporary Japan」及び「Japanese Pop Culture」を履修する留学生・日本人学生が協働で日本の社会問題や文化について発表を行った他、日本語研修コースレベル3（口頭表現）・レベル4（総合）を履修する留学生が発表を行った。発表の他、展示室には協定校との交換留学プログラム、海外研修プログラム、本学で学ぶ留学生の母国・地域などを紹介するパネル約20点を展示し、本学の国際交流について学内外に取り組みを紹介した。



③学生交流促進のためのワークショップ（資料2-73：P000）

平成29年9月21日、阿見キャンパスにおいて、学生交流促進のためのワークショップを行った。ワークショップには、6名の日本人学生が参加した。後学期には参加した学生が中心となり、海外留学派遣予定学生・受入学生の交流を目指したおしゃべり型の日本語学習支援の授業が阿見キャンパスにて開講されている。

④協定校から講師を迎えてのセミナー開催

平成29年度6月7日（水）に協定校である米国アラバマ大学バーミングハム校にて日本語を担当されている高宮優実講師を迎え、全学教育機構グローバル化推進セミナーを開催した。「アメリ

カにおける日本語教育」と題し、日本語教育プログラム受講学生を中心に、現地での実践経験のある講師よりアメリカで日本語を教えるために必要な表現・スキル・手法を学んだ。

⑤ 学生国際会議の開催

平成 29 年 11 月 18・19 日、水戸キャンパスおよび水戸国際交流センターを会場に本学学生による第 13 回茨城学生国際会議が開催された。会議には、2 日間で茨城大学の学生・留学生のほか、県内の高校生を含む 151 名が参加。インドネシアのガジャ・マダ大学研究科長による講演のほか、学生等による学術発表がすべて英語で行われた。また、昨年を引き続き、2 日目の午後に水戸市内エクスカージョンを企画。弘道館ツアーでは、水戸観光コンベンション協会にご協力いただき、市民観光ボランティアによる英語での説明が行われ、高校生・留学生を含む参加者 57 名は弘道館の歴史と文化を楽しんだ。その後、参加者は、水戸市国際交流協会にて、本学学生のボランティアによる書道・茶道・けん玉のブースにて実際に日本文化を体験した。

⑦ 日本語教育プログラム「日本語教授法演習(海外)」

今年度より全学教育機構のプログラムとなった「日本語教育プログラム」の最終科目である「日本語教授法演習(海外)」の実施校にウィスコンシン州立大学、アイダホ州立大学、レンヌ第一大学が加わった。また、同科目は「海外協定校におけるインターンシップ型日本語教師養成プログラム」として日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）短期研修・研究型（タイプ A）に採択され、平成 30 年度には 3 名が派遣される予定である。

[資料：留学生向け日本語教育（単位なし）]

前期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル 1（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル 1（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル 2（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル 2（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル 2（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル 2（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル 2（読み書き）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル 3（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル 3（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル 3（総合）	青木香代子	水戸	15	15

日本語レベル3 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル3 (口頭表現)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル3 (漢字)	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (口頭表現)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (漢字)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5 (漢字)	非常勤	水戸	15	15
日本事情	安龍洙	水戸	15	15
日本語入門	瀬尾匡輝	阿見	10	10
初級日本語	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語中級	瀬尾匡輝	阿見	10	10
論文作成	瀬尾匡輝	阿見	10	10
非漢字圏の人のための漢字	瀬尾匡輝	阿見	10	10

後期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル1 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル1 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル3 (総合)	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル3 (漢字)	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル4 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (口頭表現)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル4 (漢字)	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル5 (総合)	非常勤	水戸	15	15
日本事情	安龍洙	水戸	15	15

② 部門の活動 [特色ある業務]

日本研究	安龍洙	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本語入門	瀬尾匡輝	阿見	10	10
初級日本語 II	瀬尾匡輝	阿見	10	10
アカデミック・ジャパニーズ	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語会話	瀬尾匡輝	阿見	10	10

③ 審議機関、委員会の活動

○ 全学教育機構会議

全学教育機構では、一般の学部では教授会に相当とする審議機関として全学教育機構会議を置き、毎月開催しています。専任教員だけでなく、兼務教員も出席し、人事など大学教育学野固有の案件を除きすべての審議に参加してもらっています。

[議長] 栗原和美 (全学教育機構長)

[副議長?] 副機構長 4 名

[出席者] 専任教員〇〇名、兼務教員〇〇名 (平成 30 年〇月時点)

・平成〇年〇月 (第〇回) から、資料の電子配付を開始し、平成〇年〇月 (第〇回) からは、議題の順番を整理し、兼務教員が各自の教授会で伝達されていると考えられる報告事項の際には退出いただくことになった。

・各回の議題等については、別紙資料に示す。

○ 予算・施設委員会

[委員長] ? (副機構長/部門長)、[委員] ???

予算・施設委員会では、(1) 予算配分の原案作成に関する事、(2) 予算要求の原案作成に関する事、(3) 概算要求及び補助金等の申請に関する事、(4) 共通教育棟の施設及び設備に関する事、(5) その他予算・施設に関する事が審議事項となっている。平成 29 年度は、例えば、科学研究費補助金の間接経費の使途などの審議を含め、〇回開催した。

○ 学術委員会

[委員長] 西川陽子 (副機構長/部門長)、[委員]

学術委員会の審議事項は、以下の 5 つであり、平成 29 年度については、特に全学教育機構論集「大学教育研究」および「グローバル教育研究」の企画、発刊を中心に業務を行った。

- (1) 教員の研究及び共同研究・研究プロジェクト等の促進・支援に関する事。
- (2) 研究上の交流及び研究資金の獲得に関する事。
- (3) 研究面に関する情報の収集・発信に関する事。
- (4) 教員の研究論文等の発表に係る企画、編集及び発行に関する事。
- (5) その他大学教育学野の研究活動の促進・支援に関する事。

第 1 回 2017 年 6 月 21 日(水) 16:00~17:00、共通教育棟 1 号館 2F 小会議室

<全学教育機構紀要について>

・前年度までの大京センター紀要、及び留学生センター紀要の内容を確認し、全学教育機構として両者を統一した形のものがないか検討し、機構紀要の中で 2 分野のものを置くことで統一を図ることとした。

・留学生センター紀要を引き継ぐものについては、昨年度と同様に今年度に限り冊子化し (既に今年度冊子化のための予算を確保しているため)、来年度からは全学教育機構全体として電子ジャーナルのみにすることを確認した。電子化後の雑誌登録番号の取得等については、別途調べ青

③ 委員会の活動

木委員を中心に検討することとした。

・論文の書式については、これまで大教センター紀要及び留学生センター紀要においてそれぞれ統一されてはならず、違いも大きいため、他学部紀要を参考に全学教育機構の紀要として統一的なものを改めて作成し規定することとした。

<科研費説明会>

・全学教育機構専任教員における科研費説明会の受講機会がなかったため、機構専任教員を対象に6月28日(水)の機構会議前に行うよう、URAに手配することとした。

第2回 2017年7月24日(月) 12:00~13:00、共通教育棟1号館2F 小会議室

<全学教育機構紀要について>

・紀要の名称について、機構長と相談した結果を踏まえ「縁覚教育機構論集」にすることとした。
・論集の中に、「大学教育研究」と「グローバル教育研究(旧留学生センター紀要を引き継ぐもの)」の2分野を置き、全学教育機構の活動を大学内外に広く知ってもらうこと、また、「大学(高等)教育」の発展に寄与することを目的とした学術研究の場として機能することを本論集の目的として位置づけることを確認した。

・名称、2分野を置くことを含め、「投稿規定(案)」について検討した。更なる修正意見等はメールによる連絡のやり取りにより行い、調整した「投稿規定(案)」、「募集要項(案)」等を資料として、7/26の全学教育機構会議に諮ることとした。

⇒7/26の機構会議では、いくつか修正希望意見が出たが概ね了承された。出された修正要望については委員会での検討に委ねられることが了承されたため、予定通り8/31を投稿申込締切り期限として、機構内で投稿募集をかけることになった。

第3回 2017年8月8日(火) 12:00~13:00、共通教育棟1号館2F 小会議室

<全学教育機構論集について>

・事務方からの論集担当者(学務部 総務:岡野)が決定したことを確認した。また、事務担当者は編集委員会会議には参加せず、事務方には会議結果について連絡するのみとし、執筆者との連絡のやりとり、電子ジャーナル化作業等のみを行うこととすることを確認した。

・論集編集委員専用のメーリングリスト設定が終了したことを確認した。

・機構会議の意見も含め、以下①~⑦の見直しを行った。更なる修正については、メールでのやり取りにより行い、次回会議までにこれらの最終原稿を完成させることとした。

- ① 茨城大学全学教育機構 大学教育論集投稿規定
- ② H29 論集原稿募集要項
- ③ 論集原稿募執筆申込書
- ④ 原稿整理カード
- ⑤ テンプレート
- ⑥ 原稿作成説明
- ⑦ 自己チェック・シート

第4回 2017年9月5日(火) 13:30~14:30、共通教育棟1号館2F 小会議室

<全学教育機構論集について>

・投稿申込数の確認を行った。申込数があまり多くなかったこと、全学教育機構外の学部教員から募集の有無について問い合わせがあったことから、締切りを 9/20 として再度全学に投稿募集をかけることとした。

・投稿規定をはじめとする前記①～⑦の原稿について、修正調整をした最終のものの確認し、確定した。既に投稿申込している者に対してテンプレートファイル等のファイル一式をメール送信するよう事務方をお願いすることとした。

<全学図書委員について>

・全学の図書委員を全学教育機構（学術委員会）から 1 名出すよう機構長より要請があり、寫田先生を委員として選出することに決定した。（機構長に報告し了承済）

第 5 回 2017 年 9 月 22 日(金)10:00～11:00、共通教育棟 1 号館 2F 小会議室

[委任：野村、寫田]

<全学教育機構論集について>

・第 2 弾投稿申込が終了し、申込者リストを作成し確認した。大学教育研究分野が 21 本、グローバル教育研究分野が 9 本であった。これらのうち、書評が 1 本あったため、書評は論集では対象としないため、申込者に論文への変更ができないか問い合わせ、できない場合は受付不可とすることとした。（野村委員が確認。申込取り下げ） また、申込のあったもののうち 5 本について、題名から大学（高等）教育との関連性が推察不可能だったため、関連性の有無について申込者に確認をとり、関連性があれば申込を受理することとした。（寫田委員、西川委員が確認、全て関連性をつけ執筆することを確認）

・前述申込受理が確認でき次第、第 2 弾申込者に対してテンプレートファイルをはじめ執筆に必要なファイル一式をメール送信するよう、事務方に連絡することとした。

・提出された論文のチェックについては、グローバル教育研究分野の 9 本は青木委員に一任し、大学教育研究分野の 20 本については、次回委員会にて全員出席の場で決定することとした。

第 6 回 2017 年 12 月 11 日（月）16:00～17:00 共通教育棟 1 号館 2 F 小会議室

出席者：青木、寫田、野村、山崎、西川

<論集編集スケジュール>

(1) 大学教育研究分野の原稿締め切りが 12/8 であり、最終提出論文について確認を行い、総数内訳は別紙資料 1 の通りであることを確認した。なお金先生の完成原稿は 12/12(火)に送れるとの連絡があり、委員に諮り受け付けることが了承された。

(2) 今後の論集完成までのスケジュールについて、編集作業をどこまで誰がやるか、業者にどこまで求めるかなど話し合い、別紙資料 2 の通り決定した。

(3) 論集全体の表紙奥付含む大学教育研究分野のページ構成について検討し、別紙資料 3 のページ割りに決定した。これをもとに印刷業者複数に見積もりをお願いし、依頼する業者を選定することとした。なお、以下のことについても確認された。

・表紙は大教センター紀要で使用していたローズブルムラを継承する。

・巻頭挨拶を木村機構長にお願いし、12 月中に岡野さんへ提出いただく。

・各論文全て奇数始まりとし、前論文が奇数で終わっていた場合にはその語に続く偶数ページは

空きとする。

・ヘッダー、フッター、タイトルデザインは原稿規定を鑑み、業者と相談し決定する。

(4) 業者選定

H29年度教育学部紀要の場合では、茨城印刷に依頼し1,000/頁（pdf 原稿化、2回校正、全て含む）とのことで、現在予算ギリギリの見込みだが、これを参考に業者選定を岡野、西川、寫田で行うこととした。

(5) 大学教育研究分野の原稿チェック担当を別紙資料1のように決定した。執筆要項に従い、チェックを行い、12/22までに岡野に提出、もしくは直接著者とやり取りを行うこととした。岡野提出分については、12/25～岡野より執筆者にチェック済原稿が返却され、1/5（16:00 締切り）に修正原稿を岡野に提出することに決定した。

(6) グローバル教育研究分野の現在の原稿の編集の進捗状況について青木委員から報告がされた。3月の図書館アップの際に全体を pdf 化したファイルを岡野に提出してもらうことを確認した。

<その他>

(1) 寫田委員より購読雑誌の厳選等、全学図書委員会の報告がされた。全学教育機構教員においては、大きく影響はない見込みであることが各委員からの情報により確認された。

(2) 次回委員会は業者選定の状況により、メールにて連絡することとした。

○ 点検評価委員会

第1回点検評価委員会議事メモ

日時 平成29年8月28日（木） 11:50～12:40

場所 共通教育棟第2会議室

出席者 栗原和美（委員長）、寫田敏行、小西康文、佐藤伸也、小磯重隆、池田庸子

陪席者 三浦学務課課長補佐

[議事概要]

審議事項

1. 点検評価委員会の具体的な業務内容について

委員長より、全学教育機構点検評価委員会内規について説明があり、審議事項の確認がなされた。

具体的には、第2条における(1)中期目標・剣客及び年度計画の点検・評価、(2)機構、各部門・部会の活動の調査及び点検・評価、(3)専任教員の教育、研究、地域貢献活動、運営業務等の調査及び点検・評価、(4)機構の活動報告の企画、編集及び発行、(5)その他機構における点検評価について確認した。

なお、(4)に関連して、年報について今後検討することとした。

今回、小西委員から、平成28年度後学期教養科目の教員自己点検結果について、本委員会で審議願い旨の要請があり、上記の(5)に該当するものとして審議を行うことになった。

2. 平成28年度教員の自己点検結果の対応及び公開について

小西委員から、平成 28 年度教員の自己点検結果の報告があり、特に、自由記述において、公開に際し、教員に確認が必要となる案件が1件あった。本件については、機構長、副機構長(共通教育)に、確認をお願いし、その後、公開することとなった。

3. 全学統一授業アンケート実施までの基盤・教養教育に対する授業アンケートの集計方法と今後の日程について

小西委員から、上記について説明があり、承認された。

第2回点検評価委員会議事録

日時 平成 29 年 10 月 10 日(火) 13:30~15:00

場所 共通教育棟 1 号館 3 階 第二会議室

出席者 栗原和美 (委員長), 畠田敏行, 小西康文, 佐藤伸也, 池田庸子

陪席者 三浦範昭, 奈良橋敏郎

審議事項

1. 栗原委員長から、平成 29 年度第 1 回点検評価委員会議事メモ(案)が配布され、説明があった。会議後に一箇所誤字が発見されたため、訂正が必要となる。
2. 小西委員から、平成 29 年度前学期学生アンケートの自由記述において、本委員会で審議が必要となる案件が 14 件あると報告があった。その内の 7 件に関しては副機構長(共通教育)に確認をお願いし、この 7 件の内の 3 件に関しては副機構長(共通教育)から適切なお対応をしていただくようお願いすることとなった。その他にも、担当教員へコメントを送付する際に注意書きを添える等、事務的な必要となる案件が 3 件あった。
3. 今後のスケジュールとして、佐藤委員に各担当教員へ配布する平成 29 年度前学期学生アンケートの集計の依頼があり、承認された。

第3回点検評価委員会議事録

日時 平成 29 年 11 月 21 日(火) 15:30~17:30

場所 共通教育棟 1 号館 3 階 第二会議室

出席者 栗原和美 (委員長), 池田庸子, 小磯重隆, 小西康文, 佐藤伸也, 畠田敏行

陪席者 三浦範昭, 奈良橋敏郎

審議事項

1. 議事録作成の担当者について

小西委員から、議事録作成担当者を委員の持ち回りとした旨提案され、提案のとおり承認された。

2. 平成 29 年度前学期教員自己点検評価の対応および公開について

小西委員から、平成 29 年度前学期教員自己点検評価アンケートの自由記述および意見において、本委員会で審議が必要となる案件が 29 件あると報告があった。その内の自己点検表記載の誤植に対しての 2 件に関しては、ウェブ版をすみやかに修正することで対応することとなった。担当教員へコメントを確認することが必要な案件が 1 件あり、確認後に公開することになった。「木 3 と同様」というようにして他科目のコメントを参照している案件が 1 件あり、アンケート集計

時に参照先のコメントへ入れ替えることで対応することとなった。アンケート項目や実施方法に対する 7 件に関しては、副機構長（共通教育）に確認をお願いすることとなった。また、各部門で協議が必要と思われる 9 件に関しては、各部門長に報告をすることとなった。その他、設備に関する回答を行う等、事務的な対応が必要となる案件が 10 件あった。

3. 共通教育部門 FD のための資料提供について

共通教育部門 FD のための資料として、学生アンケートおよび教員自己点検の集計結果、GPA やクラス満足度等の部門ごとの科目ランキング表、旧大教センターにて取りまとめていたアンケート実施報告書を提供することが承認された。なお、資料作成に用いるデータに関しては本日付のものとする事となった。

4. その他

点検評価委員会の業務内容に関する質疑応答があり、具体的な業務内容に関しては今後検討することとした。

○ 人事委員会

・人事委員会では、以下の項目を担当している。内容については掲載しない。

- (1) 教員の採用及び昇進等に関する事。
- (2) 教員の転任、退職及び休職等に関する事。
- (3) 茨城大学名誉教授の称号授与に関する事。
- (4) 領域長及び評議員の選出に関する事。
- (5) その他教員の人事に関する事

○ 全学教育機構 web サイト開設準備タスクフォース

全学教育機構の web サイト設置に向け、平成 29 年〇月の第〇回の全学教育機構会議において TF を設置した。

〔座長〕 寫田敏行（総合教育企画部門）

〔委員〕 佐藤伸也（共通教育部門）、矢嶋敬紘（学生支援部門）、瀬尾匡輝（国際教育部門）、塚田純（国際教育部門）、三浦範昭（学務部学務課）、山崎一希（広報室）

・平成 29 年度中は、会議を 3 回開催した（うち 2 回はメール会議）。各回の議事概要は以下のとおりである。

全学教育機構 web サイト開設準備 TF 第 1 回会合議事概要

開催日時 平成 30 年 1 月 15 日（月）10：20－11：30

会場 共通教育棟 1 号館 2 階 小会議室

出席者（全員）

議論の概要

○ メンバーの自己紹介を行い、座長を互選により選出した（総合教育企画部門・寫田）。

○ 各部門（センター）および広報室から茨城大学公式サイトへの更新計画について報告を行った。

総合教育企画部門：広報したい活動⇔AP 事業の活動でもあるため、AP 事業 web サイトを構築中。年度内に公開開始予定。

共通教育部門：旧大学教育センターweb サイトを運用中。部門・センターの web サイトとしてリニューアルするか、機構 web サイトの中に入れ込む形にするか、部門で検討したい。

学生支援部門：キャリア関係は web サイト運用中。学生支援関係も年度内に運用開始予定。

国際教育部門：現在もグローバル教育センターとして web サイトは運用中だが、年度内にリニューアル予定で作業進行中。

広報室（全学 web サイト）：創立 70 周年を目処にリニューアル計画を進行中

○ 議論の中で出た主な意見は以下のとおりである。

- ・例えば、教員のリストなどを大学の web サイトに掲載する計画もあり、ここ 1、2 年で検討が進められるので、当面は各部門・センターで小回りを効かせる感じでの情報発信を行うことを基本とすべきではないか。

- ・全学教育機構の web サイトについては、全学と各部門・センターを補完する形で設計し、なるべく更新の頻度が高くないよう（メンテナンスフリー）にする方向ではどうか。

- ・全学教育機構の各部門は全学的な業務が多いため、単に機構の web サイトを作る作らない、という話だけでなく広報室との連絡を密に取りながら、どこにどのようなコンテンツを配置すべきなのか、ということは今後、考えて行かなくてはならないのではないか。

○ このような議論を受け、以下のような方針で当面、検討および作業を進めることとした。

- ・1 月末までに座長のほうで、全学教育機構 web サイトに掲載することが考えられるコンテンツについて案を作り、各メンバーから意見をもらうこととした。

- ・2 月上旬に会合を開き、年度内の運用開始を目指すのか、もう少し時間的余裕を持たせつつ検討を進めるのかの判断を行うこととした。

- ・次回会合までに、web サイトの運用、リニューアルを進めている部門・センターは、その概要を共有いただき、構築の検討を行っているところはその方針を示してもらうこととした。

- ・web サイトの URL に使用するサブドメイン名（www. xxx. ibaraki. ac. jp の xxx の部分）については、案を TF で絞り込み、機構会議において各構成員から意見をうかがうのはどうか、ということ調整を進めることとした。

メール審議でサブドメイン案を策定し、2 月 21 日に機構長に報告の上、○月○日の全学教育機構会議に以下のように報告し、了承いただいた。

全学教育機構 web サイト開設準備 TF 第 2 回会合議事概要

[期間] 平成 30 年 2 月 16 日から 2 月 21 日

- ・第 2 回については、全学教育機構のサブドメイン名の案の策定

全学教育機構のサブドメイン名について

全学教育機構 web サイト検討タスクフォースにおいて協議を行った結果、「Liberal Arts Education」の頭文字を取って、「lae」を全学教育機構のサブドメイン名としたいと思います。現在構築中の全学教育機構の web サイトの URL は

www.lae.ibaraki.ac.jp

となります。

<参考>

www.hum.ibaraki.ac.jp (人文社会科学部)

www.edu.ibaraki.ac.jp (教育学部)

www.sci.ibaraki.ac.jp (理学部)

www.eng.ibaraki.ac.jp (工学部)

www.agr.ibaraki.ac.jp (農学部)

(参考) TF メンバーによる投票結果

2 票

www.liberal-arts.ibaraki.ac.jp

www.lae.ibaraki.ac.jp

1 票

www.ilae.ibaraki.ac.jp

0 票

www.zkk.ibaraki.ac.jp ※3 文字の場合

同数票となったのと、票が割れていたため、TF 座長である畠田が栗原機構長で協議させていただき、他学部と合わせることで提案したいと思います。

全学教育機構 web サイト開設準備 TF 第 3 回会合議事概要

[期間] 平成 30 年 2 月 22 日から 3 月 28 日

[メール審議]

- ・投票結果などもとに、全学教育機構会議に報告する案をとりまとめた。

全学教育機構のサブドメイン名および web サイト構築の進捗状況について (報告)

今年度の全学教育機構 web サイト開設準備タスクフォースの活動状況について報告させていた

できます。

1. 全学教育機構 web サイト開設の見通しについて

- ・今年度については、各部門（センター）の状況把握、全学の web サイトのリニューアル計画などの情報収集を中心に活動を行いました。（会議 1 回 [1/15]、メール会議 1 回）
- ・全学教育機構の web サイトについては、先行して運用を開始もしくは開始予定の部門（センター）と調整しつつ、平成 30 年度内での開設を行うべく作業を行う予定です（大学に予算要求を実施）。

2. サブドメイン名の設定について

- ・全学教育機構の web サイトの開設前に、サブドメイン（インターネット上で全学教育機構を示す文字列）については、グローバル教育センターのサイトリニューアル、学生支援センターのサイト新設に備え設定する必要があったため、メール会議で案を募り栗原機構長に提案しました。2 月 22 日の全学教育機構の執行部会議で承認をいただき、各センターでの作業を進めてもらいました。

サブドメイン名：lae（全学教育機構の英語名称、Institute for Liberal Arts Education より）

[他部局の例 hum→人文社会科学部、edu→教育学部、sci→理学部、eng→工学部、agr→農学部]

インターネット上での使用例：

<http://xxx.lae.ibaraki.ac.jp>

のように用います。xxx の部分には、各部門/センターを識別する文字列が入ります。

例)

cge.lae.ibaraki.ac.jp : グローバル教育センター

ssc.lae.ibaraki.ac.jp : 学生支援センター

(※文字列では一体化されていますが、管理はそれぞれに行っていただいております。)

開設予定の全学教育機構 web サイトは、www.lae.ibaraki.ac.jp、となる予定です。

④ 平成 29 年度における教員の活動

[機構長]

職位	氏名	専門分野	本務所属
機構長	栗原 和美	電力工学・電気 機器工学	理工学研究科（工学野）電気電子システム工学領域・ 教授/副学長

[評議員・副機構長]

職名	氏名	専門分野	本務所属
評議員	松坂 晃	応用健康科学	全学教育機構 共通教育部門 教授
総合教育企画部門長	下村 勝孝	基礎解析学	理工学研究科（理学野）数学・情報数理領域・ 教授
共通教育部門長	篠嶋 妥	金属物性	理工学研究科（工学野）物質科学工学領域・ 教授
学生支援部門長	西川 陽子	食品科学, 科学 教育, 食生活学	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コ ース 家政教育教室・教授/学長特別補佐
国際教育部門長	佐藤 達雄	園芸学・造園学, 育種学, 植物栄 養学・土壌学	農学部 附属国際フィールド農学センター・教 授/学長特別補佐
学務部長	向後光典	事務統括	事務局学務部

○ 総合教育企画部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
准教授	畠田 敏行	教育学, 大学経営	60
助教	佐川 明美	高等教育マネジメント	59

[兼務教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
教授	田中 耕市	各学部との連絡調整、 学部内での教育改善 施策の立案や実施	人文社会科学部 現代社会学科
教授	齋藤 芳徳		教育学部 情報文化課程
教授	中川 尚子		理工学研究科（理学野）物理学領域
教授	横木 裕宗		理工学研究科（工学野）都市システム工学領域
准教授	牧山 正男		農学部 地域総合農学科

[協力教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
教授	井上 拓也	各学部との連絡調整、学部内 での教育改善施策の立案や	人文社会科学部 法律経済学科
教授	梅津 健一郎		教育学部 学校教育教員養成課程 教科

		実施	教育コース 数学教育教室
教授	大久保 武		農学部 食生命科学科
准教授	佐藤 伸也		全学教育機構 共通教育部門

○ 共通教育部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
教授	福田 浩子	言語教育, 応用言語学, 異文化コミュニケーション	64
教授	金光男	地域研究, 東アジア国際関係史	65
教授	松坂 晃	応用健康科学	66
准教授	Frederick Allan Shannon	応用言語学	68
准教授	小林 邦彦	異文化コミュニケーション、英語教育学、第二言語習得	69
准教授	小西 康文	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	70
准教授	菊池 武	英語教育	71
准教授	SCHMIDT-Fajlik Ronald	English language teaching pedagogy, intercultural communication	72
准教授	清水 恵美子	比較文学比較文化、日本近代美術史	73
准教授	佐藤 伸也	情報学基礎理論、計算機システム、ソフトウェア	76
准教授	上田 敦子	外国語教育	78
准教授	山崎 大	天文学 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	79
講師	大森 真	英語教育	81
講師	佐々木 友美	外国語教育	82
講師	鈴木 聡子	外国語教育	83
講師	館 深雪	英語教育、言語教育、カウンセリング	84

[兼務教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
准教授	神田 大吾	多文化理解部会；初修外国語	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	横溝 環	多文化理解部会；異文化コミュニケーション	人文社会科学部 現代社会学科
教授	櫻井 豪人	多文化理解部会；ヒューマニティーズ*	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	牧 良明	社会と生活部会	人文社会科学部 法律経済学科
教授	木村 昌孝	グローバル英語プログラム部会	人文社会科学部 現代社会学科
准教授	渡邊 将司	心と体の健康部会	教育学部 人間環境教育課程
教授	谷川 佳幸	多文化理解部会；パフォーマンス&アート	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 音楽教育教室

④ 教員の活動に関する主要データ

准教授	大塚 富美子	自然・環境・科学部会	理工学研究科（理学野） 数学・情報数理領域
教授	江口 美佳	自然・環境・科学部会	理工学研究科（工学野） 物質科学工学領域
教授	上妻 由章	自然・環境・科学部会	農学部 食生命科学科
准教授	坂上 伸生	AIMS プログラム部会	農学部 食生命科学科
教授	安江 健	地域協創人材教育プログラム部会	社会連携センター/農学部 食生命科学科

○ 学生支援部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
准教授	小磯 重隆	教育社会学	85
講師	矢嶋 敬紘	社会福祉学, 臨床心理学	86

○ 国際教育部門

[専任教員]

職位	氏名	専門分野	掲載頁
教授	安 龍洙	日本語教育	88
教授	八若 壽美子	日本語教育	89
教授	池田 庸子	日本語教育	90
講師	青木 香代子	教育学（多文化教育、異文化間教育、国際理解教育）	92
講師	瀬尾 匡輝	日本語教育, 外国語教育, 教育社会学	93
助教	塚田 純		96

[兼務教員]

職位	氏名	部門での役割	本務所属
教授	村上 雄太郎	各学部との連絡調整、学部内での国際教育施策の立案や実施	理工学研究科（工学野） 数理・応用科学領域
教授	湊 淳		理工学研究科（工学野） 数理・応用科学領域
准教授	中村 彰宏		農学部 食生命科学科

総合教育企画部門	氏名 佐川 明美
-----------------	-----------------

職名	助教
学位	修士（工学）信州大学
学歴	
職歴	日立工機株式会社（米 DPC 社.）研究職、株式会社リコー 法務知財 1990/04/01-2008/09/30 同社 知的財産権本部 特許技術職 2008/10/01-2015/08/31 茨城大学 社会連携センター 産学官連携コーディネーター 2015/09/01-2016/11/13 茨城大学 全学教育機構 2016/11/14-現在
免許・資格	中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状（2016 更新） 知的財産管理技能士（国家資格） AIPE 認定 知的財産アナリスト
教育研究概要	高等教育マネジメント (キーワード) 質保証 IR
所属学会	知的財産管理技能士会 日本知財学会
受賞歴	
担当科目	なし

平成 29 年度における研究業績

<p>○ 論文等</p> <p>1. 佐川 明美、寫田 敏行、栗原 和美「大学評価と IR」 「茨城大学における教育の質保証の取組（仮称）」（承認依頼中）</p> <p>○ 研究発表等</p> <p>1. 「平成 29 年度高知大学 AP 事業シンポジウム&ポスターセッション」ポスター発表、共催茨城大学（東京都）（2017 年 10月）</p> <p>2. 「AP 事業テーマ V・茨城大学・東日本国際大学合同勉強会」発表（2018 年 3月） 茨城大学</p>
--

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

<p>○ 講演会・シンポジウム</p> <p>1. 公開型 FD/S D 研修会運営「講義形式授業において学生の学習を促進する授業デザイン」（2018 年 3月）茨城大学</p> <p>2. ひたちなか市男女共同参画センター総会講師「社会で活かせる資格 (know-how) と資質」(2017 年 5月) ひたちなか市男女共同参画センター</p> <p>○ 社会的活動</p> <p>1. [研究交流] 公開授業 研究主題「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善—校内 Wi-Fi・スマホ・プロジェクター・タブレット等の活用—(2017 年 11月)奈良市一条高校</p> <p>2. [研究交流] グローバル知財戦略フォーラム 2018 「ビジネスと知財の統合的なマネジメント～変革期に求められる新たな視点を取り込んで顧客価値創造を～」(2018 年 1月)東京</p> <p>3. [地域交流] 地域ブランドシンポジウム in 北陸～今すぐ実践できる地域ブランド戦略～(2017 年 11月)金沢</p> <p>4. [地域交流] 知財シンポジウム in KANSAI 「イノベーションの創出拠点としての大学活用」(2018 年 1月)神戸</p> <p>5. [地域交流] 第 2 回茨城県ベンチャーピッチ「県内のベンチャー企業、技術力やアイデアをプレゼン」(2018 年 2月)つくば</p>
--

平成 29 年度における国際交流活動

④ 教員の活動に関する主要データ

1. [研究交流] 「日米における内部質保証システムに関する研究会」・メイン州立大学オーガスタ校 (米国) (2017年12月～2018年01月)

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 機構教員としての全学的活動 (教学マネジメント) 等

1. [助成事業] 文部科学省平成28年度大学教育再生加速プログラム (AP) テーマV 「卒業時の質保証の取組の強化」中間評価
2. [研究交流] 「平成29年度 全国大学教育研究センター等協議会、分科会」授業評価アンケートについて (2017年9月) 徳島大学
3. [研究交流] 平成29年度 教育改革国際シンポジウム「大学教育の成果をどう測るか」ー全国卒業生調査の国際的動向ー (2017年12月) 文部科学省

総合教育企画部門

氏名 畠田 敏行

職名	准教授
学位	修士 (理学) [金沢大学]
学歴	金沢大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程 地球環境科学専攻 [2003年単位取得退学] 金沢大学大学院 自然科学研究科 博士前期課程 生命・地球学専攻 [1999年修了] 金沢大学 理学部 地学科 [1997年03月卒業]
職歴	茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門准教授 (2016年8月～) 茨城大学 IT基盤センター 教育IT化推進部門 (兼務) (2018年5月～) 茨城大学 大学戦略・IR室准教授 (2015年4月～2016年7月) 茨城大学 大学戦略・IR室助教 (2014年10月～2015年3月) 茨城大学 助教評価室 (2007年4月～2014年9月) 茨城大学 IT基盤センター ITシステム運用部門 (兼務) (2005年7月～2018年4月) 茨城大学 助手評価室 (2005年3月～2007年3月) 茨城大学 水戸事業場衛生管理者 (2004年4月～) 茨城大学 学術企画部 企画課 大学改革係 (2004年4月～2005年2月) 茨城大学 総務部 総務課 大学改革推進室 大学改革推進係 (2003年4月～2004年3月) 防災科学技術研究所非常勤職員 (文部科学省研究開発局防災科学技術推進室勤務) (2002年7月～2002年8月)
専門分野	教育学 大学経営
教育研究概要	大学運営支援のための情報収集、分析、活用的高度化を図るための機能 (IR) を活用した継続的な教育改善の仕組み (内部質保証システム) 構築の実践的研究を進めている。 (キーワード) 大学改革、評価
所属学会	米国 IR 協会 日本地形学連合 大学評価コンソーシアム 日本高等教育学会
受賞歴	なし
担当科目	なし

平成29年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [調査報告書・共著] 畠田 敏行, 山本 幸一 「大学評価・IR 担当者集会2017 「IR 初心者/初級セッ

ション実施報告書」, 大学評価コンソーシアム, (2017年09月28日)

2. [その他・編者] 大学評価コンソーシアム情報誌編集委員会「情報誌「大学評価とIR」第8号」, 大学評価コンソーシアム, (2017年08月10日)
3. [研究論文(学術雑誌)・共著【査読あり】] 大川 一毅, 大野 賢一, 寫田 敏行「実施状況調査から把握する全学卒業生組織による母校・在学生支援」, 大学論集, **50**, 113-128 (2018年03月)
4. [研究論文(学術雑誌)・共著【査読あり】] Noriko Hasebe, Haruka Hayashi, Kazumi Ito, Manabu Ogata, Toshiyuki Shimada, Taeko Itono "Environmental regime change at around 500 BCE found in sediment cores from Lake Yogo, Japan: Possible impact of agricultural use", CATENA, **157**, 171-175 (2017年12月)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・国内会議(共同)] 寫田敏行, 岡部康成, 末次剛健志, 白石哲也, 土橋慶章, 橋本智也, 藤原将人, 田中秀典, 山本幸一「我が国のIRオフィスの現状から考えるIR立ち上げ後の課題とその解決」継続的改善のためのIR/IEセミナー2018 [セッション2] 日本型IRの課題とその解決に向けたセッション(九州工業大学 戸畑キャンパス) [2018年03月02日]
2. [口頭発表(一般)・国内会議(単独)] 寫田 敏行「内部質保証システムをTQMから考える」平成29年度第3回 IR実務担当者連絡会(明治大学 駿河台キャンパス) [2017年10月27日]
3. [口頭発表(一般)・国内会議(共同)] 大野 賢一・寫田 敏行「各大学で共通に見られる現象の括りだしから「共通知」を整理する」平成29年度第3回 IR実務担当者連絡会(明治大学 駿河台キャンパス) [2017年10月27日]
4. [口頭発表(一般)・国内会議(単独)] 寫田 敏行「IRの各業務フェイズでの留意点について」大学評価・IR担当者集会2017 IR初心者/初級セッション(立命館大学 大阪いばらきキャンパス) [2017年08月25日]
5. [口頭発表(一般)・国内会議(共同)] 寫田 敏行「事例をもと内部質保証のガイドラインを読み解く」継続的改善のためのIR/IEセミナー2017b セッション2「質保証とカリキュラム・マネジメント」(九州大学 伊都キャンパス) [2017年07月21日]
6. [口頭発表(一般)・国内会議(共同)] 寫田 敏行, 藤井 都百, 大野 賢一「大学評価コンソーシアムによる評価・IR人材育成活動について」継続的改善のためのIR/IEセミナー2017b セッション1「IR人材の在り方について考える」(九州大学 伊都キャンパス) [2017年07月20日]
7. [口頭発表(一般)・国内会議(単独)] 寫田 敏行「教員のパフォーマンスをどのように測りマネジメントにつなげるか」平成29年度第2回 IR実務担当者連絡会(帯広畜産大学) [2017年07月14日]
8. [口頭発表(一般)・国内会議(単独)] 寫田 敏行「茨城大学における第三期中期目標期間の計画進行管理について」平成29年度第1回 IR実務担当者連絡会(立命館大学 大阪いばらきキャンパス) [2017年05月19日]

平成29年度における社会的活動、地域貢献など

○ 行政機関等での委員就任

1. 文部科学省 科学技術・学術政策局「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」調査項目等に関する検討会 [座長代理]
2. 文部科学省 科学技術・学術政策局「研究開発評価推進検討会」 [委員]

○ 兼業・兼職

1. [兼業] 兼業サンプルデータ・役職サンプル (2017年04月～2018年03月)

○ 学協会での役職

1. 大学評価コンソーシアム, 副代表幹事(総務担当) (2011年09月～)

○ 学外教育

1. [その他]「平成29年度第3回 IR実務担当者連絡会[企画運営・講義](明治大学 駿河台キャンパス)」, 大学評価コンソーシアム

④ 教員の活動に関する主要データ

2. [その他] 「平成 29 年度第 2 回 IR 実務担当者連絡会 [企画運営・講義] (帯広畜産大学)」, 大学評価
コンソーシアム
 3. [その他] 「平成 29 年度第 1 回 IR 実務担当者連絡会 [企画運営・講義] (立命館大学大阪いばらきキャン
パス)」, 大学評価コンソーシアム
- 講演会・シンポジウム
1. 「石川県公立大学法人大学 I R セミナー (国内)」, 石川県公立大学法人 (しいのき迎賓館 (石川県金沢
市)) [招待講演] (2018 年 02 月)
 2. 「日本私立大学連盟 第二回学長会議」, 日本私立大学連盟 (東京都千代田区) [招待講演, パネリスト]
(2018 年 01 月)
 3. 「第 3 回 GAKUEN IR 研修会 2017 (国内)」, 日本システム技術株式会社 (東京都・港区) [招待講演] (2017
年 12 月)
 4. 「鳥取大学 FD 講演会 (国内)」, 鳥取大学 (鳥取県 鳥取市) [基調講演, 招待講演] (2017 年 12 月)
 5. 「教職員能力開発拠点事業 IRer 養成講座 in 愛媛 (国内)」, 愛媛大学・大学評価コンソーシアム (共催)
(愛媛県・松山市) [企画・運営, その他] (2017 年 11 月)
 6. 「高知大学 平成 29 年度 AP 事業シンポジウム (国内)」, 共催茨城大学 (東京都) [招待講演, パネリス
ト] (2017 年 10 月)
 7. 「第 23 回 GAKUEN 全国ユーザ研修会 (国内)」, 日本システム技術株式会社 (福岡工業大学) [招待講演]
(2017 年 10 月)
 8. 「第 2 回 GAKUEN IR 研修会 2017 (国内)」, 日本システム技術株式会社 (東京都・港区) [招待講演] (2017
年 10 月)
 9. 「平成 29 年度第 2 回宮崎大学 SD/FD 研修会 (国内)」, 宮崎大学 (宮崎県宮崎市) [基調講演, 招待講演]
(2017 年 09 月)
 - 10 「大学評価・IR 担当者集会 2017 (国内)」, 大学評価コンソーシアム (立命館大学大阪いばらきキャン
パス) [企画・運営, その他] (2017 年 08 月)
 - 11 「継続的改善のための IR/IE セミナー」, 大学評価コンソーシアム (九州大学 伊都キャンパス) [企画・
運営, その他] (2017 年 07 月)
 - 12 「東京海洋大学 IR 研修会 (国内)」, 東京海洋大学 (東京都・港区) [基調講演, 招待講演] (2017 年 07
月)
 - 13 「第 1 回 GAKUEN IR 研修会 2017 (国内)」, 日本システム技術株式会社 (東京都・港区) [招待講演] (2017
年 07 月)
 - 14 「河合塾・教学 IR セミナー「内部質保証の実現をめざして」 (国内)」, 学校法人河合塾 (東京都千代田
区) [基調講演, 招待講演] (2017 年 07 月)
 - 15 「GAKUEN 事例セミナー in TOKYO」, 日本システム技術株式会社 (東京都・港区) [招待講演] (2017 年 06
月)
 - 16 「茨城キリスト教大学 SD 研修会 (国内)」, 茨城キリスト教大学 (茨城県日立市) [基調講演, 招待講演]
(2017 年 05 月)
 - 17 「平成 29 年度第 1 回 IR 実務担当者連絡会 (国内)」, 大学評価コンソーシアム (立命館大学 大阪いばら
きキャンパス (大阪府茨木市)) [企画・運営, その他] (2017 年 05 月)

平成 29 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費] 基盤研究(B) (代表) 「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用
に関する研究」 (2015 年 04 月 01 日～2019 年 03 月 31 日)
2. [科研費] 基盤研究(C) (分担) 「大学の持続的発展に資する校友 (大学・学生・卒業生) 事業の意義と
可能性に関する研究」 (2015 年 04 月 01 日～2018 年 03 月 31 日)

○ 共同研究・受託研究

1. [国内共同研究]「大学ベンチマークの理論に関する基礎的研究(分担)」, 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 (2017年04月～2018年03月)
2. [国内共同研究]「環境領域の研究コミュニティの効果的形成と運用に関する予察的研究(代表)」, 金沢大学環日本海域環境研究センター (2017年04月～2018年03月)

平成29年度における国際交流活動

1. [研究交流]「日米における内部質保証システムに関する研究会」・メイン州立大学オーガスタ校(米国) 2018年01月～2018年01月

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1. 「全学教育機構 web サイト開設準備 TF」 [座長] (2017年11月～)
2. 「全学教育機構 点検評価委員会」 [委員] (2017年04月～)
3. 「全学教育機構 学術委員会」 [委員] (2017年04月～)

○ 全学的委員会の業務

1. 「図書館本館委員会」 [委員] (2017年10月～)
2. 「図書館運営委員会」 [委員] (2017年10月～)
3. 「教務情報ポータルシステム専門委員会」 [副委員長] (2017年04月～)
4. 「全学情報委員会」 (2015年～)
5. 「年俸制適用教員業績評価専門部会」 (2015年～)
6. 「水戸事業場安全衛生委員会」 [衛生管理者] (2004年～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. FD担当者 (2003年10月～)

○ その他の校務

1. [教員業務評価のデータシート作成および支援業務] (2005年10月～)
2. [中期目標・計画進行管理システム運用・改修] (2006年08月～2018年7月)
3. [教育改善支援システム運用・改修] (2008年04月～)

④ 教員の活動に関する主要データ

共通教育部門		氏名 福田 浩子
職名	教授	
学位	修士（国際コミュニケーション）〔青山学院大学〕	
学歴	青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 修士課程 国際ビジネス専攻（国際コミュニケーション）〔1996年修了〕 慶應義塾大学 文学部〔1978年卒業〕	
職歴	茨城大学全学教育機構教授（2017年4月～） 茨城大学人文学部教授（2013年10月～） 茨城大学人文学部准教授（2007年4月～2013年9月） 慶應義塾大学外国語教育センター上席研究員（2007年10月～2011年3月） 茨城大学人文学部助教授（2002年4月～2007年3月） 武蔵野女子大学人間関係学部非常勤講師（2000年4月～2001年3月） 獨協大学外国語学部非常勤講師（1999年4月～2002年3月） 獨協大学オープン・カレッジ講師（1999年4月～2002年3月） 青山学院大学国際政治経済学部兼任講師（1998年4月～2004年3月） 日本能率協会マネジメントセンター人事アセスメント研究所外部講師（1995年4月～2002年3月） 湘北短期大学非常勤講師（1990年4月～1999年3月）	
専門分野	言語教育 応用言語学 異文化コミュニケーション	
教育研究概要	茨城大学総合英語プログラムの企画、開発を担当したことから、CEFRを参照した日本における英語教育のカリキュラム開発、特に到達目標の策定、Can-do statementsの開発、自律的学習のあり方などを研究してきた。また、Hawkinsらのイギリスの「言語への気づき」(Language Awareness)を踏まえた、日本の言語教育(母語・外国語教育)における言語への気づきをテーマとし、小学校の英語・国語教育・国際理解教育をつなぐものとしての言語意識教育、多言語多文化共生時代の言語教育について研究している。現在は、これを発展させ、多言語・多文化に開かれた言語教育のあり方、複言語・複文化主義に基づく言語教育について、主にスイスの先進的な取り組みを調査し、研究している。 (キーワード) 言語への気づき、言語意識教育、ELBE、EOLE、自律的学習、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)、ELP(European Language Portfolio)、複言語主義、複文化主義、大学教養英語教育、小学校の外国語活動、カリキュラム開発、CLIL、translanguaging	
所属学会	日本国際理解教育学会 日本言語政策学会 外国語教育学会 大学英語教育学会 異文化間教育学会 Association for Language Awareness 異文化コミュニケーション学会	
受賞歴	平成14年度後学期茨城大学推奨授業表彰 英語ⅡTR	
担当科目	(教養科目) Integrated English IA, Integrated English IB	

平成29年度における研究業績

「第6章 複言語主義に基づく言語教育—スイスの先進的な事例から—」木村哲也編『日本の社会構造の変化と言語教育政策』（仮）ココ出版 pp.240

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 全学的委員会の業務

1. [学生支援センターバリアフリー推進部会、障害学生修学支援員(機構)] (2017年4月～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会、委員] (2017年4月～)

2. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会、AE プランニング・サブ・ディレクター] (2017年4月～2018)

年 3 月 31 日)
3. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、AE I コース・コーディネーター] (2017 年 4 月～2018 年 3 月 31 日)
4. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、IE I サブ・コーディネーター] (2017 年 4 月～2018 年 3 月 31 日)
5. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、クラス分け学習相談担当] (2017 年 4 月～2018 年 3 月 31 日)
6. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、学習支援 English Lounge 学習相談 (IE I、総合英語プレレベル 3) 担当] (2017 年 4 月～)
7. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、教員支援 FD チーフ] (2017 年 4 月～)
8. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、プログラム改革担当] (2017 年 4 月～2018 年 3 月 31 日)
9. [ブラクティカル・イングリッシュ専門部会、書記] (2017 年 4 月～2018 年 3 月 31 日)

共通教育部門	氏名 金光男
---------------	---------------

職名	教授
学位	政治学修士 [早稲田大学]
学歴	上智大学大学院 外国語学研究科 博士課程 国際関係論専攻 [1992 年 03 月単位取得満期退学] 早稲田大学大学院 政治学研究科 修士課程 政治学 [1987 年修了] 早稲田大学 社会科学部 社会科学科 [1980 年卒業]
職歴	早稲田大学アジア研究機構・客員研究員 (2008 年 4 月～2010 年 3 月) オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ大学人文社会科学部客員研究員 (2000 年 4 月～2001 年 3 月) 東京外国語大学外国語学部東南アジア課程非常勤講師 (1997 年 4 月～1999 年 3 月) 茨城大学人文学部助教授 (1994 年 4 月～) 国立インドネシア大学政治社会学部国際関係学科客員講師 (1993 年 2 月～1994 年 2 月) 早稲田大学社会科学研究所インドネシア部会研究協力者 (1988 年 4 月～1992 年 3 月)
専門分野	地域研究 東アジア国際関係史
教育研究概要	授業は、アジア社会論、政治学担当。研究分野は、インドネシア地域研究、アジア日本関係史、朝日関係史の研究。 (キーワード) インドネシア、朝鮮・韓国、日本、国際関係、東アジア地域研究
所属学会	歴史学研究会 韓日民族問題学会 アジア・ヨーロッパ未来学会 茨城大学政経学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) グローバルスタディーズ (専門科目) コース・ゼミナール A, アジア学概論, 専門ゼミナール A (アジア社会論), コース・ゼミナール B, アジア社会論 B/アジア社会論 II, 専門ゼミナール B (アジア社会論) (大学院科目) アジア社会論研究 I, 課題研究演習 I, アジア社会論研究 II, 地域研究・社会学基盤演習, 課題研究演習 II

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等
1. [研究論文 (大学, 研究機関紀要)・単著] 金光男「官営から後藤経営下の高島炭坑に関する一考察」, 茨城大学全学教育機構論集 大学教育研究, 1, 79-95 (2018 年 03 月)

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

○ 学協会での役職

1. アジア・ヨーロッパ未来学会，学会誌『ユーラシア研究』政治・外交分科編集委員（2008年01月～）

共通教育部門

氏名 松坂 晃

職名	教授
学位	体育学修士 [筑波大学]
学歴	筑波大学大学院 体育研究科 修士課程 健康教育学専攻 [1979年修了] 福島大学 教育学部 保健体育専攻 [1977年卒業]
職歴	茨城大学全学教育機構教授（2017年4月～） 茨城大学全学教育機構評議員，大学教育学野大学教育領域長（2017年5月～2019年3月） 茨城大学教育学部茨城大学学生就職支援センター長（2013年4月～2017年3月） 茨城大学教育学部茨城大学教育学部附属特別支援学校長（2009年4月～2012年3月） 茨城大学教育学部教授（2000年4月～2017年3月） 茨城大学教育学部助教授（1996年4月～2000年3月） 茨城大学教養部助教授（1987年4月～1996年3月） 茨城大学教養部講師（1986年4月～1987年3月） 筑波大学体育科学系文部技官（1979年4月～1984年3月）
専門分野	応用健康科学
教育研究 概要	子どもの身体活動，体力運動能力，肥満，および障害児の運動に関する研究 (キーワード)
所属学会	日本体力医学会 日本体育学会 日本特殊教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) 身体活動，健康の科学 (専門科目) 運動処方論，生理学概論，体育科教育法研究，小児健康運動学，子どもの体力と健康，卒業研究（教育：4単位） (大学院科目) 健康生理学特論，養護学総合研究

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学，研究機関紀要)・共著] 松坂晃，上地勝，加藤敏弘，篠田明音，大津展子，中嶋哲也，渡邊將司，吉野聡，勝本真，富樫泰一，日下裕弘「茨城大学学生の体力・運動能力の現状と課題：第1報 20年間の変化および全国平均値との比較」，茨城大学全学教育機構論集，1，33-41（2018年03月）
2. [研究論文(大学，研究機関紀要)・共著] 上地勝，加藤敏弘，松坂晃，篠田明音，大津展子，中嶋哲也，渡邊將司，吉野聡，勝本真，富樫泰一，日下裕弘「茨城大学学生の体力・運動能力の現状と課題：第2報 学部間の比較および経年変化」，茨城大学全学教育機構論集，1，43-51（2018年03月）
3. [研究論文(大学，研究機関紀要)・単著] 松坂 晃「縦断的にみた知的障害児の運動技能発達：体育授業で取り上げられる運動技能の追跡的観察」，茨城大学教育学部紀要（教育科学），67，663-668（2018年01月30日）
4. [研究論文(大学，研究機関紀要)・単著] 松坂 晃「知的障害児の運動技能向上に関する教員の体験的実感：特別支援学校教員を対象とした質問紙調査から」，茨城大学教育学部紀要（教育科学），67，649-662

(2018年01月30日)

5. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・共著] 大久保香梨, 斉藤ふくみ, 松坂晃, 青柳直子「小学生のテクノ不安傾向の実態と学習意欲との関連に関する研究」, 茨城大学教育学部紀要(教育科学), 67, 511-525 (2018年01月30日)
 6. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・共著] 吉野聡, 中嶋哲也, 大津展子, 渡邊將司, 篠田朱音, 上地勝, 加藤敏弘, 勝本真, 富樫泰一, 松坂晃, 日下裕弘「小学校教員養成における体育科教育法の授業設計」, 茨城大学教育学部紀要(教育科学), 67, 299-312 (2018年01月30日)
 7. [研究論文(学術雑誌)・共著【査読あり】] 湯原裕子, 斉藤ふくみ, 松坂晃, 廣原紀恵「保健室頻回入室児童への養護教諭の対応(第1報)成長を感じたエピソードの分析から」, 学校健康相談研究, 14, 1, 62-70 (2017年12月20日)
 8. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・単著] 松坂 晃「知的障害児の運動技能習得に関する研究ー特別支援学校中学部におけるサッカー授業実践からー」, 茨城大学教育実践研究, 36, 323-329 (2017年11月30日)
- 学会発表等
1. [ポスター発表・国内会議(単独)] 松坂 晃「知的障害児の運動技能に関する縦断的研究」第55回日本特殊教育学会(名古屋国際会議場) [2017年09月17日]

平成29年度における社会的活動、地域貢献など

○ 地域協力活動

1. 茨城県教育委員会 [地域貢献事業] 「子どもの運動と健康」『教員免許更新講習』 (2017年08月)
2. 水戸市教育委員会 [学外審議会・委員会等] 「みと好文カレッジ運営審議会委員」 (2016年06月～2018年06月)
3. 東海村教育委員会 [学外審議会・委員会等] 「東海村スポーツ推進計画策定委員」 (2017年05月～2018年03月)

平成29年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費] 基盤研究(C)一般(代表)「知的障害児童生徒の動きの学習習熟度からみた体育学習内容の検討」, 208万円 (2014年04月01日～2018年03月31日)

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1. 人事委員会委員長
2. 心と体の健康専門部会長

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. 評議員(教育研究評議会)

○ その他の校務

1. 年俸制適用教員業績評価専門部会委員
2. 環境報告書作成WG

④ 教員の活動に関する主要データ

共通教育部門		氏名 Frederick Allan Shannon
職名	准教授	
学位	博士 [クイーンズランド大学] 修士 [サザン・クイーンズランド大学] 学部 [サイモンフレーザー大学] ケンブリッジ大学 英語教授法資格 [ケンブリッジ大学]	
学歴	クイーンズランド大学大学院 教育学部 博士課程 教育 (クイーンズランド大学) [2008年01月修了] サザン・クイーンズランド大学大学院 教育学部 修士課程 言語学 (サザン・クイーンズランド大学) [2004年07月修了] サイモンフレーザー大学 犯罪学部 犯罪学部 (カナダ) [1996年07月卒業] ケンブリッジ CELTA 英語教授法資格 [2004年07月卒業]	
職歴	東京電機大学工学部英語系列 任期付教員 (2013年3月まで) 九州大学言語文化研究院 招聘外国人講師 (2012年3月まで)	
専門分野	応用言語学	
教育研究概要	(キーワード) ナチュラルアプローチ, クラッシュェン, SLA モデル, 情意フィルター, インタラクション仮説, インプット仮説, 生得理論, 言語習得装置, モニターモデル, ナチュラルアプローチ, 相互交流仮説, インプット仮説, 生得理論, 意味交渉, 最近接発達の領域 (ZPD)	
所属学会	JALT	
受賞歴		
担当科目	(教養科目) Advanced English IIA, Advanced English IIB, Practical English IIA, Practical English IIB (専門科目) American Ways : Exploring American Life, スピーチコミュニケーション, ESIC I, Cultural Learning through Video, English for Intercultural Communication, 異文化コミュニケーション文献講読, Canadian Studies (大学院科目) L and C in English-speaking countries	

平成 29 年度における研究業績

Shannon, F. (2018). The Strange Death of Europe: Immigration, Identity, Islam

平成 29 年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会・入試などの業務 (機構)

→ Entrance Examination: (1) Review English Department Exam, (2) Grade English Section of Entrance Examination

○ 機構教員としての全学的活動 (教学マネジメント) 等

→ 2017 President's Cup Ibaraki University Speech Contest: Judge of Speech Contest

○ その他の校務

→ Edit Japanese Professor's English research papers in College of Humanities

→ English Training on Wednesdays 1:30 PM ~ 3:50 PM 2018 Spring and Fall Semester

共通教育部門 **氏名 小林 邦彦**

職名	准教授
学位	修士（教育学）〔茨城大学〕
学歴	茨城大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修 修了
職歴	1981年4月～1998年3月 茨城県公立学校教諭 1998年4月～2004年3月 茨城工業高等専門学校人文科学科 助教授 2004年4月～2016年3月 茨城大学人文学部 准教授 2016年4月～現在に至る 茨城大学全学教育機構 准教授
専門分野	異文化コミュニケーション、英語教育学、第二言語習得
教育研究概要	異文化間コミュニケーション理論を外国語教育の入門期から体系的に導入するための「異文化間コミュニケーション・シラバス」の設計及び教授法の研究。心理言語学的プロセスを価値哲学、論理学、様相論理学、発話行為理論から解明する。 (キーワード) 異文化間コミュニケーション理論を外国語教育の入門期から体系的に導入するための「異文化間コミュニケーション・シラバス設計」とその教授法の研究。英語教授法に関して、「コミュニケーション・アプローチ」を機軸として「動機付け理論」、「タスク理論」、「学習ストラテジー」に関する「認知学習理論」、「学習者中心の教授法」等の研究をはじめ、CALL等「教
所属学会	全国語学教育学会 全国英語教育学会 大学英語教育学会 関東甲信越英語教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) Integrated English IIA, Integrated English IIB

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

○ 地域協力活動

1. [地域貢献事業] 「教員免許状更新講習 講師」 (2011年08月～)
2. [地域貢献事業] 「教員免許状更新講習 講師」 (2010年08月～)
3. 「教員免許状更新講習 講師」 (2009年12月～)
4. [地域貢献事業] 「教員免許状更新講習 講師」 (2009年08月～)
5. 「国立茨城工業高等専門学校 英語スピーチコンテスト審査委員長」 (2009年07月～)

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務 (機構)

1. 「CALL 教室専門部会」 [委員] (2010年04月～)
2. 「学生交流事業実施委員」 [日米文化交流委員] (2010年04月～)

○ 全学的委員会の業務

- 「学生交流事業実施委員会」 [日米文化交流委員] (2010年04月～)
「総合英語教育専門部会」 [委員] (2003年04月～)

④ 教員の活動に関する主要データ

共通教育部門	氏名 小西 康文
--------	----------

職名	准教授
学位	博士（物理学）〔京都産業大学〕
学歴	京都産業大学大学院 理学研究科 博士後期課程 物理学専攻〔2010年03月修了〕
職歴	茨城大学大学教育センター准教授（2015年2月～） 埼玉大学大学院理工学研究科研究支援者（2011年4月～2015年1月） 京都産業大学益川塾自然科学系研究員（2010年4月～2011年3月）
専門分野	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	
	（キーワード）
所属学会	日本物理学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）力と運動，微積分学（集中），数学【微分積分Ⅰ】，微積分学入門，微積分学基礎

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

- 〔MISC〕速報，短報，研究ノート等（大学，研究機関紀要）・単著〕小西 康文「電子機器を活用した有効な数学教育への準備」，茨城大学全学教育機構論集，（2018年03月01日）

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

○ 兼業・兼職

- 〔兼業〕一般財団法人 理数教育研究所(Rimse)・Rimse 東京懇談会内調査研究部会研究員（2017年05月～2018年03月）

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

- 「全学教育機構人事委員」（2017年11月～）
- 「全学教育機構点検評価委員」（2017年05月～）
- 「大学教育センター基礎教育運営委員」（2015年02月～2017年03月）

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

- 〔ブラクティカル・イングリッシュのクラス分け補助〕（2017年04月～）
業務内容：名簿および一覧表の作成
- 〔微積分学の統一授業の運営等〕（2017年04月～）
業務内容：取りまとめ
- 〔自然・環境・科学部会のFDの準備と実施〕（2017年04月～）
業務内容：日程調整、司会進行など
- 〔TOEIC一斉テストに関する業務〕（2015年07月～）
業務内容：集計および解析
- 〔RENANDI・クリッカー講習会〕（2015年04月～2017年03月）
業務内容：クリッカーの説明を担当
- 〔情報教育専門部会のFDの補助〕（2015年04月～2017年03月）
業務内容：FDの運営補助

7. [総合英語のクラス分け補助] (2015年04月～2017年03月) 業務内容：名簿および一覧表の作成
8. [微分積分Ⅰの統一授業の運営等] (2015年04月～2017年03月) 業務内容：取りまとめ
9. [基礎教育科目のアンケートの集計] (2015年02月～) 業務内容：取りまとめ
10. [微分積分Ⅱの統一授業の運営等] (2015年02月～2017年03月) 業務内容：取りまとめ
○ その他の校務 → 当該年に該当データなし

共通教育部門	氏名 菊池 武
---------------	----------------

職名	准教授
学位	英語教授法修士 [コロンビア大学大学院ティーチャーズカレッジ]
学歴	コロンビア大学大学院 ティーチャーズカレッジ 修士課程 英語教授法修士課程 [2003年02月卒業] 立教大学 文学部 英米文学科 [1984年03月卒業]
職歴	いわき明星大学人文学部 (2011年4月～2015年3月) 教養学部 (2015年4月～2018年3月) 准教授 (2011年4月～2018年3月) 獨協大学外国語学部英語学科 (2007年4月～2008年3月) 法学部総合政策学科 (2008年4月～2011年3月) 特任講師 (2007年4月～2011年3月) 獨協大学非常勤講師 (2006年4月～2007年3月) 茨城大学非常勤講師 (2003年4月～2011年3月) いわき明星大学非常勤講師 (2003年10月～2011年3月) 茨城県教育委員会教諭 (1984年4月～2003年3月)
専門分野	英語教育
教育研究 概要	第二言語習得研究から得られる様々な知見を、外国語として英語を学ぶ環境においていかに効果的に反映させるか探究する。また、自律的な学習者育成の視点から、発音指導が持つ意義についても考察する。 (キーワード) 英語教育、第二言語習得研究、発音指導、自律学習支援、学習ストラテジー
所属学会	全国語学教育学会、大学英語教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(着任前のため該当なし)

平成30年度着任

共通教育部門		氏名 SCHMIDT=Fajlik Ronald
職名	准教授	
学位	D. Ed. [University of South Africa] M. Ed. [University of Manchester] B. Ed. [University of Toronto] B. F. A. [York University (Toronto)]	
学歴	University of South Africa Didactics 博士課程 (South Africa) [2014年10月] University of Manchester English Language Teaching 修士課程 Master of Education in English Language Teaching (M. Ed. ELT). (England) [2000年修了] University of Toronto 教育学部 (Canada) [1993年卒業] York University 芸術工学部 (Canada) [1991年卒業] Humber College Audio-Visual Production, Television [1986年卒業]	
職歴	4/05-present Ibaraki University. Full-time tenured Associate Professor. 10/00-3/05 Josai International University. Full-time Lecturer. 4/97-3/99 Kyohei Senior High School. English teacher. 4/95-3/97 Honjo Daiichi Senior High School. English teacher. 3/94-4/95 Misugi Junior High School. Assistant English teacher.	
専門分野	English language teaching pedagogy, intercultural communication	
教育研究 概要	Intercultural communication Interpersonal competence Multiple intelligences theory in second language education. Space in visual art. Nonverbal communication. Interpersonal competence. (キーワード) 異文化コミュニケーション 個人教育 視覚文化 コンピュータ支援型言語学習 英語教育	
所属学会		
受賞歴	Best Presentation of Chiba JALT 2003 (2004)	
担当科目	(教養科目) Integrated English IIA, Integrated English IIB (専門科目) ESIC II, Media English, 基礎演習, 専門演習 I (Language Learning), 英語圏の文化と社会, 専門演習 III (Language Learning), ESIC III, ESIC IV, 専門演習 II (Language Learning), Cross-cultural communication, 専門演習 IV (Language Learning), 卒業研究 (人文: 8単位) (大学院科目) Teaching Media English	

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [著書・単著] Ronald Schmidt-Fajlik "Interpersonal Competence in the Learning of the English Language (2017 revision)", CreateSpace, (2018年01月08日)

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

English speech contest judge at Kosen High School in Hitachinaka. Assisted junior high school students in preparing for the 'Interactive English' conversation contest. Gave a presentation to Gakken teachers in Ibaraki on how to use English in the classroom.

平成 29 年度における国際交流活動

Assisted students in preparing for the McGill University exchange programs by giving a presentation about the program and coordinating with organizers in Canada. Arranged for academic international contacts

with overseas universities such as Comenius University in Slovakia.

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

→ Served on the committee to create, revise, and edit questions on the English section of the entrance exam for the Department of Humanities. Proof reading the English entrance exam for the Faculty of Education. Marking the entrance exam for the Department of Humanities.

○ 全学的委員会の業務

→ 当該年に該当データなし

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

→ Provided English conversation practice sessions for students (English conversation training).

○ その他の校務

→ Edited promotional material in English for Ibaraki University.

共通教育部門

氏名 清水 恵美子

職名	准教授
学位	修士（学術） [茨城大学] 博士（学術） [お茶の水女子大学]
学歴	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 国際日本学専攻 [2008年修了] 茨城大学大学院 人文科学研究科 修士課程 文化構造専攻 [2003年修了]
職歴	茨城大学全学教育機構共通教育部門(兼務) (2017年4月～2018年3月) 茨城大学社会連携センター准教授 (2015年2月～2018年3月) 茨城大学五浦美術文化研究所所員 (2015年11月～) お茶の水女子大学生活科学部学部教育研究協力員 (2013年～2015年) お茶の水女子大学お茶大アカデミック・プロダクション特任リサーチフェロー (2011年～2012年) 国士舘大学文学部非常勤講師 (2010年～2015年) 芝浦工業大学工学部非常勤講師 (2010年～2015年) お茶の水女子大学生活科学部非常勤講師 (2010年～2015年) お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター客員研究員 (2009年～) お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科研究院研究員 (2008年～2011年) 茨城大学人文学部・大学共通センター非常勤講師 (2006年～2015年)
専門分野	比較文学比較文化、日本近代美術史
教育研究概要	岡倉天心に関する研究（岡倉の思想と生涯の活動について、晩年の五浦・ボストン往復時代を中心に、美術史、芸術思想史、比較文学比較文化、文化交流史、近代日本史など多角的な領域から研究） 日本美術院、岡倉由三郎、柳宗悦、飯村丈三郎、新納忠之助、日米印の美術交流に関する研究 地域志向教育に関する研究 授業は「茨城学」「5学部混合地域 PBL I」「5学部混合地域 PBL II」を担当

④ 教員の活動に関する主要データ

	(キーワード) 岡倉天心(覚三) 近代美術史 比較文学比較文化 地域史 文化交流史 芸術思想史 地域志向教育 アクティブ・ラーニング PBL
所属学会	明治美術学会 日本フェノロサ学会 文化資源学会 日本比較文学会 明治維新史学会
受賞歴	いばらきデザインセレクション 2017 知事選定 (学術的監修) (2017) 文化庁 平成 24 年度 (第 63 回) 芸術選奨文部科学大臣新人賞 (評論等部門) (2013)
担当科目	(教養科目) 茨城学, 地域志向系科目【茨城学】/茨城学 (基盤教育科目) 茨城学 (全学共通科目) 5 学部混合地域 PBL I, 5 学部混合地域 PBL II, 5 学部混合地域 PBL IA, 5 学部混合地域 PBL IIA

平成 29 年度における研究業績

<p>○ 著書・論文等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [単行本(一般書)・分担執筆] 茨城大学社会連携センター・五浦美術文化研究所「岡倉天心 五浦から世界へ—茨城大学国際岡倉天心シンポジウム 2016」, 思文閣出版, 95-112, 113-126, 131-138, 140-142, 183-198 (2018 年 01 月 25 日) 2. [単行本(学術書)・共著] 近代茨城地域史研究会(佐々木 寛司, 清水 恵美子, 桐原 健真, 木戸 之都子, 皆川 昌三, 天野 真志, 門馬 健, 飯塚 彬, 林 真美)『近世近代移行期の歴史意識・思想・由緒』, 岩田書院, (2017 年 10 月 01 日) 3. [研究論文(学術雑誌)・単著] 清水恵美子「地域志向教育における『5 学部混合地域 PBL』の取り組み: まちづくりと企業経営を学ぶ PBL I・II を中心に」, 『茨城大学全学教育機構論集. 大学教育研究』, 1, 13-23 (2018 年 03 月) 4. [研究論文(学術雑誌)・単著] 清水恵美子「五浦の 10 年を考える—岡倉覚三(天心)と日本美術院の五浦時代」, 『茨城県近現代史研究』, 1, 54-67 (2017 年 04 月) 5. [(MISC) 会議報告等・単著] 清水恵美子「第 14 回天心忌茶会 天心忌茶会に参加して」, 『江戸千家便覧 ひとゝき草』, 129, 29 (2017 年 10 月) 6. [(MISC) 総説・解説(商業誌)・単著] 清水恵美子「岡倉天心とコーヒー」, 『COFFEE JOURNAL』, 66 (2017 年 09 月) <p>○ 学会発表等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [口頭発表(基調)・国際会議(単独)] 清水恵美子「岡倉覚三(天心)の思想と生涯—茨城大学所有 五浦の六角堂を中心に—」ジェンドラル・スディルマン大学 一般講義(インドネシア共和国 ジェンドラル・スディルマン大学) [2017 年 11 月 22 日] 2. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議(単独)] 清水恵美子「洋々無限—岡倉天心・覚三と由三郎」土曜アカデミー新著を語る 岡倉天心セミナー vol. 2 (茨城大学図書館) [2017 年 11 月 18 日] 3. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議(共同)] 藤原貞郎、清水恵美子「世界のなかの Kakuzo Okakura」土曜アカデミー 岡倉天心セミナー vol. 1 (茨城大学図書館ライブラリーホール) [2017 年 07 月 29 日]
--

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

<p>○ 学協会での役職</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ひたちなか市産業活性化戦略会議, 委員長 (2018 年 03 月～) 2. 茨城新聞社創刊 125 周年記念事業みんなで選ぼう!“茨城の宝” いばらきセレクション 125, 選考委員 (2017 年 01 月～2017 年 11 月) <p>○ 学外教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [茨城大学主体の社会教育(公開講座以外)] 県北ジオパーク インタープリター養成講座「茨城県北と日本美術院」, 3 時間, 60 名出席, 県北ジオパーク推進協議会、筑波銀行、県北生涯学習センター(連携)

協定あり)

○ 講演会・シンポジウム

1. 「シンポジウム『飯村丈三郎』」, 題目「飯村常三郎と芸術・文化」, 飯村丈三郎研究会(水戸市) [招待講演, パネリスト] 常陽芸文センター (2017年09月30日)
2. 「天心忌セミナー 講演会(国内)」, 題目「岡倉天心と弟・由三郎—横浜時代をめぐって—」, 五浦日本美術院岡倉天心偉績顕彰会 [招待講演] 五浦観光ホテル別館大観荘 (2017年09月02日)
3. 「石州流茶道水戸何陋会講演会(国内)」, 題目「岡倉天心と飯村丈三郎の茶—『茶の本』と水戸何陋会の茶事—」, 石州流茶道水戸何陋会(水戸市) [招待講演] フェリヴェールサンシャイン 水戸 (2017年07月08日)
4. 「水戸でコーヒーを楽しむ会(国内)」, 題目「岡倉天心はコーヒーを飲んだか?」, 日本コーヒー文化学会・日本コーヒー文化学会茨城支部 [招待講演] 常陽芸文センター (2017年06月25日)

○ 地域協力活動

1. 茨城大学五浦美術文化研究所 [地域貢献事業] 「岡倉天心(覚三)の遺産展 vol.2 五浦の日常と日本美術院」 (2017年11月)

平成29年度における科学研究費補助金などの受領

1. [科研費] 科学研究費補助金(基盤研究(C)) (代表) 「世紀転換期における『日本』の語り—岡倉覚三と岡倉由三郎を中心とした比較文学的研究」 (2015年09月~2018年03月)

平成29年度における国際交流活動

- 1) [教育交流] 「一般講義」 (連携協定あり) [Memorandum of Understanding between Jenderal Soedirman University, Indonesia and Ibaraki University, Japan] ・ジェンドラル・スディルマン大学(インドネシア共和国)
2017年11月~2017年11月 相手方参加者数: 教職員10名、学生150名 本学参加者数: 教職員1名
活動内容: Keynote Speaker "The Life and Ideology of Okakura Kakuzo: The Spirit of Izura Pagoda"

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 全学的委員会の業務

「COC統括機構委員会」 [委員] (2015年02月~)

「COC地域志向教育プログラム委員会」 [委員長] (2017年04月~)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [全学教育機構] (2017年04月~)

業務内容: 共通教育部会 COC地域志向教育プログラム部会長、初年次教育部会(茨城学)

「茨城学」FD・SDの主催 自治体代表者・本学教職員・学生合同開催 (2017年05月10日)

「茨城学」組織的な取り組みの実践 連携10自治体・鹿島アントラーズFC・本学教員との個々の打ち合わせによる講義内容の質の保証、COC/COC+コーディネーター・TA・社会連携センター職員による運営体制の構築

「5学部混合地域PBL I」社会連携による取り組みの実践 連携先(ひたちなか株式会社等)の授業への協力体制の強化

「5学部混合地域PBL II」社会連携による取り組みの実践 連携先(株式会社サザコーヒー等)の授業への協力体制の強化

2. [五浦美術文化研究所] (2016年02月~)

業務内容: 所員

「岡倉天心セミナーvol.1」講師 (2017年7月29日)

④ 教員の活動に関する主要データ

「岡倉天心セミナーvol. 2」講師 (2017年11月18日)
 所蔵作品展「岡倉天心(覚三)の遺産展 vol. 2」企画・監修 (2017年11月10日～26日)
 『岡倉天心 五浦から世界へ 茨城大学国際岡倉天心シンポジウム2016』編集 (2018年1月25日刊)

3. [COC 統括機構 (COC)] (2015年02月～)
 業務内容：COC 統括委員会委員、COC 地域志向教育プログラム委員会委員長 (2017年04月～)

○ その他の校務
 学生支援活動(顧問)

1, COC 企画型地域人材育成プロジェクト「日本一つながる学食プロジェクト」 (2016年04月～)
 茨城県天心記念五浦美術館開館20周年企画展「龍を描く」 (2017年10月25日～11月26日) とコラボレーションし土産品を企画・考案、株式会社坂東太郎の協力により「りゅうなんしえ」として販売

2, COC 企画型地域人材育成プロジェクト「農プロ：現場から学ぶ茨城学～畑で広げる地域の『わ』～」 (2016年04月～)

3, COC 企画型地域人材育成プロジェクト「イバラキカク」 (2017年4月～2018年03月)

4, COC 企画型地域人材育成プロジェクト「ジュニア・エコノミーカレッジ in 水戸」 (2017年04月～2018年03月)

5, 学生地域参画プロジェクトスタートアップ「ひたちなか表町活性化プロジェクト」 (2017年10月～2018年03月)

共通教育部門 **氏名 佐藤 伸也**

職名	准教授
学位	DOCTOR of PHILOSOPHY [サセックス大学]
学歴	サセックス大学大学院 エンジニアリング・インフォマティクス研究科 博士課程 インフォマティクス専攻 [2015年05月修了] 東京理科大学大学院 理工学研究科 博士課程 情報科学専攻 [2002年03月単位取得満期退学] 東京理科大学大学院 理工学研究科 修士課程 情報科学専攻 [1998年03月修了] 東京理科大学 理工学部 情報科学科 [1996年03月卒業]
職歴	茨城大学全学教育機構准教授 (2017年4月～) 茨城大学大学教育センター准教授 (2015年9月～2017年3月) サセックス大学エンジニアリング・インフォマティクス研究科、インフォマティクス専攻准チューター (2014年2月～2014年4月) 姫路獨協大学経済情報学部准教授 (法改正による職名変更) (2007年4月～2012年3月) 姫路獨協大学大学院経済情報研究科准教授 (法改正による職名変更) (2007年4月～2012年3月) ロンドン大学キングスカレッジコンピュータサイエンス学部客員研究員 (2006年9月～2007年8月) 姫路獨協大学大学院経済情報研究科助教授 (2005年4月～2007年3月) 姫路獨協大学経済情報学部助教授 (2004年4月～2007年3月) 姫路獨協大学経済情報学部専任講師 (2002年4月～2004年3月)
専門分野	情報学基礎理論 計算機システム ソフトウェア

<p>教育研究 概要</p>	<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー（前期科目 2 コマ、夏季集中科目）：大学生活・社会人生活を送る上で不可欠な情報処理技術として、情報倫理、メール・ブラウザの活用、及び Office ソフト (Word, Excel, PowerPoint) を利用した情報の整理収集・アウトプット方法の学習を行う。大学内のコンピュータや自身の持つコンピュータを利用した演習を通して、それら技能を習得する。人文社会科学部を対象としたリテラシー教育として適切な教科書が見当たらないため、ほぼすべての授業にて自作のテキストを配布している。1 クラス 72 名という大人数を対象としているため、TA とチームを組みながら受講生のサポートを行っている。 ・計算機科学への招待（後期科目 3Q、4Q）：計算機科学について平易に解説し、特に計算機科学の父とも呼ばれるチューリングに焦点を当てながらコンピュータの動作原理について理解を深めることを目標に実施している。内容は数学的な考察力が必要になるため、テキストをなるべく分かりやすいように作成し、授業内で理解できないところの復習が行えるようにしている。 <p>【研究】</p> <p>インタラクショナルネットという理論的な計算体系を用いて、マルチコア CPU にて自動的に並列実行可能なプログラミング言語の作成を行っている。現在、Python や Standard ML などのインタプリタ言語と同等の実行速度を得ており、並列実行時にはコア数に応じての速度向上が見込めているが、メモリを多用する計算に対しての速度向上率の低さが課題になっている。今後はメモリ利用の最適化に取り組み、さらなる速度向上を考えている。</p> <p>（キーワード）インタラクショナルネット プログラミング言語 形式手法 項（グラフ）書き換え系</p>
<p>所属学会</p>	<p>Association for Computing Machinery</p>
<p>受賞歴</p>	<p>なし</p>
<p>担当科目</p>	<p>（基盤科目）情報リテラシー，（教養科目）情報処理概論，（基盤科目）計算機科学への招待</p>

平成 29 年度における研究業績

<p>佐藤伸也，「授業支援システム RENANDI の利用状況報告」，全学教育機構論集（大学教育研究）．（2018 年 10 月提出、掲載予定）</p>
--

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

<p>2018 年 12 月 15 日，「Keras/Python3 で学ぶ ディープラーニングによる時系列データ解析入門【導入編】」，講師，学習分析学会。</p>
--

平成 29 年度における大学運営・機構運營業務

<p>○ 委員会・入試などの業務（機構）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「点検評価委員会」（2017 年 04 月～） 2. 「総合教育企画部門委員」（2018 年 04 月～） 3. 「機構ウェブタスクフォース」（2018 年 01 月～） <p>○ 全学的委員会の業務</p> <p>「教務情報ポータルシステム専門委員会」（2017 年 04 月～）</p> <p>「情報環境整備専門委員会」（2015 年 09 月～）</p> <p>○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ALC 用サーバー管理]（2016 年 09 月～） 2. [RENANDI 管理運用]（2016 年 09 月～2018 年 03 月）

④ 教員の活動に関する主要データ

○ その他の校務

1. [基盤・教養科目事前申告抽選作業] (2017年02月～)
2. [英語コミュニケーショントレーニング予約サイトの作成・管理・運用] (2016年10月～)
3. [IT基盤センター 教育IT推進部門 部門長] (2016年09月～)

共通教育部門

氏名 上田 敦子

職名	准教授
学位	修士(国際コミュニケーション) [青山学院大学]
学歴	青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 修士課程 国際コミュニケーション [2001年修了] 青山学院大学 文学部 英米文学科 [1985年卒業]
職歴	株式会社公文教育研究会 [1985年～1998年] 茨城大学 [2003年～現在に至る] 常磐大学(非常勤講師として) [1985年～1998年] 放送大学(非常勤講師として) [2015年、2018年～]
専門分野	外国語教育
教育研究概要	●Accuracyが重要視されがちな日本の英語教育の中で、文法的な正確さだけでなく、Fluencyを高める英語教育の研究と実践。多読および多聴を用いた授業の研究。 ●学習スタイル、learning intelligenceについての研究、授業への応用 ●生涯学習としての英語教育、英語学習 (キーワード) 多読、多聴、生涯学習
所属学会	全国語学教育学会 Asia TEFL (アジア英語教育学会)
受賞歴	茨城大学推奨授業 (2005)
担当科目	(教養科目) Integrated English IIA, 総合英語(レベル3), Integrated English IIB

平成29年度における研究業績

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・国際会議(共同)] Atsuko Ueda and Sachiyo Nomura "Enhancing Speech Performance and Boosting Confidence of False Beginner Students" Asia TEFL 2017 (Yogyakarta, Indonesia) [2017年07月15日]

平成29年度における社会的活動、地域貢献など

○ 学協会での役職

1. 日本多読学会, 世話人 (2006年12月～)

平成29年度における科学研究費補助金などの受領

(学内) 平成29年度後期茨城大学女性エンパワーメント支援制度 助成受領

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

→施設予算委員会 委員

入試採点委員

人事選考委員会 委員

共通教育部門 **氏名 山崎 大**

職名	准教授
学位	修士(理学) [東京大学] 博士(理学) [東京大学]
学歴	東京大学大学院 理学系研究科 修士課程 天文学専攻 [2004年03月修了] 東京大学大学院 理学系研究科 博士課程 天文学専攻 [2007年03月修了]
職歴	2004年4月～2006年3月 国立天文台リサーチ・アシスタント 2006年4月～2007年3月 日本学術振興会特別研究員(DC2) 2007年4月～2008年3月 日本学術振興会特別研究員(PD) 2008年4月～2009年3月 国立天文台研究支援員 2009年4月～2011年3月 Postdoctoral Fellow, Academia Sinica, Institute of Astronomy and Astrophysics (Republic of China) 2011年4月～2014年3月 国立天文台研究員 2014年4月～2015年2月 千葉工業大学学習支援センター学習支援員(専任講師相当) 2014年4月～現在に至る 国立天文台特別客員研究員 2015年2月～2017年3月 茨城大学 大学教育センター 准教授 2017年4月～現在に至る 茨城大学 全学教育機構 准教授(所属部署の名称変更)
専門分野	天文学 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究 概要	1. 「研究」 初期宇宙の物理過程に対する原初磁場の影響を研究。特に、相対論的宇宙論と電磁流体力学に対応した、原初磁場の空間分布を数値的に計算するプログラムを開発し、統計的な手法を駆使し、宇宙背景放射と物質密度場に対する原初磁場の影響に関する研究の発展に貢献してきた。最近、観測事実をもとに理論モデルを検証する観測的宇宙論の手法により、原初磁場を考慮したビッグバン元素合成やダークマター候補となるX粒子探索等の素粒子論・原子核理論に関連する研究も行っている 2. 「教育」 物理学と数学の授業について、その成績と授業出席について統計的に調査し、その結果を反映した基礎教育改善のための授業計画の立案、教材・板書ノート・教科書作成、および試験問題作成を行う。また、学習相談の専用窓口で、多くの学生の学習相談に対応しつつ、より多くの学生が気兼ねなく学習相談できる環境の改善を推進してきた。 (キーワード) 宇宙論 宇宙背景放射 原初磁場 大規模構造形成 ビッグバン元素合成
所属学会	日本天文学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) 微積分学, 力学入門, 力学基礎, 物理学【力と運動】/力と運動

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等
1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・単著] 山崎大「2016年度 茨城大学における理系学習相談の教育実践報告」, 茨城大学全学教育機構論集. 大学教育研究, 1, 157-163 (2018年03月)
2. [研究論文(学術雑誌)・共著【査読あり】【依頼/招待】] Takuya Akahori, Hiroyuki Nakanishi, Yoshiaki

④ 教員の活動に関する主要データ

Sofue, Yutaka Fujita, Kiyotomo Ichiki, Shinsuke Ideguchi, Osamu Kameya, Takahiro Kudoh, Yuki Kudoh, Mami Machida, Yoshimitsu Miyashita, Hiroshi Ohno, Takeaki Ozawa, Keitaro Takahashi, Motokazu Takizawa, Dai G. Yamazaki "Cosmic magnetism in centimeter- and meter-wavelength radio astronomy", Publications of the Astronomical Society of Japan, 1-44 (2018年01月)

3. [研究論文(国際会議プロシーディングス)・共著【査読あり】] D. G. Yamazaki, M. Kusakabe, T. Kajino, G. J. Mathews, and M. K. Cheoun "The new BBN model with the photon cooling, X particle, and the primordial magnetic field", JPS Conference Proceedings, 14, 020104 (2017年08月)
4. [研究論文(学術雑誌)・共著【査読あり】【依頼/招待】] Dai G. Yamazaki, Motohiko Kusakabe, Toshitaka Kajino, Grant J. Mathews, Myung-Ki Cheoun. "The new hybrid BBN model with the photon cooling, X particle, and the primordial magnetic field", International Journal of Modern Physics E, 26, 1741006, 1-12 (2017年08月24日)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・国際会議(共同)] Dai G. Yamazaki "CMB weak lensing with a primordial magnetic field" International Symposium on Cosmology and Particle Astrophysics (CosPA) 2017 [2017年12月14日]
2. [ポスター発表・国内会議(単独)] 山崎 大「CMB B mode による原初磁場の制限について」日本天文学会 2017年秋季年会 [2017年09月]

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

1. 「Japan SKA Consortium」(2010年09月～)
2. 「日本天文学会 2017年秋季年会 宇宙論セッション」 「座長」(2017年09月)

平成 29 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費]若手研究(B)(代表)「原初磁場を考慮した複合ビッグバン元素合成モデルの展開」, 416万円 (2016年04月01日～2019年03月31日)

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1. 「全学教育機構 学術委員会」 [委員] (2017年04月～)
2. 「全学教育機構 共通教育部 自然・環境・科学部会」 [部会長] (2017年04月～)
3. 「微分積分の基礎テスト作成協力」 [微分積分の基礎テスト作成協力] (2015年02月～)
4. 「力学の基礎テスト作成・採点・クラス分け」 [力学の基礎テスト作成・採点・クラス分け] (2015年02月～)

○ その他の校務

1. 「科学の基礎質問室」(2017年04月～)
2. 「統一授業 力と運動」「eラーニング作成」「教材作成」「期末試験作成支援」「成績統計」(2015年02月～)
3. 「統一授業 微積分学」「eラーニング作成」「教材作成」「期末試験作成支援」「成績統計」(2017年04月～)
4. 「力学教科書編集委員会」 「委員長」 (2015年02月～)
5. 「教理解析への「微分積分の基礎」編集委員会」 「委員」 (2015年02月～)

共通教育部門 氏名 大森 真

職名	講師
学位	第二言語研究 修士 [ハワイ大学 マノア校]
学歴	<p>ハワイ大学 マノア校大学院 第二言語研究学科 修士課程 第二言語研究 (アメリカ合衆国) [2006年12月修了]</p> <p>ハワイ大学 マノア校大学院 第二言語研究学科 博士課程 第二言語研究 (アメリカ合衆国) [(年不明) その他] (博士課程単位修得後に帰国し、博士論文研究を推進中)</p>
職歴	<p>国立大学法人 茨城大学 全学教育機構 英語専任講師 (常勤) (2017年4月～)</p> <p>国立大学法人 茨城大学 大学教育センター 英語専任講師 (常勤) (2014年4月～2017年3月)</p> <p>非営利団体 アジア太平洋交流センター (Center for Asia Pacific Exchange) (ハワイ大学と提携し、ハワイ州政府に帰属する教育系非営利団体)</p> <p>講師兼カリキュラム専門家 (2011年6月～2012年8月)</p> <p>ハワイ大学マノア校 第二言語研究学科 非常勤講師 [担当講座] 「第二言語習得論」 「第二言語教授法」 「第二言語教授法 読解と作文」 「第二言語教授法 聴解と会話」 (2007年8月～2012年5月)</p> <p>ハワイ大学マノア校 English Language Institute リスニング・スピーキングセクション主任講師 (Lead Teacher) (非常勤) (2007年1月～2007年5月)</p> <p>ハワイ大学マノア校 English Language Institute 非常勤講師 リスニング・スピーキングセクション (中級・上級) 担当 (学部生・大学院生対象) (2006年1月～2006年12月)</p>
専門分野	英語教育
教育研究概要	<p>[教育]</p> <p>Integrated English III-A, III-B コーディネーターとして、H29年度からの新コースである2コースのカリキュラム、教材等作成、並びに運営を行った。</p> <p>Advanced English プランニング・ディレクターとして、H30年度開講の Advanced English III-A, III-B のカリキュラム、教材等作成を行った。</p> <p>PE 部会 FD 委員として、FD の企画運営を行った。H29年度の新しい試みとして、新人教員対象FD、矢嶋教員を招いての学生支援FDを実施した。後者は、部会内FDと全体FDの両方を実施した。</p> <p>English Lounge(英語学習相談)担当として、主として Integrated English III-A, III-B 受講者の学修支援を行った。</p> <p>[教育研究プロジェクト(Action Research Project)] 「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み：パフォーマンス評価におけるループリック開発」 自身がコーディネーターとしてカリキュラム作成・運営し、かつ自らも教えている Integrated English III-A, III-B、並びに習熟度の異なる Integrated English II-A, II-B において、プレゼンテーションとエッセイの詳細なループリックの開発と学生への公表による学修への意識の変化を調査する。プロジェクトリーダーとして、全学教育機構上田教員、矢嶋教員と共同研究を進めている。</p> <p>[研究プロジェクト] 「生徒達の英語に上積みするのを助ける」：英会話交流授業の会話分析 「生徒達の英語に上積みするのを助ける」ことを目的とした英会話交流プログラムを会話分析の手法を用いて分析し、1) 会話パートナー達は、どのようにして「生徒達の英語に上積みするのを助け」ているのか。2) 会話パートナー達は、各々違う手法で「生徒達の英語に上積みするのを助け」、生徒達に多様な会話体験や教育的体験を提供しているか。の2点を明らかにする。</p>

④ 教員の活動に関する主要データ

	(キーワード) (応用) 会話分析、 成員性カテゴリー化分析、 異文化間性の構築、 英語教授法、 ループリック
所属学会	一般社団法人 大学英語教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) Integrated English IIIA, Integrated English IIIB

平成 29 年度における国際交流活動

1) 「国際交流サロンの英語図書整備」
2017 年～ 相手方参加者数： 本学参加者数：

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務 (機構)

1. 「総合英語/PE FD(教員研修)」 (2014 年 04 月～2018 年 03 月)
2. 「総合英語/PE クラス編成委員」 [副委員長(2017-)] (2014 年 04 月～)
3. 「入試採点」 (2017 年～)
4. 「Advanced English Planning Director」 (2017 年 04 月～2018 年 03 月)
5. 「Integrated English III コーディネーター」 (2017 年 04 月～)
6. 「英語学習相談(English Lounge)」 (Integrated English III-A, III-B 担当) (2014 年 4 月～)

共通教育部門

氏名 佐々木 友美

職名	講師
学位	修士 [University of Hawaii at Manoa]
学歴	上智大学大学院 外国語研究科 博士後期課程 言語学専攻 (日本) [2011 年 03 月中退] University of Hawaii at Manoa Department of Second Language Studies 修士課程 English as a Second Language (the U.S.A) [2003 年 05 月修了] 国際基督教大学 教養学部 語学科 (日本) [2000 年 03 月卒業]
職歴	茨城大学全学教育機構講師 (2017 年 4 月～) 茨城大学人文学部講師 (2015 年 10 月～2017 年 3 月) マーケティング・リサーチ企業定性調査部門、リサーチコンサルティング部門リサーチャー、シニアリサーチャー (2011 年 9 月～2015 年 9 月) 亜細亜大学経営学部専任講師 (2009 年 4 月～2011 年 3 月) 防衛大学校総合教育学群外国語教育室助教 (2007 年 10 月～2009 年 3 月) 青山学院大学経営学部兼任講師 (2005 年 4 月～2007 年 9 月) 立教大学全学共通カリキュラム兼任講師 (2004 年 4 月～2007 年 9 月) 多摩大学経営情報学部非常勤講師 (2003 年 4 月～2005 年 3 月)
専門分野	外国語教育
教育研究概要	(キーワード) Second/foreign language education, Language socialization, Sociocultural theory, Qualitative research

所属学会	大学教育学会 大学英語教育学会 言語文化教育研究学会 大学英語教育学会 International Society for Cultural and Activity Research (ISCAR)
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) Integrated English IIA, Integrated English IIB

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ その他の校務

1. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会 部会長] (2017 年 04 月～2018 年 07 月)

共通教育部門

氏名 鈴木 聡子

職名	講師
学位	Ed.D [Temple University, Japan Campus] M.Ed [Temple University, Japan Campus]
学歴	Temple University, Japan Campus Graduate College of Education 修士課程 TESOL [2007 年修了] Temple University, Japan Campus Graduate College of Education 博士課程 Curriculum, Instruction, and Technology [2017 年修了]
職歴	青山学院大学非常勤講師 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) 文教大学非常勤講師 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) 日本大学非常勤講師 (2017 年 4 月～2018 年 3 月) 文教大学非常勤講師 (2009 年 4 月～2016 年 3 月) テンプル大学ジャパンキャンパス生涯教育プログラム非常勤講師 (2009 年 9 月～2011 年 4 月) 青山学院大学非常勤講師 (2007 年 4 月～2016 年 3 月)
専門分野	外国語教育
教育研究概要	音声録音再生ソフトを用いた発音・リスニング・スピーキング指導とその効果の検証 (キーワード) 発音・リスニング・スピーキング・CALL
所属学会	外国語教育メディア学会 (LET)
受賞歴	なし
担当科目	(着任前のため該当しない)

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [学位論文(博士)・単著] "The Effect of Computer-Assisted Oral Reading While Listening on L2 Speaking Fluency", ProQuest No. 10268406 (2017 年 05 月)

平成 30 年度に着任

④ 教員の活動に関する主要データ

共通教育部門		氏名 館 深雪
職名	講師	
学位	教育学部英語教育学科学士[ボブ・ジョーンズ大学] 教育学研究科修士課程心理教育学修士[ボブ・ジョーンズ大学大学院] アーツ・サイエンス研究科修士課程心理教育学専攻言語教育修士[国際基督教大学]	
学歴	国際基督教大学大学院 アーツ・サイエンス研究科修士課程 修士課程 心理教育学専攻言語教育(日本) [2015年03月修了] ボブ・ジョーンズ大学大学院 修士課程 カウンセリング科(アメリカ合衆国) [2000年05月修了] ボブ・ジョーンズ大学 教育学部 英語教育学科(アメリカ合衆国) [1998年05月卒業]	
職歴	茨城大学 全学教育機構講師(2015年2月～) 株式会社ゼウス・エンタープライズバイリンガル・コーディネーター課課長(2008年9月～2013年3月) Calvary Christian Academy(北マリアナ諸島サイパン島) 英語教師(中等部、高等部)(2000年8月～2007年7月)	
専門分野	英語教育、言語教育、カウンセリング	
教育研究概要	コミュニケーション コンペテンスに対するコミュニケーション意欲の影響を調査し、大学英語教育および企業英語使用現場にて取り入れるための方法における研究 (キーワード) コミュニケティブ コンペテンス、コミュニケーション意欲、企業英語	
所属学会		
受賞歴	なし	
担当科目	(教養科目) Integrated English IIIA, 表現・言語系科目, Integrated English IIIB, 表現・言語系科目, 総合英語(学術), 人間とコミュニケーション	

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

<p>○ 委員会・入試などの業務(機構)</p> <p>Global English Program 部会員(2017年4月～)</p> <p>○ 全学的委員会の業務</p> <p>Global English Program 部会員(2017年4月～現在): 実施に向けての計画等</p> <p>○ 機構教員としての全学的活動等</p> <p>コミュニケーション トレーニングの実施: 全学の学生対象の英語会話レッスン 茨城大学 ESS 主催、英語スピーチ学長杯審査員(2016年、2017年)</p> <p>○ その他の校務</p> <p>大学資料の英訳: 授業アンケートやディプロマポリシー等(2015年～2017年)</p>
--

学生支援部門	氏名 小磯 重隆
--------	----------

職名	准教授
学位	修士（法学） [筑波大学]
学歴	金沢大学大学院 社会環境科学研究科 博士後期課程 [（年不明）中退]
職歴	
専門分野	教育社会学
教育研究概要	(キーワード) キャリア教育、労働法、職業能力開発、男女共同参画、地方創生
所属学会	日本キャリア教育学会 日本産業教育学会 日本労働法学会 日本キャリアデザイン学会
受賞歴	日本学術振興会「科研費」 審査委員 表彰 (2016)
担当科目	(教養科目) 公共社会

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [共著] 小磯重隆、菊池美也子、小泉崇人「茨城大学生の合同企業説明会に関する現状と課題」, 茨城大学全学教育機構論集, 大学教育研究第 1, 131-140 (2018 年 03 月)
2. [単著] 小磯 重隆「多人数アクティブラーニング実践モデルの研究」, 茨城大学全学教育機構論集, 大学教育研究第 1, 53-66 (2018 年 03 月)

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

○ 行政機関等での委員就任

1. 「第 1 回「茨城労働局新卒者等就職・採用応援本部」会議及び「茨城県離学者支援協議会」」茨城労働局 職業安定部長

○ 学協会での役職

1. 弘前市総合計画審議会, 弘前市総合計画審議会委員 (2016 年 04 月～2017 年 06 月)
2. 青森県産官学人財育成パートナーシップ協議会, 青森県産官学人財育成パートナーシップ協議会 (副会長) (2016 年 04 月～2017 年 06 月)
3. 弘前市男女共同参画プラン懇話会, 弘前市男女共同参画プラン懇話会 (会長) (2015 年 04 月～2017 年 06 月)

○ 学外教育

1. [その他] 「キャリア形成の基礎 (弘前大学医学部保健学科第 1 回目)」, 2 時間, 200 名出席,
2. [その他] 「キャリア形成の基礎 (弘前大学医学部医学科第 2 回目)」, 2 時間, 110 名出席,
3. [その他] 「キャリア形成の基礎 (弘前大学医学部医学科第 1 回目)」, 2 時間, 110 名出席,
4. [その他] 「キャリア形成の基礎 (弘前大学教育学部第 2 回目)」, 2 時間, 170 名出席,
5. [その他] 「キャリア形成の基礎 (弘前大学教育学部第 1 回目)」, 2 時間, 170 名出席,

○ 地域協力活動

1. 青森県若年者就職支援センター (ジョブカフェあおもり) [地域貢献事業] 「教職員のための「キャリア相談員養成研修 (八戸)」講師」 (2017 年 12 月)
2. 防衛省自衛隊茨城地方協力本部 (2017 年 08 月)
3. 国立大学キャリア支援担当者情報交換会 (2017 年 08 月)
4. 茨城県キャリア支援ネットワーク (2017 年 07 月)

平成 29 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費] 「多人数アクティブラーニング実践モデルの研究」, (2015年04月01日～2018年03月31日)

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1. 「就職支援・キャリア教育推進部会」 [構成員] (2017年07月～)
2. 「全学教育機構 学生支援部門会議」 [構成員] (2017年07月～)
3. 「茨城大学COC統括機構 COC地域共生委員会」 [委員] (2017年07月～)
4. 「茨城大学地元就職推進委員会」 [委員] (2017年04月～)

○ 全学的委員会の業務

- 「社会連携センター地域連携部門会議」 [委員] (2017年07月～)
- 「点検評価委員会」 [委員] (2017年07月～)
- 「教務ポータル専門委員会」 [委員] (2017年07月～)

○ その他の校務

1. [平成 29 年度茨城大学オープンキャンパス] (2017年07月)
業務内容：「保護者のための就職講座」大学と保護者でつくる就職支援 講話「自分の子どもに” どんな就職” をさせたいですか」担当：小磯

学生支援部門

氏名 矢嶋 敬紘

職名	講師
学位	修士（教育学） [茨城大学]
学歴	早稲田大学 人間科学部 [（年不明）卒業] 茨城大学大学院 教育学研究科 修士課程 [（年不明）修了]
職歴	
専門分野	社会福祉学 臨床心理学
教育研究 概要	
	(キーワード)
所属学会	日本心理臨床学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) 健康の科学

平成 29 年度における研究業績

茨大なんでも相談室及びバリアフリー推進室の利用状況と今後の課題 矢嶋敬紘, 額賀沙弥香, 門馬綾, 曾田陽子, 沼田世里, 深谷佳子, 中井川香梨, 西川陽子 -- 茨城大学全学教育機構, 2018-3, 茨城大学全学教育機構論集.

大学教育研究 no.1 p.141-156 紀要論文

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

→ 学生支援部門会議

学生生活支援部会

バリアフリー推進会議

全学教育機構 web サイト開設準備 TF

④ 教員の活動に関する主要データ

国際教育部門		氏名 安 龍洙
職名	教授	
学位	博士（文学）〔東北大学〕	
学歴	東北大学大学院 文学研究科 博士後期課程 言語科学専攻 2000年修了	
職歴	茨城大学留学生センター助教授（2003年4月～2008年3月） 茨城大学留学生センター教授（2008年4月～2017年3月） 茨城大学全学教育機構教授（2017年4月～）	
専門分野	日本語教育	
教育研究概要	日本社会における異文化理解の変容に関する事例研究 日本社会における外国人（①ニューカマー②オールドカマー③その他）と日本人（①外国人との接触頻度の高い日本人②外国人との接触頻度の低い日本人③その他）の異文化理解のあり方及びその変容について PAC 分析法を用いて認知的・情意的な観点から探っている。 (キーワード) 異文化理解、PAC 分析法、外国人と日本人の相互理解、質的研究	
所属学会	国立大学留学生指導研究協議会 アジア・ヨーロッパ未来学会 日本語教育学会 第二言語習得研究会	
受賞歴	なし	
担当科目	(教養科目) 学術日本語 I, 表現・言語系科目 (短期海外研修 I), 多文化共生 (短期海外研修) (専門科目) 日本語教育概論, 日本語教授法演習	

平成 29 年度における研究業績

<p>○ 著書・論文等</p> <ol style="list-style-type: none"> 〔(MISC) 研究発表要旨 (全国大会, その他学術会議)・共著【査読あり】〕太田亨, 安龍洙, 村岡貴子「韓国人理工系学部入学前予備教育生の「論理的文章」に関する意識について—第 18 期日韓プログラム生へのアンケート結果より—」, 第 20 回専門日本語教育学会研究討議会誌, 16, 28-29 (2018 年 03 月) 〔研究論文 (大学, 研究機関紀要)・共著【査読あり】〕松田勇一・安龍洙「日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」, グローバル教育研究, 1, 69-84 (2018 年 02 月) 〔研究論文 (大学, 研究機関紀要)・共著【査読あり】〕石鍋浩・安龍洙「日本社会における英語圏交換留学生の異文化理解に関する一考察」, グローバル教育研究, 1, 57-68 (2018 年 02 月) 〔研究論文 (大学, 研究機関紀要)・共著【査読あり】〕青木香代子・安龍洙「日本社会における東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」, グローバル教育研究, 1, 13-28 (2018 年 02 月) 〔研究論文 (大学, 研究機関紀要)・単著【査読あり】〕安龍洙「東欧出身短期留学生の日本留学観に関する一考察」, グローバル教育研究, 1, 1-12 (2018 年 02 月) <p>○ 学会発表等</p> <ol style="list-style-type: none"> 〔公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議 (単独)〕「国立大学のグローバル化と留学生政策」平成 29 年度 第 7 回日本語学校進路指導研究会セミナー (専門学校東京テクニカルカレッジ 地下講堂) [2018 年 03 月 03 日] 〔ポスター発表・国内会議 (共同)〕「韓国人理工系学部入学前予備教育生の「論理的文章」に関する意識について—第 18 期日韓プログラム生へのアンケート結果より—」第 20 回専門日本語教育学会研究討論会 (名古屋大学 東山キャンパス) [2018 年 03 月 02 日]

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

<p>○ 学協会での役職</p> <ol style="list-style-type: none"> 国立大学留学生指導研究協議会, 代表幹事 (2016 年 07 月～) アジア・ヨーロッパ未来学会, 理事 (2011 年 01 月～) <p>○ 学外教育</p>
--

(韓国) 慶熙大学校にて日韓プログラム予備教育課程 教育参画 (8月)
 (韓国) 仁済大学校学生の学生4名・教員1名を受入れ、特別講義実施 (7月)

○ 地域協力活動

留学生の地域学校への派遣

平成 29 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費] 基盤研究(C) (代表) 「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究(研究代表者)」, (2017年04月01日～2021年03月31日)
2. [科研費] 基盤研究(B) (分担) 「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究(研究分担者)」, (2016年04月01日～2020年03月31日)

平成 29 年度における国際交流活動

- 1) (韓国) 仁済大学校における韓国語研修引率及び現地学生との交流実施 (本学学生参加者10名、8月11日～8月26日)

平成 29 年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会・入試などの業務 (機構)

日本語教育プログラム部会 (2017年04月～)

全学教育機構学生支援部門会議 (2017年04月～)

○ 機構教員としての全学的活動 (教学マネジメント) 等

留学生アンケートの実施

国際教育部門

氏名 八若 壽美子

職名	教授
学位	修士 (人文科学) [お茶の水女子大学]
学歴	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 比較文化学 [(2003年) 単位取得満期退学] お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程日本語文化専攻修了(1997年)
職歴	茨城大学全学教育機構教授 (2017年4月～) 茨城大学留学生センター教授(2006年4月～2017年3月) 茨城大学留学生センター助教授(2001年9月～2006年3月) 立命館アジア太平洋大学専任講師(2000年9月～2001年8月)
専門分野	日本語教育
教育研究概要	1. 教育概要: 外国語(第二言語)としての日本語教育、留学生教育、日本語教師養成 2. 研究概要: 元留学生のライフストーリー・インタビューから留学評価と日本語学習の関連についての研究を進めている。 (キーワード) 外国語(第二言語)としての日本語教育、自律的言語学習、留学評価、ライフストーリー
所属学会	日本語教育学会 ヨーロッパ日本語教師会 日本語文化学研究会
受賞歴	平成 14 年度茨城大学教育研究開発センター推奨授業表彰 (2003)

④ 教員の活動に関する主要データ

担当科目	(基盤教育科目) 学術日本語 IIB, 表現・言語系科目/思想・文学 (専門科目) 多文化社会と日本語教育, 日本語教授法演習 (大学院科目) 日本語表現法 I (日本語研修コース) 日本語レベル1 総合, 日本語レベル3 総合, 日本語レベル3 口頭表現
------	---

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・単著【査読あり】] 八若壽美子「インドネシアで働く元交換留学生のライフストーリーに見る留学評価」, 茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究, 1, 29-43 (2018年02月)

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

○ 地域協力活動

1. 「日本語研修コース受講生ホームステイ」2017年06月02日～2017年06月04日
2. 「日本語研修コース受講生ホームステイ」2017年12月01日～2017年12月03日

平成 29 年度における科学研究費補助金などの受領

1. 科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号 17K02839 研究代表者)「元留学生の留学評価と日本語学習との関連に関する実証的研究」

平成 29 年度における国際交流活動

1. 「アラバマ大学バーミングハム校講師によるセミナー」(アメリカ)2017年06月

平成 29 年度における大学運営・機構運營業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1. 「全学教育機構人事委員会」[委員](2017年11月～)
2. 「多文化理解部会」[委員](2017年04月～)
3. 「日本語教育プログラム部会」[部会長](2017年04月～)

○ その他の校務

1. 外国人留学生支援及びチューター指導に関する業務
 - ・「チューターガイダンス」(2017年04月05日)
 - ・「9月来日留学生サポート隊ガイダンス」(2017年9月20日)
 - ・「4月来日留学生サポート隊ガイダンス」(2018年3月30日)
2. 留学生と日本人学生の交流活動
 - ・「国際交流合宿研修」2017年07月01日～02日
 - ・「留学生・日本人学生協働発表会」2017年7月25日～28日

国際教育部門

氏名 池田 庸子

職名	教授
学位	修士 [ペンシルバニア州立大学]

学歴	ペンシルバニア州立大学大学院 比較文学科 修士課程 比較文学 (M.A) [1993年修了]
職歴	茨城大学留学生センター教授 (2010年4月～) 茨城大学留学生センター助教授 (2002年4月～2010年3月) 関西外国語大学助教授 (1998年4月～2002年3月) 関西外国語大学専任講師 (1993年9月～1998年3月) ペンシルバニア州立大学 TA (1991年9月～1993年8月) イースタンニューメキシコ大学 TA (1990年9月～1991年5月)
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本語教育、教材開発、文学教育、多読教育、留学生に対する質的研究 (キーワード) 日本語教育、教材開発、多読、
所属学会	日本語教育学会 日本語教育方法研究会 留学生教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) 学術日本語Ⅱ/学術日本語ⅡA, 表現・言語系科目/思想・文学, 表現・言語系科目 (短期海外研修Ⅰ) (専門科目) 日本語教授法Ⅱ (日本語研修コース) 多読で学ぶ日本語, 日本語レベル1 (総合), 日本語レベル2 (読み書き), 日本語レベル2 (総合), 日本語レベル3 (総合)

平成 29 年度における研究業績

元留学生のライフストーリーに見る留学評価—研究者夫婦の場合—『茨城大学グローバル教育研究』1, 45-56、2018

平成 29 年度における社会的活動、地域貢献など

留学生の地域学校への派遣

平成 29 年度における科学研究費補助金などの受領

「元留学生の留学評価と日本語学習に関する実証的研究」科学研究費補助金基盤研究(C) (課題番号 17K02839
研究代表者: 八若壽美子)研究分担者

平成 29 年度における国際交流活動

フランスレンヌ第1大学との部局間交流協定締結担当
米国アイダホ州立大学との大学間交流協定締結担当
アラバマ大学バーミングハム校講師によるセミナー

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務 (機構)

1. グローバル化戦略タスクフォース
2. 就職支援・キャリア教育推進部会
3. 全学教育機構予算・施設委員会委員
4. 全学教育機構点検評価委員会
5. 日本語教育プログラム部会員

○ 全学的委員会の業務

「障害学生支援委員会」 (2017年04月～)

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

1. [外国人学生のための進学説明会]（2017年07月）

○ その他の校務

1. グローバル教育センター主任
2. 海外留学説明会実施補佐
3. TOEFL 学内実施企画
4. 日本語研修コース学外研修旅行の企画実施
5. 茨城大学留学生同窓会
6. 日本語研修コース継続性ガイダンス企画実施

国際教育部門

氏名 青木 香代子

職名	講師
学位	教育学博士 [サンフランシスコ大学大学院]
学歴	サンフランシスコ大学大学院 教育学部 博士課程 国際・多文化教育（アメリカ合衆国） [2008年05月修了]
職歴	中央大学文学部事務室嘱託職員（2013年2月～2017年3月） 国際教養大学非常勤講師（2012年6月～2012年7月） 桑港学園日本語学校講師（2008年9月～2012年3月）
専門分野	教育学（多文化教育、異文化間教育、国際理解教育）
教育研究 概要	専門は多文化教育。2016年～2018年にかけて、海外体験学習における参加学生の異文化間能力に関して、日本人性の視点をもとに分析・考察を行った。また、日本における多文化教育について、社会的正義のための教育（social justice education）の観点から研究を進めている。 (キーワード) 批判的教育学、白人性、日本人性、social justice education
所属学会	2004年4月～ 異文化間教育学会 2004年8月～2012年4月 National Association for Multicultural Education 2007年10月～ Comparative and International Education Society 2011年4月～ 日本移民学会 2012年4月～ 日本国際理解教育学会 2018年8月～ 日本教育社会学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) 表現・言語系科目/グローバルスタディーズ (Multicultural Japan, Social Issues in Japan), 人間・文化系科目/多文化共生 (日本語研修コース) 日本語レベル1 (総合), 日本語レベル2 (総合), 日本語レベル3 (総合)

平成 29 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [単行本 (学術書)・単著] 青木香代子「コラム：サンフランシスコ・ベイエリアの在日コリアングループ」河原典史・木下昭編『移民が紡ぐ日本—交錯する文化のはざままで—』, 文理閣, 172-179 (2018年)
2. [研究論文 (学術雑誌)・【査読あり】] 「海外日本語教師アシスタント実習プログラムにおける異文化

- 間能力ー日本人性に着目してー」, 異文化間教育, 47, 35-49 (2018年03月)
3. [共著【査読あり】] 青木香代子、安龍洙「日本社会における東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」, 茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究, 1, 13-27 (2018年02月)
 4. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・【査読あり】] 青木香代子「海外体験学習プログラムを体験した学生はどのように日本、派遣国、自己を見ているかー参加学生の記述に見られた「日本人性」をめぐってー」, 茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究, 1, 105-116 (2018年02月)
- 学会発表等
1. [その他・国内会議(単独)] 特定課題研究「海外日本語教師アシスタント実習プログラムにおける異文化間能力ー日本人性に着目してー」異文化間教育学会 第38回大会 [2017年06月17日]

平成29年度における社会的活動、地域貢献など

- 学協会での役職
1. 異文化間教育学会, 研究委員会 (2016年04月～2018年03月)
- 学外教育
1. [公開講座] 「多文化共生ワークショップ」, 茨城大学
 2. [公開講座] 「ちがいをたのしむー多文化共生へのはじめの一歩」, 平成29年度茨城大学公開講座(私立高校生徒向け)

平成29年度における科学研究費補助金などの受領

- 競争的資金の獲得
1. [科研費] 基盤研究(C)(分担)「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究」, (2017年04月01日～2021年03月31日)

平成29年度における国際交流活動

カナダ・サイモンフレーザー大学の日本語授業履修学生とのオンライン交流

平成29年度における大学運営・機構運営業務

- 委員会・入試などの業務(機構)
- 学術委員会
- 全学的委員会の業務
- ハラスメント委員会
- 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等
- 1. 日本語研修コースコーディネーター
2. 新入留学生個人面談
3. グローバル教育センター国際交流パーティー
4. 日本語研修コース学外研修

国際教育部門

氏名 瀬尾 匡輝

職名

講師

④ 教員の活動に関する主要データ

学位	学士（第二言語としての英語教授法）〔ハワイパシフィック大学〕 学士（宗教学）〔ハワイ大学マノア校〕 修士（第二言語研究）〔ハワイ大学マノア校〕 博士（言語学）〔上智大学〕
学歴	上智大学大学院 外国語学研究科 博士課程 言語学専攻 [2014年03月単位取得満期退学] ハワイ大学マノア校大学院 第二言語研究学科 修士課程（アメリカ合衆国） [2008年12月修了] ハワイ大学マノア校 人文学部 宗教学科（アメリカ合衆国） [2006年08月卒業] ハワイパシフィック大学 国際学部（アメリカ合衆国） [2005年05月卒業]
職歴	茨城大学 講師（2015年4月～） 香港理工大学 専任講師（2012年1月～2015年3月） 香港大学專業進修学院 専任講師（2009年9月～2011年12月） 香港大学專業進修学院 非常勤講師（2009年1月～2009年8月） ハワイパシフィック大学 非常勤講師（2008年1月～2009年1月） コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ 森の池 教務主任（2007年～2008年） コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ 森の池 夏季日本語教師（2005年～2006年）
専門分野	日本語教育 外国語教育 教育社会学
教育研究概要	言語教育（特に日本語教育）、教育社会学を専門としている。これまで海外を拠点に研究を行ってきたため、海外における日本語教育のあり方についての批判的な検討を学習者と教師の視点から試みてきた。 学習者の視点 学習者の動機や動機減退要因を調査していくなかで、余暇活動と消費としての日本語学習の存在を明らかにした。その上で、学習者の視点に立った実践研究を行っている。 教師の視点 海外で働く教師達にインタビューを行った結果から、教師達の対立や孤立感を浮き彫りにした。そして、海外で働く教師のためのオンラインコミュニティを立ち上げ、企画・運営した結果を実践研究という形で報告している。 （キーワード）外国語/第二言語としての日本語教育（JSL/JFL）、批判的応用言語学、グローバルイゼーションと言語教育、実践研究、質的研究、批判的教育
所属学会	大学日本語教員養成課程研究協議会 日本教師教育学会 日本教育工学会 国立大学留学生指導研究協議会 開発教育協会 国際理解教育学会 異文化間教育学会 日本質的心理学会 日本教育社会学会 言語文化教育研究学会 日本語教育方法研究会 カナダ日本語教育振興会 アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会 全国語学教育学会 香港日本語教育研究会 日本語教育学会
受賞歴	The Patricia A. Williams Prize in Education (2005)
担当科目	（日本語研修コース）日本語レベル4（総合） （阿見・日立日本語補習授業）日本語入門，初級日本語 I，初級日本語 II，日本語中級，アカデミック・ジャパニーズ，論文作成，日本語会話，非漢字圏の人のための漢字 （教養科目）表現・言語系科目（Studies in Contemporary Japan），表現・言語系科目（Japanese Pop Culture），多文化共生（短期海外研修 I & II（ブルネイ）），多文化共生（短期海外研修 I & II（マレーシア）） （専門科目）日本語教授法 I

平成 29 年度における研究業績

<p>○ 著書・論文等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [単行本（一般書）・編者] 瀬尾 匡輝「ブルネイに行ってきた！ーブルネイ・ダルサラーム大学短期英語研修体験談ー」，茨城大学グローバル教育センター（2018年01月09日） 2. [研究論文（大学，研究機関紀要）・単著【査読あり】] 瀬尾匡輝「海外で働く日本語教師の実践の再構築ーグローバルナレッジとローカルナレッジに着目してー」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育
--

研究, 1, 85-104 (2018年02月)

3. [研究論文(学術雑誌)・単著【査読あり】] 瀬尾匡輝「コミュニティと関わり、コミュニティに働きかけるプロジェクト活動—留学生と日本人学生がともに学ぶ授業実践から—」, イマ×ココ, 5, 36-41 (2017年12月27日)
4. [学位論文(博士)・単著【査読あり】] 瀬尾匡輝「言語教育実践のグローバル化—海外で働く日本語教師のケース・スタディ」, 上智大学大学院博士論文, (2017年09月20日)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(一般)・国内会議(共同)] 瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「映像を用いた実践共有の可能性—日本語中級学習者を対象としたプロジェクト活動をもとに—」言語文化教育研究会第4回年次大会(立命館大学) [2018年03月11日]
2. [ポスター発表・国内会議(単独)] 瀬尾匡輝「言語教育の商品化の議論へ向けた新たな視座—新自由主義に関する先行研究の文献レビューから—」言語文化教育研究会第4回年次大会(立命館大学) [2018年03月11日]
3. [その他・国内会議(共同)] 言語文化教育研究会研究集会実行委員会「2017年度言語文化教育研究会研究集会「クリティカルとは何か」【ビデオ上映会】」言語文化教育研究会第4回年次大会(立命館大学) [2018年03月11日]
4. [ポスター発表・国内会議(単独)] 瀬尾匡輝「グローバルな実践の再構築—海外で働く日本語教師のケース・スタディから—」協働実践研究会第13回研究会(早稲田大学) [2017年12月02日]
5. [口頭発表(招待・特別)・国内会議(単独)] 瀬尾匡輝「海外で働く日本語教師の実践の構築/再構築—言語教育実践のグローバル化の視点から—」上智大学英語教員研究会 第208回例会(上智大学) [2017年10月21日]
6. [口頭発表(一般)・国内会議(単独)] 瀬尾匡輝「「文法を重視する」という教師の日本語教育の考え方はどのように作り出されているのか—言語教育のローカル化の視点から—」異文化間教育学会第38回大会(東北大学) [2017年06月17日]
7. [口頭発表(一般)・国内会議] 瀬尾匡輝「英語によるコンテンツ授業で受講生達は何を学んだのか—留学生と日本人学生がともに学ぶ授業実践—」日本国際理解教育学会第27回研究大会(筑波大学) [2017年06月03日]

平成29年度における社会的活動、地域貢献など

○ 兼業・兼職

1. [兼業] 香港大学専業進修学院・外部評価員(2017年02月～)
2. [非常勤講師] 常磐大学・非常勤講師, 6(時間/月)(2016年04月～2018年03月)

○ 学協会での役職

1. 日本語教育学会, 開会式典サポーター(2017年02月～2017年05月)
2. 言語文化教育研究会, 研究集会実行委員長(2016年～)
3. 言語文化教育研究会, 事務局長補佐(2015年～)
4. 言語文化教育研究会, 研究集会実行委員(2014年～)
5. 言語文化教育研究会, 理事(2014年～)

○ 学外教育

1. [公開講座] 「多文化共生ワークショップ」, 2時間, 3名出席,
2. [公開講座] 「ちがいをたのしむ—多文化共生へのはじめの一步—」, 3時間, 3名出席, 平成29年度茨城大学公開講座(私立高校生徒向け)
3. [その他] 「日本研究「日本のポップカルチャー」」, 23時間, 13名出席, 常磐大学
4. [出前授業] 「外国語として日本語を教えてみよう!」, 2時間, 35名出席, 茨城県立伊那高等学校「ブレカレッジ」

○ 地域協力活動

④ 教員の活動に関する主要データ

1. 香港大学専業進修学院 [学外審議会・委員会等] 「香港大学専業進修学院 外部評価員」 (2017年～)
2. [地域貢献事業] 「阿見町国際交流協会 ホームステイ委員会委員」 (2015年05月～)

平成29年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費] 平成29年度 若手研究(B) (代表) 「言語学習の「商品化」と「消費」の包括的な理解を目指した調査研究」, 403万円 (2017年04月01日～2020年03月31日)

平成29年度における国際交流活動

- 1) [教育交流] 「マレーシア短期英語語学研修」 (連携協定あり) ・マレーシア科学大学 (マレーシア)
2018年03月～2018年03月 相手方参加者数: 教員6名/学生15名 本学参加者数: 教員1名/学生5名
- 2) [教育交流] 「ウィスコンシン州立大学スペリオール校との授業交流」 (連携協定あり) ・ウィスコンシン州立大学スペリオール校 (アメリカ合衆国)
2017年12月～2017年12月 相手方参加者数: 教員1名/学生20名 本学参加者数: 教員1名/学生11名
- 3) [教育交流] 「ブルネイ・ダルサラーム大学の学生との授業交流」 (連携協定あり) ・ブルネイ・ダルサラーム大学 (ブルネイ・ダルサラーム国)
2017年10月～2017年10月 相手方参加者数: 教員1名/学生18名 本学参加者数: 教員1名/学生11名
- 4) [教育交流] 「ブルネイ短期英語語学研修」 (連携協定あり) ・ブルネイ・ダルサラーム大学 (ブルネイ・ダルサラーム国)
2017年08月～2017年09月 相手方参加者数: 教員3名/学生20名 本学参加者数: 教員1名/学生14名

平成29年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務 (機構)

→ 日本語教育プログラム部会, グローバル英語教育プログラム部会, 英語教育検討タスクフォース, 全学教育機構ウェブサイト開設タスクフォース

○ 機構教員としての全学的活動 (教学マネジメント) 等

→ 阿見・日立日本語補習授業 コーディネーター, 阿見キャンパス留学交流室チューターの支援, グローバル教育センターホームページ及びFacebook ページの管理, 留学生アンケートの実施, 阿見・水戸キャンパス留学交流室チューター交流会の実施, 学生交流促進のためのワークショップの実施, 工学部新2年留学生と日立キャンパス交流室チューターの交流会の実施, 留学生・日本人学生協働発表会の実施, 阿見キャンパスの留学生家族の生活支援

○ その他の校務

→ 茨朋会幹事

国際教育部門

氏名 塚田 純

職名	助教
学位	修士 (メディア・コミュニケーション) [Mittuniversitetet] 博士 (学術) [東北大学]
学歴	Mittuniversitetet 大学院 Department of Media and Communication Science 修士課程 Political Communication (スウェーデン) [(年不明) 修了]

	東北大学大学院 情報科学研究科 博士課程 人間社会情報科学専攻メディア情報学講座メディア文化論（日本）〔（年不明）修了〕
職歴	
専門分野	
教育研究概要	(キーワード) Political Communication, Constructive Journalism, Solution Journalism, Mediated Citizenship, Journalism, Democratic Citizenship, Democracy, Democratizing Potential of the Internet, Media Literacy, Normative Theories of the Media
所属学会	
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目) 人間とコミュニケーション, グローバルスタディーズ, メディア文化, グローバルスタディーズ, メディア文化, グローバルスタディーズ

平成 29 年度における研究業績

<p>○ 著書・論文等</p> <p>1. 〔研究論文(学術雑誌)・単著【査読あり】〕Jun Tsukada “Survivors of the Great Eastern Japan Earthquake and Their Detachment from the Media”, Japan Association of Comparative Culture, (2017年12月)</p> <p>○ 学会発表等</p> <p>1. 〔・国際会議(単独)〕 “Mediated Citizenship: Examining the Tokyo Big Three Newspapers Depiction of Citizens During Japan’s Postwar Independence and Commencement as a Democracy” The Asian Conference on Social Sciences [2017年06月]</p>

平成 29 年度における大学運営・機構運営業務

<p>○ 全学的委員会の業務</p> <p>「AIMS 部会」(年度不詳)</p> <p>「グローバル イングリッシュ プログラム (GEP) 部会」(年度不詳)</p> <p>○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等</p> <p>1. 〔AIMS Program 部会員〕(年度不詳)</p> <p>2. 〔Global English Program (GEP) 部会員〕(年度不詳)</p>

⑦ 別紙資料リスト

① 関連

< 共通教育部門 >

資料 1-31 平成 29 年度 学生授業アンケート及び教員自己点検等実施要項

② 関連

< 共通教育部門 >

資料 2-31_茨城新聞 (20170912 PBL)

資料 2-32_深堀りカフェポスター

資料 2-33_2017 海外留学説明会ポスター2

資料 2-34_2017 国際交流合宿ポスター4.20

資料 2-35_【チラシ】 20170708 業界研究&インターンシップマッチングフェア

資料 2-36_インターンシップセミナーチラシ

資料 2-37_カサマロンポスター

< 学生支援部門 >

資料 2-51_【資料 その他-1】 資料 その他-1 はばたく茨大生報告書

資料 2-52_【資料 その他-2】 H29 ICAS はばたくポスター展示 web

資料 2-53_【資料 その他-3】 2017 前期 学生懇談会実施報告

資料 2-54_【資料 その他-4】 2017 後期 学長と学生の懇談会実施報告書

資料 2-55_【資料 その他-5】 2017 学長と理学部代表学生との懇談会 報告書

< 国際教育部門 >

資料 2-71_UBD との交流会

資料 2-72_日立 水戸 チューター留学生交流会 チラシ

資料 2-73_AIMS プログラム 学生交流促進のためのワークショップ

資料 2-74_2017.sem1 発表会ポスター_revised

資料 2-75_2017 海外留学説明会ポスターpdf

資料 2-76_2017 学生国際会議

資料 2-77_2017 年度 留学サロン (案)

資料 2-78_VCS Course Poster_2017 前期

資料 2-79_VCS Course Poster_2017 後期

資料 2-80_Ami Japanese Chatting Session

平成31年1月23日
全学教育機構 点検評価委員会